

(2) 選舉人名簿

選舉人名簿トハ、選舉人ヲ登録シタル帳簿ナリ。市町村長ハ毎年十月一日ノ現在ニヨリ、其ノ市町村内ニ住所ヲ有スルモノ、選舉資格ヲ調査シテ選舉人名簿ヲ調製ス。此ノ名簿ニハ選舉人ノ氏名、官位、職業、身分、住所、生年月、納稅額及ビ納稅地等ヲ記載ス。

郡長市町村長ハ十一月五日ヨリ十五日間、其ノ廳又ハ地方長官ノ許可ヲ得タル場所ニ於テ、選舉人名簿ヲ縦覽ニ供スルコトヲ要ス。選舉人ガ選舉人名簿ニ、脱漏又ハ誤載アルコトヲ發見シタルトキハ、其ノ理由書及ビ證據ヲ具ヘテ、縦覽期限内ニ其ノ訂正ヲ郡市長ニ申立ツルコトヲ得。郡市長カ以上ノ申立ヲ受ケタルトキハ、其ノ理由及ビ證據ヲ調査シ、申立ヲ受ケタル日ヨリ、二十日以内ニ之ヲ決定スベシ。其ノ申立ヲ正當ナリト決定シタルトキハ、直ニ名簿ヲ改正シ、其ノ旨ヲ申立人及ビ關係人ニ通知シ、併セテ其ノ要領ヲ告知スベシ。其ノ申立ヲ正當ナラズト決シタルトキハ、之レヲ申立人ニ通知スベキモノトス。此ノ郡市長ノ決定ニ不服アル申立人及ビ關係人ハ、郡市長ヲ被告トシテ、決定ノ通知ヲ受ケタル日

(3) 投票

(イ) 投票手續

ヨリ七日以内ニ、地方裁判所ニ出訴スルコトヲ得。此ノ判決ニ對シテハ大審院ニ上告スルコトヲ得レドモ、控訴スルコトヲ得ズ。

選舉人名簿ハ十二月二十日ヲ以テ確定ス。此ノ確定名簿ニ登録セラレザル者ハ、假令事實ニ於テ資格アルモ投票權ナシ。之レニ反シテ假令確定名簿ニ登録セラレタル者ト雖モ、事實選舉資格ヲ有セザル者ハ投票權ナシ。此ノ確定名簿ハ確定判決ニ依ルノ外ハ、修正スルコトヲ得ズ。

總選舉ノ期日ハ勅令ヲ以テ之レヲ定メ、少ナクトモ三十日前ニ之レヲ公布ス。選舉ハ投票ニヨリテ之レヲ行フ。我が現行ノ主義ハ直接選舉ニシテ、投票ハ一人一票ニ限ル。投票トハ選舉人ガ被選舉人ノ姓名ヲ記シテ、之レヲ投票箱ニ投入スルノ行爲ナリ。投票用紙ハ選舉ノ當日投票所ニテ之レヲ交付ス。

(ロ) 投票原則

我が制度上投票ニ關スル主ナル原則ハ次ノ如シ。(一)一人一票ニ限

無効投票

ル。(二)投票ハ自ラ行フベキモノナリ。(三)被選人ノ名ヲ自ラ記サザルベカラズ。コレ教育ノ程度低キ無筆ナル者ノ投票ヲ制限スルニ在リ。(四)一定ノ投票用紙ヲ用ヒザルベカラス。(五)投票ハ投票所ニテ行フヲ要ス。(六)選舉人名簿ニ記載セラレザル者ハ名簿ニ記載サルベキ確定判決書ヲ所持スル者ノ外投票スルヲ得ズ。

(ハ)無効投票

現行法規規定ノ無効投票ハ次ノ如シ。(一)成規ノ用紙ヲ用ヒザルモノ

(二)一投票中二人以上ノ選舉人ヲ記載セルモノ。(三)被選舉人ノ何人タルカヲ確認シ難キモノ。(四)被選舉權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ。

(五)被選舉人ノ氏名ノ外他事ヲ記載シタルモノ。(但シ官位職業身分住所又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ限ニアラズ)

(ニ)投票ノ種類

投票ノ種類ヲ大別シテ二トス。一ハ單記投票ト連記投票ニシテ、二ハ無記名投票ト記名投票ナリ。左ニ之レヲ述ブベシ。

單記投票ト連記投票ト

投票ノ種類

人ノ被選舉人ヲ投票スルヲ云フ。連記投票トハ一人ノ選舉人ガ選舉區内議員ノ全數ノ被選人ヲ投票スルヲ云フ。連記投票ハ唯リ多數ヲ占ムル政黨ニノミ、代表者ヲ出スコトヲ得セシメ、少數政黨ヨリ一人モ代表者ヲ出スコト能ハザラシムルノ結果ヲ生ズル者ニシテ、選舉ノ趣旨タル全國民ヲ議會ニ普ク代表セシメ、所謂之レヲ以テ國民ノ縮圖タラシムル所以ニ反ス。而シテ多數專制ノ弊ヲ生ズ。之レニ反シテ單記投票ハ、多數黨少數黨皆其ノ割合ニ應ジテ、代表者ヲ出スコトヲ得ルヲ以テ適當ナリトス。故ニ我ガ現行法ハ、單記投票制ヲ採用ス。

無記名投票トハ投票用紙ニ、被選舉人ノ氏名ノミヲ記載シ、選舉人ノ氏名ヲ記載セシメザルヲ云フ。又秘密投票ト云フ。記名投票トハ投票用紙ニ、選舉人及ビ被選舉人雙方ノ氏名ヲ記載セシムルヲ云フ。理論上ヨリスルトキハ、選舉ハ記名投票ニ依ルヲ可トス。何トナレバ選舉人ハ十分ノ責任ヲ以テ、公義務タル選舉ヲ行フノミナラズ、其ノ投票正確ニシテ有效無効ヲ審査スルニモ便利ナレバナリ。然レドモ選舉人ノ德義、及ビ政治思想ノ程度低キ社會ニ於テハ、賄賂ノ爲メ脅迫ノ爲

無記名投票ト記名投票

當選證書

選舉訴訟及
當選訴訟

當選ノ告知ヲ受ケタル者ハ其ノ日ヨリ二十日以内ニ當選ヲ承諾スルヤ否ヤニツキ選舉長ニ届出ヲナサザルベカラズ。其ノ届出ヲナサザルトキハ當選ヲ辭シタルモノト看做ス。又當選人ハ一人ニテ數選舉區ノ當選ヲ承諾スルコトヲ得ズ。當選人ナキトキハ地方長官ハ選舉ノ期日ヲ定メ更ニ選舉ヲ行ハシムルモノトス。當選人ガ當選ヲ承諾シタルトキハ地方長官ハ直ニ當選證書ヲ付與シ其ノ氏名ヲ管内ニ告知シ且内務大臣ニ報告スルモノトス。

(5) 選舉訴訟及當選訴訟

選舉訴訟トハ選舉ノ效力選舉規定ノ違背及ビ投票ノ有效無効等ヲ云フニ關シ異議アル選舉人ハ選舉長ヲ被告トシ選舉ノ日ヨリ三十日以内ニ控訴院ニ出訴スルコトヲ云フ。而シテ控訴院ノ判決ニ不服アル者ハ大審院ニ上告スルコトヲ得ベシ。コノ選舉訴訟ハ選舉全體ヲ無効トスルノ目的ナリ。

當選訴訟ハ選舉訴訟ノ如ク選舉全體ヲ無効トナスノ目的ニアラズシテ唯自己ガ當選者ナルコトヲ出訴スルヲ云フ。即チ當選ヲ失ヒタル者

裁判所

直接選舉ト

間接選舉ノ
利弊

當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ當選人ヲ被告トシ當選人氏名告示ノ日ヨリ三十日以内ニ當選訴訟ヲ控訴院ニ提出スルコトヲ得。若シ當選ニ必要ナル得票定數ニ達シタリトノ理由ニヨリ出訴スルトキハ選舉長ヲ被告トシ再選舉告示ノ日ヨリ三十日以内ニ控訴院ニ出訴スルコトヲ得。而シテ其ノ判決ニ不服ナルトキハ大審院ニ上告スルヲ得ルナリ。以上ノ裁判所ハ選舉ノ規定ニ違背スルガタメ當選人ノ結果ニ異動ヲ及ボス虞アル場合ニ限り其ノ選舉ノ全部若クハ一部ノ無効ヲ判決スベキモノニシテ其ノ裁判ヲナス場合ニハ檢事ヲシテ口頭辯論ニ立會シムルコトヲ得。又判決ノ謄本ハ之レヲ内務大臣ニ送附シ若シ議會開會中ノ時ハ併セテ衆議院議長ニ送付スベシ。

備考

(1) 直接選舉ト間接選舉

直接選舉トハ國民ガ直接ニ議員ヲ選舉スル制ニシテ間接選舉トハ國民ガ先ヅ議員ノ選定人ヲ選舉シ更ニ其ノ選定人ヲシテ議員ヲ選舉セシムルノ制ナリ。間接選舉ノ利益トスル所ハ多數ノモノハ獨立ノ識見ナ

ク且其ノ意志モ強固ナラザルニヨリ、少數ノ鑑識力ヲ有スル選定人ヲシテ、議員ヲ選舉セシムルヲ以テ、選舉ヲ慎重ナラシメ、適任ノ良才ヲ得ルト云フニアリ。然レドモ實際ニ於テハ、希望ノ如クナルヲ得ズ。即チ間接選舉ニヨルトキハ、(一)一般國民ヲシテ選舉ニ冷淡ナラシメ、棄權者ヲ多クス。(二)一般國民ノ希望ニ副ハザル者ヲ議員ニ出ス。(三)形式ニ流レ手續ヲ煩雜ナラシムル等ノ嫌アリ。故ニ直接選舉法ヲ優レリトス。我が國法ハ直接選舉ノ方法ヲ採レリ。

(2) 制限選舉ト普通選舉

普通選舉制及ビ制限選舉制ノ何レヲ採用スル國ニ於テモ、軍人、女子、弱年者、瘋癲、白痴、禁治產者、破產者、公權剝奪者、若クハ停止中ノ者、公ノ救助ヲ受クル者ニハ、選舉權ヲ與ヘザルヲ常トス。此ノ兩種異ル所ハ、普通選舉ニ於テハ、右列記以外ノ國民ニ平等ニ選舉權ヲ與フルモ、制限選舉ニ於テハ、其ノ他ニ尙ホ財産上、納稅上、教育上等ノ資格ヲ定メ之レヲ具備セザル者ニハ、選舉權ヲ與ヘザルニアリ。

普通選舉ノ利トスル所ハ、(一)公選ノ主旨ニ適ス。(二)國民ノ公共心ヲ養

成ス。(三)多數ノ貧民ガ少數人ノ犠牲トナルヲ防グコトナリ。其ノ弊トスル所ハ、(一)多數ノ無識者ニ選舉權ヲ與フルヲ以テ、選舉運動ニ巧ナル者勝利ヲ得ルコトアリ。(二)多數貧民ニ選舉權ヲ與フルヲ以テ、賄賂又ハ誘惑行ハレ且貧民候補者ノ多數當選スルコト、ナル。(三)識見アル少數者ヲシテ多數無識者ノ爲メニ壓セラル、結果ヲ來スコトアリ。現今此ノ普通選舉制ヲ採ル國ハ、獨逸、帝國、佛蘭西、西班牙、丁抹、那威、希臘、瑞西、合衆國ノ大部分等ナリ。

制限選舉ニ於テ、財産上ノ制限ヲ設クルハ、恒産アル者ハ恒心アリ、又財産所有者ハ、教育ヲ受ケタルモノナリトノ推想ニ基ヅクモノナリ。又納稅者ハ、國費負擔ノ點ニ於テ利害ヲ感ズルコト多キニヨリ、選舉ニ就テ冷々看過スルコトナカルベシト云フニアリ。次ニ教育上ノ資格ニ制限ヲ加フルハ、自己ノ學識才幹ヲ以テ、適良ナル議員ヲ選出セシメントスルニアリ。要スルニ普通選舉ハ、前述ノ如ク弊多キヲ以テ、制限選舉ヲ採用スルヲ可トス。但シ、財産納稅、教育等ノ制限資格ハ、高キニ過ギズ、又低キニ失セズ、其ノ中庸ヲ取ラザルベカラザルモノトス。我が國ノ制ハ、制限選

舉ナレドモ財産納税ノ資格ノミナレバ之レニ教育資格ヲ加ヘ一定ノ教育ヲ受ケタル者ハ其ノ納税ノ有無財産ノ如何ニ拘ハラズ選舉權ヲ與フルモノトセバ適當ナラント信ズルナリ。匈加利瑞典ルクセンブルグニ於テハ財産上ノ資格ヲ要件トシ普魯西巴威里索遜等ハ納税上ノ資格ヲ要件トシ伊太利匈加利葡萄牙ニテハ教育上ノ資格ヲ要件トセリ。

(3) 小選舉區制ト大選舉區制

選舉區ヲ定ムルニ當リ區域ノ大小ニ從ヒテ二種トス。小選舉區制トハ一區内ヨリ一名ノ議員ヲ出スベキ限度ヲ以テ區域ヲ定ムルナリ。大選舉區制トハ一區域内ヨリ數名ノ議員ヲ出シ得ベキ範圍ヲ以テ區域ヲ定ムルモノナリ。

大選舉區制ハ投票調査ノ手續ヲ煩雜ニ爲サシムルノミナラズ一人ノ議員ニ缺員ヲ生ズルモ大ナル全選舉區民ヲシテ投票セシメザルベカラザル缺點アリト雖モ小選舉區制ヲ採ルトキハ議員トシテ適材ヲ得ルコト困難ナルノミナラズ賄賂脅迫等ノ不正ナル結果ヲ生ジ易キニヨリ比較的大選舉區ヲ以テ優レリトス。我が國ニ於テモ舊選舉法ニ於テハ數

小選舉區制
ト大選舉區制

大小選舉區
制ノ比較

衆議院議員
細別

郡或ハ都市ヲ合シテ一區一名ヲ以テ原則トセル小選舉區制ナリシガ現行法ハ府縣ヲ以テ選舉區ト爲スヲ原則トシ例外トシテ市及ビ島嶼ヲ獨立ノ選舉區トセル大選舉區制ナリ。現今大選舉區制ヲ採用セル國ハ白耳義ルクセンブルグ瑞西那威瑞典普魯西等ニシテ小選舉區制ヲ採用セル國ハ合衆國英吉利和蘭伊太利獨逸帝國巴威里等ナリ。

(4) 衆議院議員細別

(イ) 明治四十二年第十回總選舉ニヨリ選出セラレタル衆議院族稱別ニヨレバ華族一名 士族百〇七名 平民二百七十一名ニシテ合計三百七十九名ナリ。

(ロ) 同第十回選出ノ衆議員職業別ニヨレバ農業百〇五名。辯護士六十四名 商業三十三名。會社員二十名。新聞雜誌記者十七名 文官八名 雜業八名 鑛業六名 銀行員七名 醫業六名 漁業三名 印刷業學校講師宿屋業移民取扱業水產業各二名 釀造業學校長著述業藥劑師各一名。無職業八十八名ナリ。

(ハ) 同第十回選出明治四十二年十二月第二十五議會召集當日各黨派ヨリ

衆議院ニ届出デタル所屬別ニヨレバ政友會百九十二名 進歩黨六十六名 又新會四十五名 戊申派四十二名 大同派三十名 無所屬四名ナリ。

(5) 衆議院正副議長

- (イ) 第一回ヨリ第二十五回ニ至ル議長左ノ如シ。
- 第一、二回 中島信行
 - 第三、四回 星亨
 - 第五回ヨリ九回 迄 楠本正隆
 - 第十、十一回 鳩山和夫
 - 第十一回ヨリ十八回 迄 片岡健吉
 - 第十九回 河野廣中
 - 第二十回ヨリ二十二回 迄 松田正久
 - 第二十三、四回 杉田定一
 - 第二十五回 長谷場純孝
- (ロ) 第一回ヨリ第二十五回ニ至ル副議長左ノ如シ。
- 第一、二回 津田真道
 - 第三、四回 曾彌荒助
 - 第五回 楠本正隆
 - 第六回 片岡健吉
 - 第七回ヨリ十一回 迄 島田三郎
 - 第十二回ヨリ第十七回 迄 元田肇
 - 第十八、九回 杉田定一
 - 第二十回ヨリ二十四回 迄 箕浦勝人
 - 第二十五回 肥塚龍

(6) 衆議院議員選舉人名簿樣式及投票函

(表紙)

何年何月何日現在調

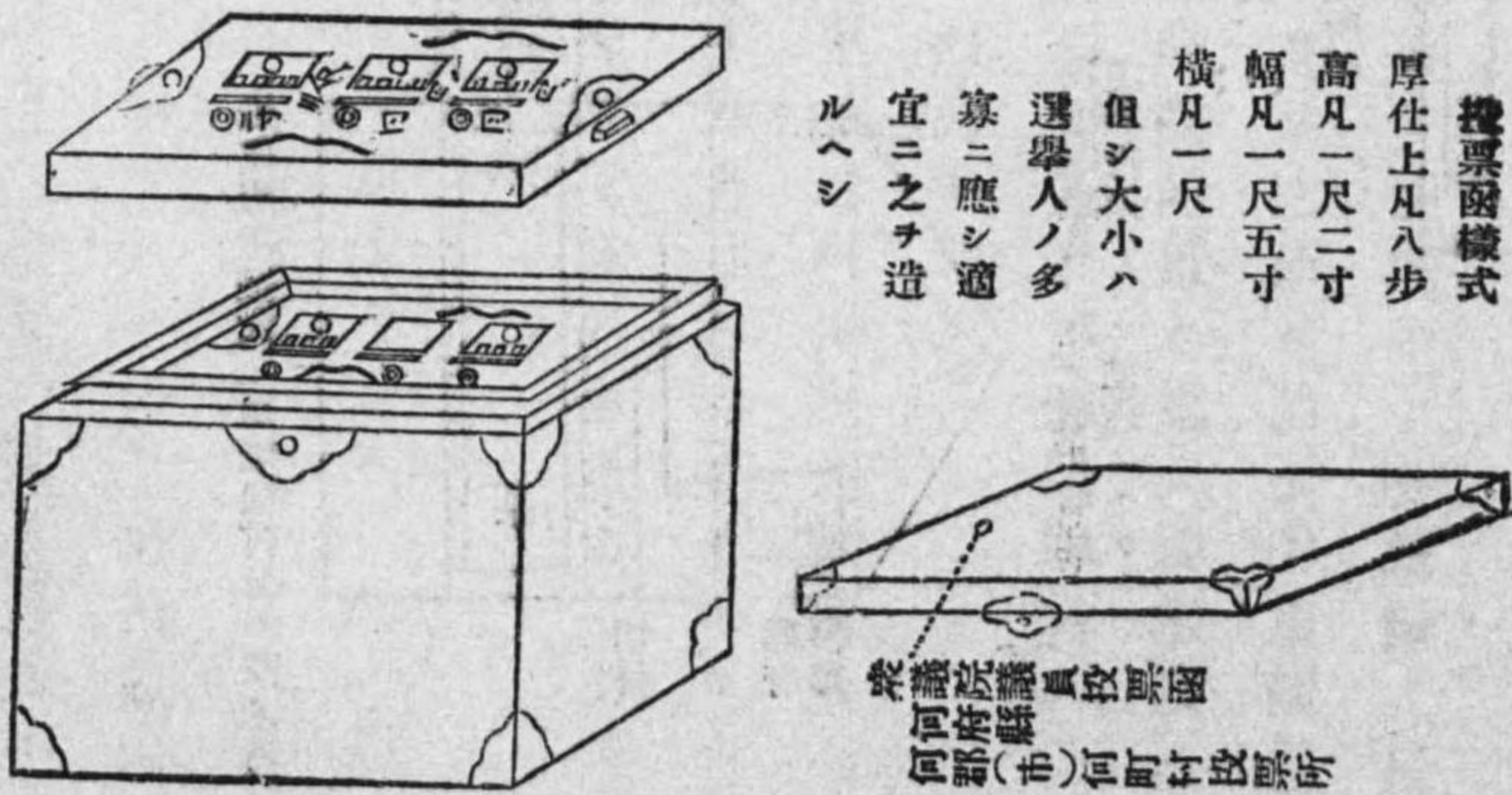
衆議院議員選舉人名簿

正(副)本

何府縣何郡(市)何町村(大字若ハ小字何々)

衆議院議員選舉人名簿樣式 用紙程村又ハ四ノ内

號	第一		號番
	金何圓	何年何月何日以前	
稅業	稅得所	租	納稅額區別及納稅年間納稅地
金何圓、 何年何月何日以前	金何圓、 何年何月何日以前	金何圓、 何年何月何日以前	何府縣何郡(市)何町村
何年何月何日以前	何年何月何日以前	何年何月何日以前	何府縣何郡(市)何町村
何府縣何郡(市)何町村	何府縣何郡(市)何町村	何府縣何郡(市)何町村	何府縣何郡(市)何町村
何年何月	何年何月	何年何月	何年何月

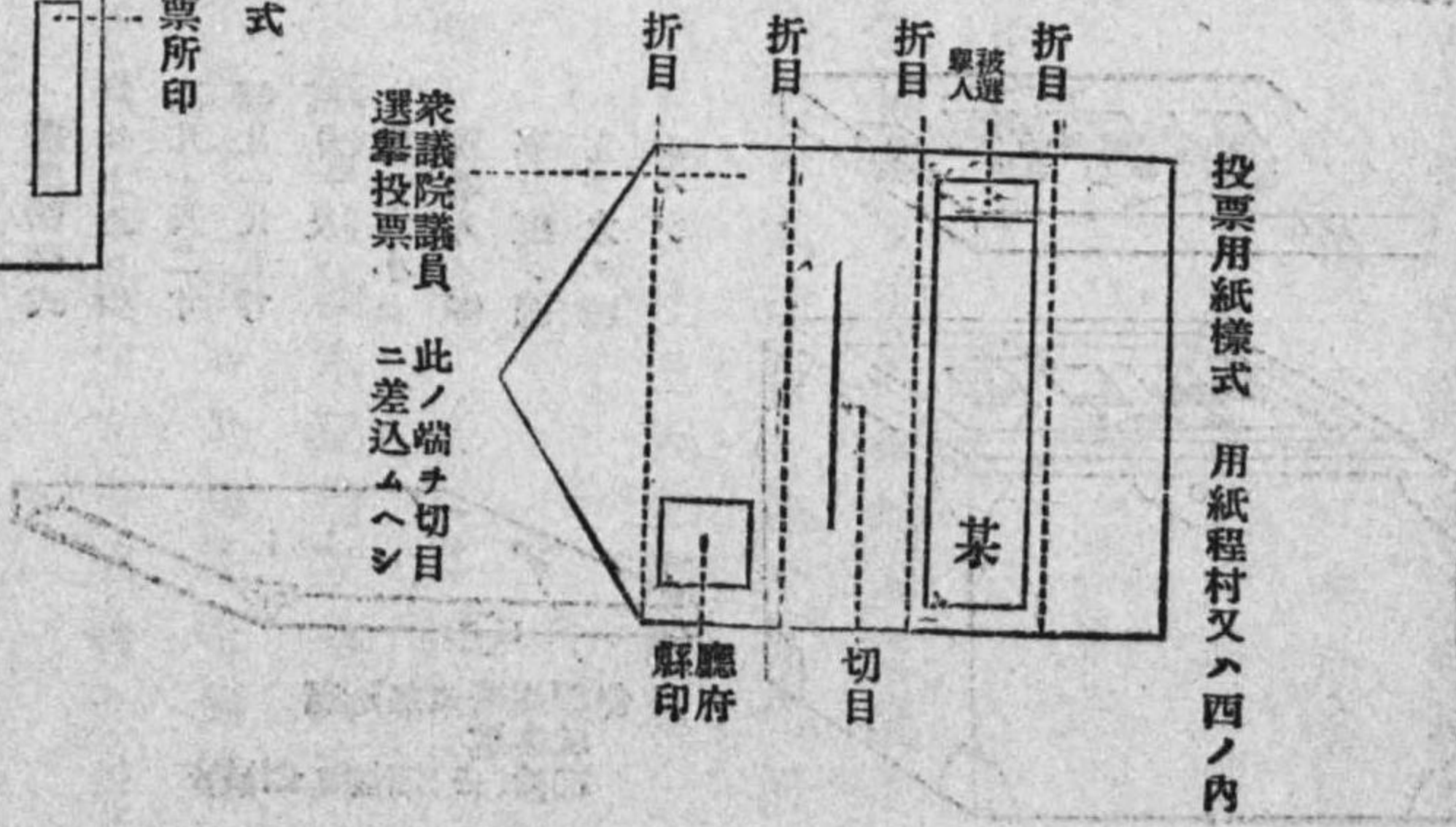
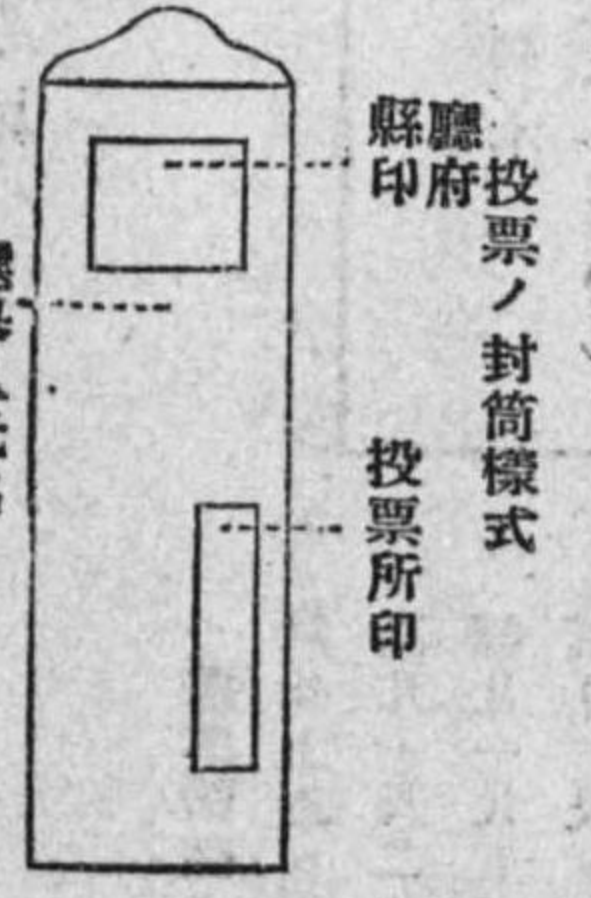
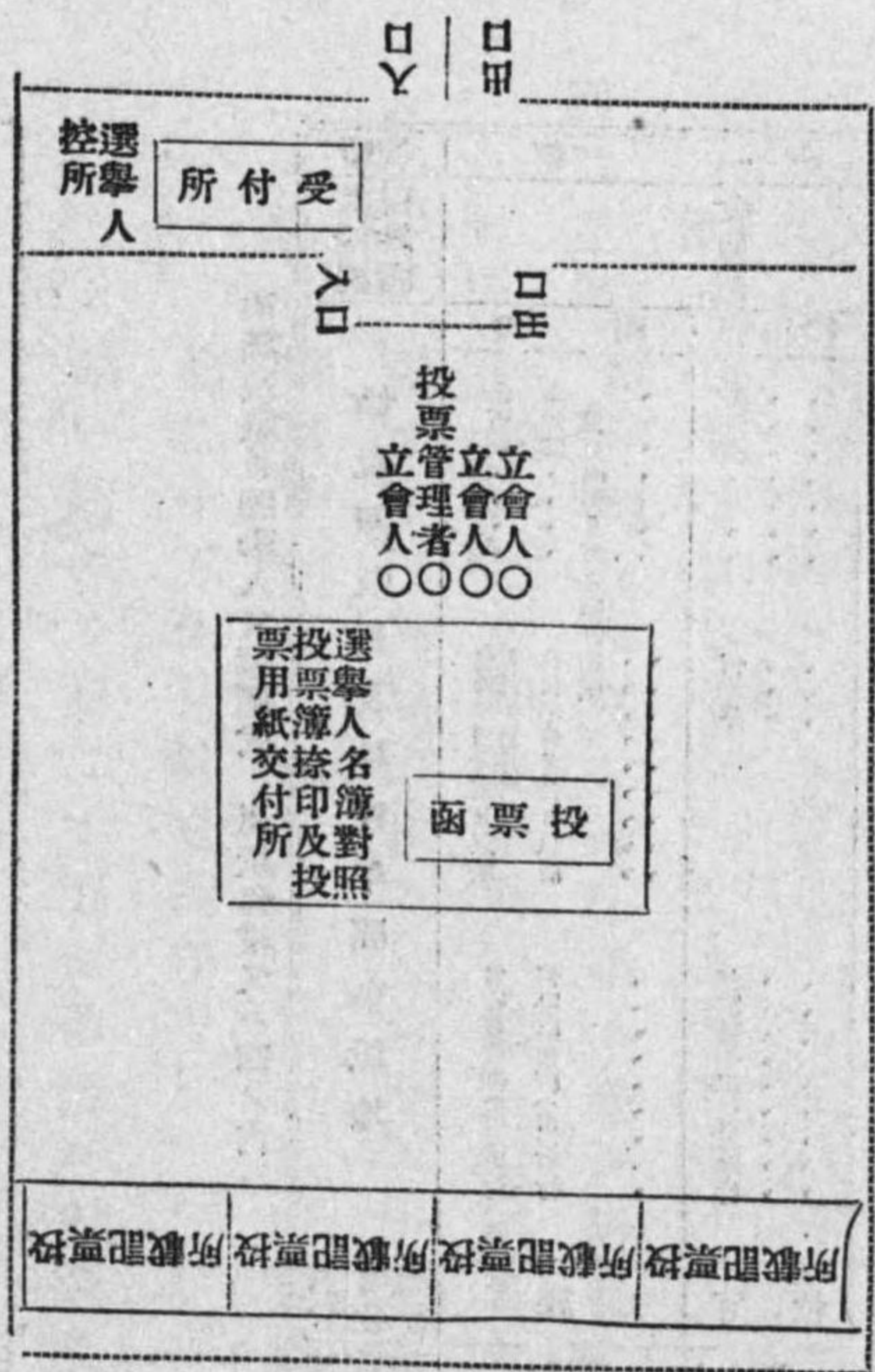


投票函樣式
厚上凡八步
高凡一尺二寸
幅凡一尺五寸
横凡一尺
但シ大小ハ
選舉人ノ多
寡ニ應シ適
宜ニ之ヲ造
ルヘシ

衆議院議員選舉人名簿樣式
何府縣何郡(市)何町村(大字若ハ小字何々)

法制經濟大資料 (法制編)
7) 投票所及投票用紙

投票所様式



三帝國議會ノ議員

第一議員ノ任期

議員トハ兩議院ヲ組成スル各員ヲ云フ。上院議員ノ任期ハ下院議員ノ任期ヨリ長キヲ常トス。我が國貴族院議員中任期ヲ有スル所ノ伯子男爵議員及ビ多額納税者議員ノ任期ハ共ニ七箇年ナルモ衆議院議員ハ總テ總選舉ノ期日ヨリ滿四箇年トセラル。而シテ補缺議員ハ共ニ前任者ノ殘任期間ヲ任期トナスモノナリ。解散後ノ議員ノ任期ハ同ジク四箇年ナリ。

第二議員ノ權利

議員ノ法律上ノ地位ハ憲法及ビ法律上ニ於テ之レヲ規定セラル。此ノ規定ニヨリ各議員ハ其ノ議員タル資格ニ於テ特別ノ法律關係ヲ有ス。此ノ關係ハ議員ニ對シテ權利ヲ與フルコトアリ。又義務ヲ負ハシムルコトナリ。或ハ權利義務ニ關係ナキ特別ノ關係ヲ定ムルコトアリ。而シテ其ノ權利ハ

發言表決ノ自由

公權ナリ。

(一) 發言表決ノ自由

憲法第五十二條ニ曰ク「兩議院ノ議員ハ議院ニ於テ發言シタル意見及表決ニツキ院外ニ於テ責ヲ負フコトナシ但シ議員自ラ其言論ヲ演說刊行筆記又ハ其他ノ方法ヲ以テ公布シタルトキハ一般ノ法律ニ依リ處分セララルベシ」此ノ規定ハ議員ノ議院ニ於ケル發言表決ハ一般法律ノ間フ所ト爲サズト爲スナリ。蓋シ議員ノ職務ヲ尊重シ獨立自由ノ意見ヲ發表セシメントスルニアリ。而シテ政府裁判所ニ對シテ獨立ノ地位ヲ保タシメ干涉ヲ絶チ以テ院外ニ於テ責任ヲ負フコトナカラシムルナリ。此ノ言論無答責ノ原則ハ英國ニ發シ後米佛白其ノ他各國憲法ニ採用セラル、ニ至リタルモノナリ。

發言表決ノ自由ハ廣ク解釋シテ一切ノ發言ヲ包含スト解スベシ。意見ナル文字ニ拘泥シ意見トハ思考ノ結果ノミヲ指ストノ說アレドモ然ラズ。單純ナル事實ノ陳述モ亦意見ナリト知ルベシ。而シテコノ發言表決ノ自由ハ本會議ノミナラズ部會委員會ニ於ケル意見表示ニツキテモ亦無責任

發言ノ自由ノ解

院内ノ責任

タリト云フベシ。院外ニ於テ責ヲ負ハズトハ一切法律上ノ責任ニ任ゼザルノ意ナリ。唯リ刑法ノミナラズ民法其ノ他一切ノ責任ヲ定ムル法規ノ適用ヲ受ケザルノ謂ナリ。

議員發言ノ無責任ハ院外ニ存シテ院内ニ及バズ。議員ハ議場ニ於テ秩序ヲ守リ其ノ他院内ノ規則ニ從テ發言スルノ義務ヲ有スルガ故ニ若シ議員ガ他ノ議員ヲ侮辱シ若クハ議長ノ許可ナクシテ發言シタルトキノ如キハ院内ニ於ケル懲戒其ノ他ノ責任ヲ受クルヲ免ガルベキモノニアラザルナリ。

議員ノ院内言論ハ右ニ述ブルガ如ク無責任ナリト雖モ若シ自カラ其ノ言論ヲ演說刊行筆記又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ公布シタル時ハ一般法律ニヨリ處分セララルベシ。

二) 身體ノ自由

憲法第五十三條ニ曰ク「兩議院ノ議員ハ現行犯罪又ハ内亂外患ニ係ル罪ヲ除ク外會期中其院ノ許諾ナクシテ逮捕セララル、コトナシ」此ノ規定ハ議員ノ職務ヲ尊重シ身體ノ自由ヲ保障シ以テ議員ヲシテ其ノ職ヲ全フセシ

身體ノ自由

議院ノ諾否

メシガタメナリ。司法權ノ獨立アリ、故ナク政府ノ指揮ヲ受ケテ、犯罪ノ故ヲ以テ議員ノ一身ヲ制縛シ、其ノ口ヲ箝シテ不當ノ干涉ヲナスコトナキヲ保セズ。又議員ハ國務ニ參シ、議會開會中必要ノ具タリ。故ニ之レニ對シテ議員ノ一身ノ自由ヲ保障ス。

議院ハ議員ヲ逮捕スルノ請求ヲ受ケタルトキハ、政府ノ不當ナル干涉ニ出デタルニ非ザルカ、又其ノ犯罪タル果シテ一議員ヲ奪フニ足ル程ニ重大ナル程度ニ在ルカヲ審査シテ、許諾ヲ與ヘザルベカラズ。コレ議院ノ許諾ヲ認メタルモノナリ。故ニ各個議員ノ權利ニアラズ。

議員ガ此ノ自由權ヲ享有スルハ、會期中ニ限ラル、モノナリ。會期中トハ、開會ノ日ヨリ閉會又ハ解散迄ノ期間ヲ云フ。會期前ニ逮捕セラレタル者ニツキテハ、議院ノ承諾ヲ求メズシテ、引續キ拘留ヲ繼續スルコトヲ得ルモノトス。何トナレバ憲法ノ明文ニ許諾ナクシテ逮捕セラレ、コトナシトアルガ故ナリ。

議員身體ノ自由範圍ハ、現行犯罪及ビ内亂外患ニ係ル罪ニ及バズ。憲法ハ之レヲ例外トセリ。蓋シ現行犯ノ場合ニハ、政府ガ故ナクシテ議員ヲ逮

會期中

自由範圍例

歳費旅費ノ受領

刑法上ノ保護

新刑法第九十五條

捕スルモノニ非ザルコト明カニシテ、内亂外患ノ場合ハ、其ノ事項重大ニシテ、議院ノ許諾ヲ俟ツノ暇ナキコト多ケレバナリ。

(三) 歳費旅費ノ受領

兩議院ノ議員ハ一定ノ歳費ヲ受ケ又旅費ヲ受クルノ權利ヲ有ス。歳費ハ之レヲ辭スルコトヲ得トセリ。貴族院ノ被選及ビ勅選議員、並ニ衆議院ノ議員ハ、歳費トシテ二千圓、議長ハスベテ五千圓、副議長ハ三千圓ヲ受クルコト、ナシ、唯召集ニ應ゼザル議員及ビ官吏ニシテ議員タル者ニ限り、歳費ヲ受クルコトヲ得ザルモノトナセリ。又其ノ他議員ハ距離ノ遠近ニヨリ旅費ヲ受クルコトヲ得ルナリ。

(四) 刑法上ノ保護

議員ニ對シ、明治二十二年法律第二十八號ヲ以テ、議員ノ身體、名譽及ビ其ノ職務ノ執行ヲ特ニ保護セシガ、明治四十一年三月刑法施行法第二十四條ヲ以テ之レヲ廢止シ、新刑法第九十五條ニヨルコト、セリ。同條ニ曰ク「公務員ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス。公務員ヲシテ或處分ヲナサシメ若クハ爲サザラ

質問及發議ノ權

(五) 質問及發議ノ權

議院法第四十八條乃至第五十條ニ依リ、議員ハ三十人以上ノ賛成者アル時ハ、政府ニ對シ質問スルコトヲ得ルナリ。政府ハ質問ニ對シテハ、必ズ答辯ヲ爲スベク、若シ答辯ヲ與ヘザル時ハ、其ノ理由ヲ説明スベキモノナリ。此ノ質問ハ書面ヲ以テナスベキモノナリ。而シテ質問ハ不明ナル點ニツキ説明ヲ求ムルノ意ナリ。

議員ハ定數ノ賛成者アルトキハ、議案及ビ上奏、建議案ヲ發議スルコトヲ得ルノ權アリ。

第三、議員ノ義務

議員ノ義務
召集ニ應ズル義務

(一) 召集ニ應ズル義務

議員ハ召集ニ應ズルノ義務ヲ有ス。若シ應ゼザルトキハ、歳費ヲ受クレヲ得ズ。又時トシテ除名ノ原因トナルコトアリ。

(二) 議場出席ノ義務

議場出席ノ義務

職ノ義務

議員ハ正當ノ理由ヲ以テ議長ニ届出ズシテ、會議又ハ委員會ニ欠席スルコトヲ得ズ。正當ノ理由ニ基ヅク請暇ニシテ、一週間以内ハ議長之レヲ許可シ、一週間以上ノモノハ議院ノ決議ニ於テ之レヲ許可ス。議員ハ自ラ出席スベク、他人ヲシテ代理セシムルヲ得ズ。

(三) 瀆職ノ義務

新刑法第二十五章瀆職ノ罪ノ規定中第百九十七條ニ曰ク「公務員又ハ仲裁人其職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若クハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス」トアリ。議員ハ此ノ規定中公務員ナルヲ以テ此ノ義務ヲ生ズ。

(四) 選舉人ノ委嘱ヲ受クベカラザル義務

議會ハ國民ノ代表機關ニアラズシテ、天皇ノ機關ナリ。サレバ其ノ議會ノ議員ガ選舉人ノ指示若クハ委嘱ヲ受クベカラザルモノナリ。

第四、議長副議長

(一) 選任及任期

議長副議長
選任及任期

選舉人ノ委嘱ヲ受クベカラザル義務

貴族院ノ議長副議長ハ直ニ勅任セラル、モノニシテ、衆議院ノ議長副議長ハ、議院ニテ三名ノ各候補者ヲ選ビ、其ノ中ヨリ勅任セラル、モノナリ。貴族院ノ議長副議長ノ任期ハ七ケ年ニシテ、衆議院ノ議長副議長ノ任期ハ議員ノ任期四ケ年ニヨルモノナリ。

(二) 議長ノ職務

議長ハ議院ヲ代表シ、上奏奉呈、建議書差出、議案ノ他院送達、補缺選舉ヲ求ムル等ノ事ヲナス。又議場ノ秩序ヲ維持スル爲メ、院内警察權議員發言ノ取消會議ノ中止、傍聽人ノ退場命令、議員缺席ノ許可等ヲナス。次ニ議事ノ整理ハ、議長ノ主タル職務ナリ。即チ議事日程ヲ定ムルコト、秘密會ヲ開クコト、全院委員會ノ開會ヲ請求スルコト、特別委員ノ選定指名ヲナスコト、逐條審議ノ順序變更ヲナスコト、發言ノ許可、討論終結ノ宣告、議院規則ノ疑義ヲ決スルコト等ナリ。

第五、議員資格ノ消滅

(一) 任期滿了

兩院議員タルノ資格ハ任期ノ滿了ニヨリ消滅ス。然レドモ開會中ニ滿

議長ノ職務

議員資格ノ消滅
任期滿了

死亡

除名

辭職

了スルトキハ會期ノ終迄在任スルモノナリ。

(二) 死亡

(三) 除名

貴族院議員ニシテ、禁錮以上ノ刑ニ處セラレ、又ハ身分限ノ處分ヲ受ケタル者アル時ハ、勅命ヲ以テ之レヲ除名ス。又懲罰ニヨリ除名セララルベキモノガ、上奏勅裁ヲ經テ除名セララル場合アリ。

衆議院議員ニシテ、正當ノ事由ナクシテ召集ニ應セズ、又ハ會議委員會ニ出席セズ、或ハ請假期限ヲ過ギ招狀ヲ受ケ、故ナク出席セザルモノハ、院議ニヨリ之レヲ除名ス。又懲罰トシテ議員ヲ除名スルコトヲ得ル場合アリ。

(四) 辭職

貴族院ヲ組織スル皇族公侯爵議員ハ、其ノ身分ノ當然ノ結果トシテ議員タルニヨリ、辭職スルコトヲ得ズ。伯子男爵議員及ビ勅任議員辭職セントスルトキハ、議長ヲ經由シテ奏請スベシ

衆議院議員ハ、議院法第八十三條ニヨリ、辭職スルコトヲ得。但シ此ノ場合ニ衆議院ハ、議員ノ辭職ヲ許可スルモノトス。

資格要件ノ喪失

法制經濟大資料 (法制編)

三五〇

(五) 資格要件ノ喪失

皇族華族ニアリテハ其ノ身分ニ伴フ待遇ヲ剝奪セラレタル者ハ議員タルノ資格ヲ失フ。衆議院議員ニ就テハ、議院法第七十七條ニ「衆議院議員ニシテ選舉法ニ記載シタル被選資格ヲ失ヒタルトキハ退職者トス」ト規定セラレ、資格要件ヲ喪失シタルトキハ其ノ議員ノ職ヲ失フ。此ノ明文ニヨリ議員ニシテ禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケテ、控訴中ニアル者ガ當然職ヲ失フヤ否ヤニツキ議論アリ。然レドモ被選資格ハ即チ議員タルベキ資格ナレバ、コノ資格ヲ失ナヘバ、議員資格モ亦當然失フベキモノト解スルヲ適當トスルナリ。

(六) 解散及ヒ貴族院議員ノ任命

解散ハ衆議院ニ對シテノミ生ズルナリ。衆議院議員ニシテ貴族院議員ニ任ゼラレタルトキハ其ノ職ヲ退クベキモノナリ。

四、帝國議會ノ手續

帝國議會ハ天皇又ハ攝政ノ命ニヨリ、開會及ビ閉會スルモノニシテ、議員自カラ集會シテ、議事ヲ開キ其ノ權限ヲ行フコトヲ得ズ。帝國議會ノ召集開會閉會停會

解散及ヒ貴族院議員ノ任命

召集

召集ノ意義

召集ノ方式

通常會及臨時會

議事方法衆議院ノ解散等ヲ、茲ニ帝國議會ノ手續トシ之レヲ左ニ説明スベシ。

第一、召集

議會ヲ召集ストハ其ノ實議會ヲ組織スル議員ヲ召集スルヲ謂フ。故ニ召集ノ目的ハ、議會ニアラズシテ議員各個人ナリ。召集ハ天皇ノ大權ニ屬スルモノニシテ、天皇ノ召集ノ詔勅アルニアラザレバ、議員ハ議會ノ分子トシテ集會スルヲ得ザルモノナリ。コノ召集ヲ天皇ノ大權トセルハ、議會自立シテ立法者ニ非ザルヲ明カニシ、天皇ノ立法權ヲ行フガ爲メニ用フル機關タルコトヲ示スナリ。

召集ノ詔勅ハ集會ノ期日ヲ定メ、少クトモ四十日前ニ於テ之レヲ官報ニ登載シテ公布ス。召集ハ各議員ニ對スル命令處分ナレドモ、官報ヲ以テ各自ニ通知スルニ代ヘ、又一般ニ告ゲ示スモノトセリ。

憲法第四十一條ニ「帝國議會ハ毎年之レヲ召集ス」ト定ム。三ヶ月ヲ以テ會期トス。但シ必要アルトキハ勅命ヲ以テ之レヲ延長スルコトヲ得ベク、又臨時緊急ノ必要アル場合ニハ、臨時會ヲ召集スルコトヲ得。何ヲ臨時緊急ノ必要トスルヤハ、一ニ天皇ノ定ムル所ナリ。衆議院解散セラレタルトキハ、五

ケ月以内ニ召集スベキモノトス。コレ又臨時議會ナリ。臨時會ノ會期ヲ定ムルハ勅命ニヨル。

第二、開會

開會トハ議會成立シテ、議會ノ行動ヲ開始シ得ベキ状態ニアラシムルヲ云フ。開會以前ニ爲シタル議院ノ行爲ハ、議會ノ行爲トシテ國法上ノ效力ヲ生ゼズ。開會ヲ命ゼラル、ニ於テ、議會ハ其ノ權限ヲ行フコトヲ得ルモノナリ。議院法第五條ニ「兩議院成立シタル後勅命ヲ以テ帝國議會開會ノ日ヲ定メ兩院議員ヲ貴族院ニ會合セシメ開院式ヲ行フ」トアリ。開會ト區別スベキハ、貴衆兩院ノ成立ニシテ、兩院各議員ハ詔勅ニ指定シタル期日ニ各院ニ參集シ、議長副議長ヲ選舉シ、又ハ議員ヲ數部ニ分割シ各部長ヲ選舉シ、議長副議長ノ勅任アリテ、議員ノ處部定マリ其ノ職務ヲ行フニ適シタルトキニ於テ成立スルモノナリ。開會ハ成立後ニナスベキモノニシテ、成立ハ開會ノ準備行爲ナリト謂フベシ。

開會式ハ兩院成立ノ後、開會ノ日ヲ定メ貴族院ニ於テ之レヲ行フ。此ノ場合ニハ貴族院議長ハ議長ノ職務ヲ行フ。開會ハ天皇ヨリ開院ノ詔勅ヲ賜ヒ、

開會
開會ノ意義

開會ト成立
トノ關係

開會式

會期

開會ノ期日

備考
開院式ノ勅
語及奉答文

各院ハ之レニ對シテ、奉答文ヲ捧呈スルヲ例トス。

開會ヲ以テ會期始マル故ニ、議員ノ有スル特權ノ如キハ開會ノ時ニ發生ス。會期ハ議院ノ作用ヲナスベキ期間最短期三ヶ月ニシテ開會ヨリ閉會又ハ解散ノ間ヲ云フ。會期中ニ停會及ビ休會アルモ其ノ日限ハ會期ニ計算スルモノトス。

召集後開會ヲ行フハ何日ヲ隔テ、行フベキモノナルヤト云フニツキテハ、明文ナシ。然レドモ議會ハ翌年ノ豫算ヲ議スル必要アルヲ以テ、翌年ノ會計年度ノ開始スル以前ニ於テ、通常豫算ヲ議定シ得ル時間ヲ見積リ以テ之レヲ開會スベキモノトス。

備考

開院式ノ勅語 (明治四十一年十二月二十五日)

朕茲ニ帝國議會開院ノ式ヲ行ヒ貴族院及衆議院ノ各員ニ告ク

帝國ト締盟各國トノ交際ハ年ヲ遂フテ益親厚ニ東洋ノ平和更ニ鞏固ヲ加フルハ朕深ク之ヲ欣フ

朕ハ國務大臣ニ命シ財政ニ關スル整理ヲ行ハシメ明治四十二年度ノ豫算

案ハ各般ノ法律ト共ニ議會ノ議ニ付セシムル等、和衷審議以テ協贊ノ任ヲ
竭シ朕カ望ム所ニ副ヘヨ。

貴族院奉答文

貴族院議長 臣德川家達誠恐誠惶謹テ勅聖文武天皇陛下ニ上奏ス第二十
五回帝國議會ノ開會ニ際シ茲ニ盛典ヲ舉ケ優渥ナル勅語ヲ賜フ臣等謹テ
勅旨ヲ奉體シ慎重審議協贊ノ任ヲ竭シ以テ皇猷ヲ贊襄センコトヲ期ス臣
家達恐惶ノ至ニ堪ヘス謹テ奉答ス。

衆議院奉答文

衆議院議長 臣長谷場純孝誠惶謹テ奏ス。
恭シク惟ルニ車駕親臨シテ茲ニ第二十五回帝國議會開院ノ盛式ヲ舉ケ
優渥ナル聖詔ヲ賜フ臣等感激ノ至ニ堪ヘス臣等國家ノ要務ニ對シ慎重審
議協贊ノ任ヲ竭シ上陛下ノ勅慮ニ對ヘ下國民ノ委託ニ酬ムコトヲ期ス衆
議院議長 臣長谷場純孝誠惶謹テ奏ス。

第三、閉會

閉會トハ開會ニ對シ、會期ノ終了ニヨリ議會ノ活動ヲ終止セシムルヲ云フ。
ナリ。閉會ヲ命ゼラレタル後ハ、再ビ集會議決シテ議會ノ事ヲ行フヲ得ズ。

閉會
閉會ノ意義

會期不繼續
ノ原則

本會議ノミナラズ、委員會モ亦之レヲ開クコトヲ得ズ。蓋シ委員ハ閉會ト同
時ニ、其ノ職ヲ解カル、モノナリ。

議會閉會セラル、トキハ、議案ノ議決ニ至ラザルモノハ後會ニ繼續セズシ
テ、閉會ト同時ニ悉ク消滅スルモノトス。之レヲ會期不繼續ノ原則ト云フ。
即チ會期不繼續ノ原則ニヨリテ、未ダ一院ノ議決ヲ經ズ、又ハ一院ノ議決ヲ經
ルモ、兩院ノ議決ヲ經ザル一切ノ議案及ビ建議並ニ請願等ハ、後ノ議會ニ繼續
セズ、故ニ同一ノ議案ヲ次ノ議會ニ於テ再ビ議セントスルトキハ、更ニ其ノ手
續ヲ新タニセザルベカラズ。既ニ兩院ノ議決ヲ經タルモノニ至リテハ、未ダ
天皇ノ裁可ヲ經ザルモ、更ニ之レヲ新タニスルノ必要ナシ。

閉會式

天皇ハ開會ノ日ヨリ、三ヶ月ノ會期ヲ經タル後ニアラザレバ、閉會ヲ命ズル
コトヲ得ザルモノトス。三ヶ月ノ會期ヲ經過スルモ、天皇ノ命ナケレバ閉會
スルコトナシ。閉會式ハ勅命ニ依リ、兩院會合ノ上之レヲ行フモノトス。
憲法ハ勅命ヲ以テ、會期ヲ延長スルコトヲ得ル旨ヲ定ム。三ヶ月ノ會期ハ之
レヲ短縮スルコトヲ得ザルノミ、之レヲ延長スルコトヲ妨ゲズ。

備考

備考

閉院式ノ勅語

朕貴族院及衆議院ノ各員ニ告ク

朕本日ヲ以テ帝國議會ノ閉會ヲ命シ併セテ卿等勵精能ク協贊ノ任ヲ竭セルノ勞ヲ嘉獎ス。

第四、停會

停會

停會ノ意義

停會トハ開會ニヨリテ生ジタル、議會ノ活動ヲ停止スルヲ云フ。停會ノ權モ天皇ニ屬ス。停會中ハ本會議及ビ委員會ヲモ、開クコトヲ得ズ。然レドモ停會ハ單ニ議會ノ行動ヲ停止スルニ止マリ、議會ノ成立ヲ失ハシムルモノニアラザルヲ以テ、停會期限後更ニ停會前ノ議事ヲ繼續スルコトヲ得ルモノナリ。即チ停會ノ爲メ未議了ノ議案ハ、消滅スルモノニアラズ、コレ閉會ト異ル點ナリ。

停會ノ目的

停會ノ目的ハ法文ニ規定セラレズト雖モ、不當不法ノ決議ヲ爲シ、若クハ決議ヲ爲サントシ、輕舉妄動一時ノ勢ニ乘セントスルガ如キ場合ニ、其ノ反省ヲ求メ事ヲ慎重ナラシメントスルナリ。併シ停會スルモ、尙議會ノ議決正當ニ出デザルトキハ、解散之レニ從フモノナリ。此ノ場合ニハ停會ハ解散ノ前驅

停會ノ日限

トナルモノナリ。

停會ハ日限ヲ定メテ、天皇ノ命ズル所ナリ。但シ十五日ヲ超ユルコトヲ得ズ。然レドモ何回之レヲ行フモ可ナリ。議院法第三十三條ニ「政府ハ何時タリトモ、十五日以内ニ於テ議院ノ停會ヲ命ズルコトヲ得」ト。此ノ政府ナル文字ニヨリ國務大臣ニ停會權ヲ認メタルニアラズ、天皇ノ旨ヲ奉シテ政府ガ停會ヲ命ズルノ意ナリ。議會ノ停會ハ兩院其ノ行動ヲ一ニスベキモノナリ。

貴族院ノ停會ノ意義

衆議院解散ヲ命セラレタル場合ニ、貴族院ニ停會ヲ命ゼラル。此ノ貴族院ノ停會ハ、同院ヲ閉ヅルノ意ナリ。故ニ名ハ同ジク停會ナリト雖モ、貴族院ノ停會ハ、其ノ實閉會ノ意ト解スベキモノナリ。

第五、議院ノ休會

議院ノ休會

休會ノ意義

休會トハ天皇ノ命ニヨラズシテ、各議院自ラ議事ノ都合ニヨリ、會議ヲ中止スルヲ云フ。休會ノ目的ハ停會ト異ナルモノナリ。例ヘバ年始年末ニ際スルカ、或ハ特別ノ人ニ對シ哀悼ノ意ヲ表スルカ、或ハ議案ナキ爲メニ休會スルガ如シ。故ニ議事日程ナキ時ハ、自然休會トナルモノナリ。

休會ト停會ト異ナル點ハ次ノ如シ。(一)停會ハ國法上天皇ノ命ニヨル議會

休會ト停會トノ異ナル點

ノ議事中止ナルニ、休會ハ事實上各院各別ニ議事ヲ休止スルナリ。(二)停會ハ期限中絶對ニ議事ヲ開クヲ得ザルモノナルニ、休會中ハ必要ニ應ジ議事ヲ開クノ自由ヲ有ス。(三)停會ハ十五日以下ナル制限アルモ、休會ニハ此ノ如キ制限ナシ。

第六、衆議院ノ解散

衆議院ノ解散トハ衆議院議員全體ノ任期ヲ期間滿了前ニ消滅セシムルヲ云フ。解散セラレタルトキハ衆議院議員一人モナキニ至ル、閉會ノ唯タ議會ノ活動ヲ終止スルト異ナリ、閉會ヲ命ゼラル、時ト雖モ議員ハ存ス、再ビ之レヲ召集スルコトヲ得。解散ヲ命ゼラレタルトキハ議員ナシ、新タニ選舉ヲ行ヒ議員ノ地位ヲ有スル者ヲ生ゼザレバ召集スルコトヲ得ズ。解散ハ單ニ任期ノ消滅ニ過ギザルヲ以テ議員ノ被再選資格ヲ奪フモノニアラザルナリ。解散ハ天皇ガ議會ヲ監督スル最後強烈ノ手段ニシテ議院ノ專横ヲ防グニアリ。故ニ議會ノ爲ストコロ不當不法ニシテ立法機關タルニ適セザルカ、又ハ天皇ノ機關タル地位ニ居ルニ不當ナル議員ノ多數ヲ以テ組織セララル、カ、或ハ議會ニ對シ停會ヲ命ジテ一時ノ反省ヲ求ムルモ之レヲ救フニ足ラズ

衆議院ノ解散

解散ノ意義

解散ノ主旨

トスル場合、若クハ議會ト政府ト衝突シタル場合等ニ於テ、新タニ別ニ立法機關タルニ適當ナル議會ヲ組織センコトヲ欲シ、議員其人ヲ更メシムルガためノ目的ヲ以テ解散ヲ命ズルナリ。故ニ其ノ意ハ國民ニ向テ、更ニ適良ナル議員ヲ選出センコトヲ求ムルナリ。然レドモ天皇ハ以上ノ主旨ノためニスルノ外、如何ナル場合ニ於テモ、解散ヲ命ズルコトヲ得ルモノナリ。

解散ノ效果

衆議院解散ヲ命ゼラレタルトキハ、勅命ヲ以テ新タニ議員ヲ選舉セシメ、解散ノ日ヨリ五ケ月以内ニ召集セザルベカラザルモノトス。(憲法第四十五條) 解散後ノ議會ハ通常會ニアラズシテ、臨時會ナリト解スベキモノナリ。次ニ衆議院解散ヲ命ゼラレタルトキハ、貴族院ハ同時ニ停會セラル、モノトス。(憲法第四十四條) 又解散ハ議院ノ成立ヲ失ハシムル效果ニ於テ閉會ト同一ナリ。故ニ解散ノ場合ニ於テ、議案建議請願等ノ議院ニ繫屬スルモノハ、スベテ消滅スルモノナリ。即チ議案ノ繼續ヲ妨グルモノナリ。

第七、議事方法

議事ニ關スル大原則ハ、憲法ノ規定スル所ナレドモ、其ノ細目ニ至リテハ、議院法及ビ各議院規則ノ定ムル所ナリ。其ノ大要左ノ如シ。

議事方法

(一) 議案及議事日程

議案トハスベテ議決ノ目的物ヲ云フ。故ニ法律案豫算案其ノ他兩院ノ協賛ヲ要スルモノハ勿論、貴族院令ノ如キ一院ノ決議ヲ要スルモノモ亦議案ナリ。議事日程ハ各院ノ議長之レヲ定メ、議院ニ報告スルモノトス。議事日程ハ政府ノ提出シタル議案ヲ先ニスベシ。

(二) 委員會

委員會トハ或特定ノ事項ヲ審査セシムルタメ、特定ノ人ヨリ組織セラレ、本會議ソ豫備機關ナリ。之レヲ設置スルハ、議案ヲ慎重ニ調査シ、又ハ下調ニヨリ、議決ノ經過ヲ敏活ナラシムルタメニ外ナラザルナリ。委員會ニ三種アリ。全院委員會、常任委員會、豫算委員、決算委員、懲罰委員、請願委員等、特別委員會コレナリ。

(三) 會議

開會ニヨリテ議會ノ議事ヲ開ク場合ニハ、兩議院ハ各々其ノ總議員ノ三分ノ一以上出席スルニ非サレバ、議事ヲ開キ議決ヲナスコトヲ得ズ。兩議院ノ議事ハ過半数ヲ以テ之レヲ決ス。可否同數ナルトキハ、議長ノ決スル

トコロニヨル。憲法改正ニ就テハ、此ノ定足數及ビ議決ノ數ヲ多クセリ。

法律ノ議案ハ三讀會ヲ經テ之レヲ決ス。但シ政府ノ要求若クハ議員十人以上ノ要求ニヨリ、出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ、可決シタルトキハ、三讀會ノ順序ヲ省略スルコトヲ得ルナリ。(第一編第五章第三節參照)

スベテ議案ヲ發議シ及ビ議院ノ會議ニ於テ、議案ニ對シ修正ノ動議ヲ發スルモノハ、二十人以上ノ賛成アルニ非ザレバ、議題トナスコトヲ得ズ。豫算案ニ就テハ、三十人以上ノ賛成ヲ要スルモノトス。動議トハ、議案ヲ發議スル場合ノ外、總テノ議題ヲ提出スルヲ云フ。例ハ、上奏建議、懲罰緊急事件、議案修正等ナリ。

國務大臣及ビ政府委員ハ何時タリトモ、會議ノ際ニ發言スルコトヲ得。議長ハ之レヲ許サザルベカラズ。但シ之レガ爲ニ議員ノ演說ヲ中止スルコトヲ得ズ。又委員會ニ出席發言スルコトヲ得。固ヨリ表決ノ數ニ加ハルコトナシ。

兩議院ノ會議ハ之レヲ公開ス。但シ政府ノ要求又ハ其ノ院ノ議決ニ依リ秘密會トナスコトヲ得

各議院ハ憲法ノ規定ニ依テ、附與セラレタル事務ノ範圍ニ就テハ、天皇ノ意思ニ拘束セラレズシテ、獨立ノ議決權ヲ有ス。主權者タル天皇ト雖モ、議院ヲシテ自己ノ意思ニ從フテ議決スベキコトヲ、強制スルコト能ハザルモノナリ。

(四) 兩議院關係

甲議院ニテ政府ノ議案ヲ可決シ又ハ修正シテ議決シタルトキハ、之レヲ乙議院ニ移スベシ。乙議院ニテ甲議院ノ議決ニ同意シ又否決シタルトキハ、之レヲ奏上スルト同時ニ、甲議院ニ通知スルヲ要ス。乙議院ガ甲議院ノ提出シタル議案ヲ否決シタルトキハ、之レヲ甲議院ニ通知スベシ。乙議院ニテ甲議院ヨリ移シタル議案ニ對シ、之レヲ修正シタルトキハ、之レヲ甲議院ニ回付スベシ。甲議院ガ乙議院ノ修正ニ同意シタルトキハ、之レヲ奏上スルト同時ニ、乙議院ニ通知スベク、若シ同意セザルトキハ、兩院協議會ヲ開クコトヲ求ムベシ。兩院ノ決議一致スルトキハ、最後ニ議決セル議院ヨリ政府ヲ通ジテ上奏スベキナリ。

兩院協議會ハ兩議院ヨリ各十人以下、同數ノ委員ヲ選舉シ合同セシム。

委員ノ協議案成立スルトキハ、議案ヲ政府ヨリ受取り、又ハ提出シタル甲議院ニテ先ヅ之レヲ議シ、次ニ之レヲ乙議院ニ移スベシ。兩院ノ内何レニテ之レヲ否決スルモ、其ノ協議案ハ廢案トナルモノトス。又協議會ニテ成立シタル成案ニ對シテハ、修正ノ動議ヲナスコトヲ許サズ。

各議院ハ人民ニ向テ告示ヲ發スルコトヲ得ズ。又審査ノ爲メニ人民ヲ召喚シ、及び議員ヲ派出スル能ハズ。

五、帝國議會ノ權限

帝國議會ハ天皇ノ一統治機關ニシテ權力ノ主體ニアラズ、從テ議會ハ明カニ附與セラレタル一定ノ權限ヲ有スルノミ。權限トハ其ノ機關ノ活動スベキ範圍ヲ限定セラレタルヲ云フ。議會ノ權限ノ範圍ハ一ニ憲法ノ定ムル所ニシテ、憲法アリテ初メテ存スルトコロナリ。然シテ憲法ノ定ムル所ノ外ニ、其ノ權限ヲ推擴シテ解釋スルコトヲ得ザルナリ。議會ノ權限ハ實質上積極的ニ、憲法ノ與ヘラレタル所ニ限り、消極的ニ憲法ノ許サザルトコロニ及バズ。而シテ其ノ之レヲ行フ形式モ、亦憲法ニ定メラル。又議會ノ權限ハ同時ニ其ノ職務タルガ故ニ、憲法ノ命ズル所、必ラズ之レヲ行ハザルベカラザルモノナリ。

帝國議會ハ兩院ヨリ成立シ、兩院合シテ帝國議會ノ權限ヲ行フモノナリ。而シテ憲法及ビ法令ハ、議會其ノモノ、權限ト各院ノ權能トヲ區別セリ。從來學者多ク之レヲ混同シ、特ニ議院ノ權能ヲ以テ直ニ議會ノ權限トナセシ例少ナカラズ。然レドモ明文上此ノ區別アル以上ハ、之レガ説明モ亦區別スルヲ要ス。故ニ本書ハ此ノ項ニ於テ議會ノ權限ヲ叙シ、次項ニ於テ各議院ノ權能ヲ説明スベシ。

第一、國法制定ニ參與スルノ權

(一) 法律案ニ協賛ヲ與フルコト

憲法第五條 天皇ハ帝國議會ノ協賛ヲ以テ立法權ヲ行フ。同第三十七條 凡テ法律ハ帝國議會ノ協賛ヲ經ルヲ要ス。ト定メラレタリ。之レニヨリテ見レバ、立法權ハ天皇ニ在リ。而シテ天皇ガ立法權ヲ行使セラル、ニハ、必ラズ議會ノ協賛ヲ經ルヲ要スルナリ。コレ議會ガ立法作用ニ參與スルノ權限タリ。協賛トハ法律案ノ議決ヲ以テ天皇ノ立法スル所ニ與ルコトヲ云フモノニシテ、法律制定ノ手續ノ一ニ與ルヲ云フナリ。協賛ハ自ラ法ヲ制定スルガ爲メニアラズ。天皇ト共同シテ立法スルノ謂ニモアラ

ズ。唯此ノ如キ内容ヲ有スルモノ、之レヲ法律トスルコトヲ可ナラント思意スルノ意見ヲ上申シテ、天皇ノ嘉納ニ供スルナリ。而シテ協賛ハ政府ノ提出シタル法律案ヲ議定シ可否スルノミナラズ、又之レヲ修正シテ議定ス。又自ラ法律案ヲ提出スルコト憲法ニ認メラル。之レ議會ノ立法ニ參與スル形式タリ。

(二) 緊急勅令ニ對スル承諾ヲ與フルコト

憲法第八條ニ規定スル緊急勅令ハ、名ハ勅令ナリト雖モ、其ノ實質ハ法律ト同一ニシテ、其ノ效力モ亦法律ト同一ナリ。故ニ其ノ發布ノ後次ノ會期ニ於テ、帝國議會ニ提出シ、以テ其ノ諾否ヲ決セシメザルベカラズ。緊急勅令ハ憲法ノ認ムル所ナレドモ、立法ノ常ニ對スル一時ノ變ナリ。協賛ノ手續ヲ省略シテ、法律ヲ以テスベキ事項ヲ定メタルナリ。此ノ濫用ヲ制スルタメ、議會ニ承諾ヲ求ムルモノトス。若シ議會ニ於テ承諾セザルトキハ、政府ハ將來ニ向テ、其ノ效力ヲ失フコトヲ公布セザルベカラズ。コノ承諾ハ立法權ノ行使ニ參與スル權限ノ一變態ナリト謂フベシ。

協賛ト承諾トノ異ナル點次ノ如シ。(一)協賛ハ事前ノ議決ニシテ、承諾ハ

憲法改正案
ノ議決

國ノ財政計
劃參與ノ權

第二國ノ財政計劃ニ參與スルノ權

事後ノ議決ナリ。(二)協賛ハ他者ノ要求ニ基ツキ若クハ自カラ發議スル事ニヨルモノナリト雖モ、承諾ハ常ニ他者ノ要求ニ基ヅクモノナリ。(三)協賛ナケレバ議案常ニ成立セズト雖モ、承諾ハ之レヲ與ヘザルモ、其ノ行爲常ニ無効トナルニアラズ。即チ承諾ヲ得ザリシ行爲ヨリシテ、既往ニ生ジリタル效果ハ、不承諾ノタメニ動カサル、コトナシ。(四)協賛ハ積極的ニ其ノ發布ヲ希望スルノ意思ヲ表示スルモノナルニ、承諾ハ消極的ニ議會ニ異議ナキコトヲ表示スルモノナリ。(五)協賛ノ權ハ修正ノ權ヲ包含スレトモ、承諾ノ權ハ承諾ヲ與フルカ與ヘザルカノ外ナクシテ修正ノ權ナシ。

(三) 憲法ノ改正案ヲ議スルコト

憲法第七十三條ノ規定ニヨリ、憲法ヲ改正スル時ハ、必ラズ議會ノ議ニ附セラルベキモノトス。併シ議院ハ改正案ヲ修正スルヲ得ザルナリ。若シ修正權アリトセバ、新タニ議案ヲ作成スルト同ジキガ故ニ、勅命ニヨリ發案セザルベカラザルノ趣旨ト反スレバナリ。憲法改正案議決ニ關スルコトハ、第一章第四節ニ説キタルヲ以テ茲ニ之レヲ略ス。

豫算案ノ協
賛

豫算先議權

國債及國庫
負擔ノ契約
承諾

緊急財政處
分ノ承諾

(一) 豫算案ニ協賛スルコト

憲法第六十四條 國家ノ歲出歲入ハ、毎年豫算ヲ以テ帝國議會ノ協賛ヲ經ベシ。豫算ノ款項ニ超過シ又ハ豫算ノ外ニ生シタル支出アルトキハ、後日帝國議會ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス。同第六十五條 豫算ハ前ニ衆議院ニ提出スベシ。コノ規定ハ議會ガ豫算ニ對スル議定權ニシテ、財政監督ヲ定メタルモノナリ。豫算案ノ提出權ハ、政府ニ專屬ス。豫算案ハ必ズ衆議院ニ先ヅ提出スルモノトス。

(二) 國債及豫算外國庫負擔ノ契約ニ對スル協賛權

憲法第六十二條末項 國債ヲ起シ及豫算ニ定メタルモノヲ除ク外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スハ帝國議會ノ協賛ヲ經ヘシ。國債トハ國庫ノ負擔ニシテ、一年度ノ經常收入ヲ以テ支辨スル能ハザル場合ニ、負債ヲ起スヲ云フ。豫算外ニ國庫ノ負擔トナルベキ契約トハ、政府ガ一個人又ハ一會社ト私法上ノ契約ヲナスモノニシテ、豫算ヲ以テ定ムルモノニアラザルモノヲ云フ。以上二者ニ對シテ、議會ハ協賛スルノ權ヲ有スルナリ。

(三) 緊急財政處分ニ對スル承諾權

第二編 第四章 統治ノ機關 第二節 帝國議會

決算審査ノ
權

憲法第七十條 公共ノ安全ヲ保持スル爲緊急ノ需要アル場合ニ於テ内
外ノ情形ニ因リ政府ハ帝國議會ヲ召集スルコト能ハザルトキハ勅令ニ依
リ財政上必要ノ處分ヲナスコトヲ得。前項ノ場合ニ於テハ次ノ會期ニ於
テ帝國議會ニ提出シ其ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス。
(四) 決算ヲ審査スルコト

憲法第七十二條 國家ノ歲出歲入ノ決算ハ會計検査院之ヲ検査確定シ
政府ハ其ノ検査報告ト俱ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ。

六、貴族院及ビ衆議院ノ權能

貴族院及ビ衆議院ハ各獨立シテ、左ニ列舉スル權能ヲ有ス。

第一、上奏

憲法第四十九條 兩議院ハ各々天皇ニ上奏スルコトヲ得。議院法第五十一
條 各議院上奏セムトスルトキハ文書ヲ奉呈シ又ハ議長ヲ以テ總代トシ謁
見ヲ請ヒ之ヲ奉呈スルコトヲ得。上奏トハ天皇ニ對シテ、議院ノ一致セル意
思ヲ、文書ニ認メテ奉呈スルヲ云フ。上奏ノ内容ニハ何等ノ明文上ノ制限ナ
キヲ以テ、如何ナル事項ニツキテモ、上奏スルコトヲ得ルモノナリ。例ヘバ立

上奏ノ内容

上奏

上奏ノ形式

上奏ノ動議

上奏ノ採否

建議

法上豫算上政事上儀式上政府ノ行動上、既往將來ノ事等、スベテ何事ニツキラ
モ上奏スルコトヲ得。

各院ニ於テ上奏ヲナスニハ、文書ヲ以テスルヲ要ス。此ノ文書ハ宮内大臣
ノ手ヲ經テ奉呈スルコトアルベク、又ハ議長ヲ以テ總代トシ、謁見ヲ請ヒテ奉
呈セシムルコトヲ得ベシ。

各議院ニ於テ上奏ノ動議ヲ爲スニハ、三十人以上ノ贊成者アルヲ要スルナ
リ。

上奏ヲ受理シタル上ニ於テ、天皇ガ上奏ノ全部ヲ採用スルト否ト、或ハ其ノ
一部ヲ採用シテ他ヲ排斥スルトハ、全ク天皇ノ自由ナリ。

第二、建議

憲法第四十條 兩議院ハ法律又ハ其ノ他ノ事件ニ付各々其ノ意見ヲ政府
ニ建議スルコトヲ得。但シ其ノ採納ヲ得ザルモノハ同會期中ニ於テ再ビ建
議スルコトヲ得ズ。議院法第五十一條末項 各議院ノ建議ハ文書ヲ以テ政
府ニ呈出スベシ。同第五十二條 各議院ニ於テ上奏又ハ建議ノ動議ハ三十
人以上ノ贊成アルニ非レバ議題トナスコトヲ得ズ。

建議ノ意義

建議ノ内容

建議ノ動議

上奏ト建議ノ異ナル點

奏上

法制經濟大資料 (法制編)

三七〇

兩議院ハ各獨立シテ法律又ハ其ノ他ノ事件ニツキ、各々其意見ヲ政府ニ建議スルコトヲ得。其ノ採納ヲ得ザルモノハ、同會期中ニ於テ再ビ建議スルコトヲ得ズ。茲ニ政府トハ内閣總理大臣ヲ云フナリ。故ニ建議ハ文書ニ認メ、議長ヨリ内閣總理大臣ニ提出スルモノト知ルベシ。

建議ノ内容ニツキテハ、法律又ハ其ノ他ノ事件ニツキテアルヲ以テ、大體ニ於テ制限ナキモノト解シテ大差ナキモノナリ。然レドモ建議ハ其ノ本質上將來ニ向テ希望ヲ陳ブルモノニシテ既往ノ政策ヲ是非スルモノニアラス。法律ニツキテハ、各院法律案提出權ニヨリテ、之レヲ辨ズルコトヲ得ルヲ以テ、建議ノ必要ナキガ如クナレドモ、亦議院自ラ發案セズシテ、政府ヨリ發案セシムルコトヲ希望スル場合ナキニアラザルヲ以テ、茲ニ規定セシナリ。

各議院ニ於テ建議ノ動議ヲナスニハ、三十人以上ノ賛成者アルヲ要ス。上奏ト建議トノ異ナル點ハ次ノ如シ。(一)上奏ハ天皇ニ直接提出スルモノナルニ、建議ハ政府ニ提出スルモノナリ。(二)建議ハ同會期中再ビ爲スコトヲ得ズトノ制限アルモ、上奏ニハ此ノ如キ制限ナシ。

第三、奏上

奏上ナル語ハ憲法ニ用ヒラル、コトナシ、議院法及ビ議事規則ニ用ヒラレタリ。而シテ法律案ニ付キ、可決セシカ否決セシカヲ奏聞スルコトガ、奏上ノ主ナルモノナリ。

奏上ト上奏トノ異ナル點次ノ如シ。(一)上奏ハ議院ノ意見ノアル所ヲ奏聞シ、聖裁ヲ仰ガントスルヲ本則トス。奏上ハ唯議院議決ノ結果ヲ奏聞ニ達スルヲ以テ本則トス。(二)上奏ハ唯議題ヲ可決シタル場合ニ限ル。奏上ハ否決ノ場合、政府提出法律案否決ノ場合ニモナスコトアリ。(三)上奏ノ事項ハ無制限ナレドモ、奏上ハ議院固有ノ事務即議案可決ノ場合、政府提出案否決ノ場合、議長副議長候補者選舉ノ場合ニ限ラレ、他ニ及ブコトナシ。

第四、請願受理

憲法第五十條 兩議院ハ臣民ヨリ呈出スル請願書ヲ受クルコトヲ得。議院法第十三章請願規定ニヨリ兩議院ハ其ノ手續ヲ經テ呈出シタル請願書ハ之レヲ受理スベキモノトス。受理シタル請願書ハ、請願委員ニ付シテ、之レヲ審査セシム。請願委員ニ於テ、規程ニ合ハズト認ムルトキハ、紹介議員ヲ經テ之レヲ却下スベシ。反之請願委員ガ採用スベキモノト認ムルトキハ、請願文

奏上ト上奏トノ異ナル點

請願受理

請願ノ採否

書表ヲ作り、其ノ要領ヲ記載シ、毎週一回議院ニ報告スベキモノナリ。此ノ報告ニヨル請求アルカ、若クハ議員三十人以上ノ要求アルトキハ、各議院ハ其ノ請願事件ヲ會議ニ付シ、其ノ請願ヲ採用スベキコトヲ議定シタルトキハ、意見書ヲ付シ請願書ヲ政府ニ送附シ、時宜ニヨリ報告ヲ求ムルコトヲ得ベシ。各議院ハ各別ニ請願ヲ受ケ、互ニ相干預セザルモノトス。

請願書ノ制限

- (一) 法人ト認メラレタル者ノ外總代ノ名義ニテ出シタル請願。
- (二) 憲法ヲ變更スルノ請願。
- (三) 哀願ノ體式ヲ用ヒザル請願。
- (四) 皇室ニ對シ不敬ノ語ヲ用ヒ政府又ハ議院ニ對シ侮辱ノ語ヲ用ヒタル請願。
- (五) 司法及行政裁判ニ干預スル請願。
- (六) 議員ノ紹介ヲ經ザル請願。

第五、法律案提出權及法律案議決權

法律案提出權及議決權

憲法第三十八條 兩議院ハ政府ノ提出スル法律案ヲ議決シ及各々法律案ヲ提出スルコトヲ得。此ノ規定ニヨリ政府提出ノ法律案ヲ議決シ、及ビ各々

法律案ヲ提出スルノ權ヲ有ス。議員ノ發議ニヨリ其ノ院ヲ通過シタルトキ、始メテ議院ノ發案トナルモノナリ。而シテ兩議院ノ一ニ於テ否決シタル法律案ハ、同會期中再ビ之レヲ提出スルコトヲ得ザルモノトス。

第六、内部整理規則ノ制定權

内部整理規則ノ制定

憲法第五十一條 兩議院ハ此ノ憲法及議院法ニ掲クルモノ、外内外ノ整理ニ必要ナル諸規則ヲ定ムルコトヲ得。此ノ規定ニヨリ各院ノ制定セシモノハ、現行貴族院規則衆議院規則等コレナリ。コノ規則ハ、院ノ内部ニ於テノミ効力ヲ有シ、其ノ以外ニ及バズ。又憲法及ビ議院法ニ牴觸スル能ハザルモノトス。

第七、議員ノ資格審査及爭訟ノ判決

議員ノ資格審査及爭訟ノ判決

貴族院ハ貴族院令第九條ニヨリ、資格ヲ審査スルコト、議員ノ選舉訴訟ヲ判決スルノ權ヲ有ス。資格審査ハ議員ヨリ異議ヲ申立テタルトキ、之レヲ行ヒ、選舉訴訟ハ伯子男爵議員ノ各選舉人又ハ多額納稅者議員ノ互選者ヨリ、當選議員ヲ被告トシテ訴訟ヲ提起セシ場合ニ之レヲ判決ス。院議ヲ以テ議員ノ當選又ハ資格ヲ不當ト判決シタルトキハ、議長ハ其ノ出席ヲ停止シテ奏上

貴族院

衆議院

スルモノトス。此ノ規定ノ適用ハ、皇族公侯爵及ビ勅選セラレタル議員ニ及
バズ。

衆議院ハ議員ノ資格審査ヲナスニ止マリ、議員ノ選舉訴訟ヲ判決スルハ司
法裁判所ノ管轄ニ屬セシメラレタリ。議院法第七十八條ニ「衆議院ニ於テ議
員ノ資格ニ付異議ヲ生ジタルトキハ特ニ委員ヲ設ケ時日ヲ期シ之ヲ審査セ
シメ其ノ報告ヲ得テ之ヲ議決スベシ」ト規定セリ。無資格者ト議決セラレタ
ルトキハ、其ノ議員タル地位ヲ失フモノトス。

院内ノ警察

第八、院内ノ警察

院内警察權ハ議會權限ノ獨立ヲ保タシムルガ爲メニ、各議院ニ屬セシメ、議
院法及ビ各院ノ定ムル所ノ規則ニ從ヒ、議長之レヲ施行ス。執行機關トシテ
守衛及ビ警察官吏之レニ當ルモノトス。

議員ノ懲罰

第九、議員ノ懲罰

各議院ハ其ノ議員ニ對シ懲罰ノ權ヲ有ス。懲罰事件起リシトキハ、議長ハ
先ヅ之レヲ懲罰委員ニ付シテ審査セシメ、議院ノ議ヲ經テ之レヲ宣告ス。懲
罰ハ次ノ四種トス。(一)公開シタル議場ニテ譴責スルコト。(二)公開シタル議

議員ノ逮捕
許諾

場ニテ適當ノ謝辭ヲ述ベシムルコト。(三)一定ノ時日間出席ヲ停止スルコト。
(四)除名是ナリ。

第十、議員ノ逮捕許諾

憲法第五十三條 兩議院ノ議員ハ現行犯罪又ハ内亂外患ニ關ル罪ヲ除ク
外會期中其ノ院ノ許諾ナクシテ逮捕セラル、コトナシ。此ノ規定ニヨリ現
行犯罪又ハ内亂外患ニ關ル罪ヲ除ク外會期中ニ議員ヲ逮捕セントセバ、必ラ
ズ其ノ所屬ノ議院ノ許諾ヲ得ザルベカラズ。議院ハ自由ニ許諾ヲ決スルノ
權ヲ有スルモノナリ。

第十、議員ノ請暇及辭職ノ許可

議員ノ請暇ニシテ一週間以内ノモノハ、議長之レヲ許可シ、其ノ一週間ヲ超
ユルモノハ、議院ニ於テ之レヲ許可スルモノナリ。又衆議院議員ノ辭職ハ、其
ノ院ノ決議ヲ以テ之レヲ許可ス。貴族院議員ノ辭職ハ、議長ヲ經由シテ奏請
シ、勅許ヲ要スルモノトス。

備考

(1) 貴族院ノ權限

第二編 第四章 統治ノ機關 第二節 帝國議會

議員ノ請暇
及辭職ノ許
可

備考
貴族院ノ權
限

貴族院ハ特ニ次ニ述ブル二箇ノ權限ヲ有ス (一)貴族院令第十三條ニ「將來此ノ勅令ノ條項ヲ改正シ又ハ増補スルトキハ貴族院ノ議決ヲ經ベシ」トアルニヨリ、貴族院ハ貴族院令ノ改正、増補ヲ議決スルノ權ヲ有ス。

(二)天皇ノ諮詢ニ應ジテ、華族ノ特權ニ關スル條規ヲ議決スルノ權限ヲ有ス。

(2) 憲法中政府ノ意義

憲法中各條ニ使用スル政府トハ、勅命ヲ奉ジテ天皇ノ大權作用ヲ執行スル國務大臣ヲ指スモノナリト解スベシ。例ヘバ憲法第八條第三十八條ノ政府トハ、國務大臣勅旨ヲ奉ジテノ意ニシテ、第七十條、第七十一條ノ政府トハ、大權執行ノ機關トシテ行動スル國務大臣ノ意ナルガ如シ。

(3) 衆議院議場ノ圖

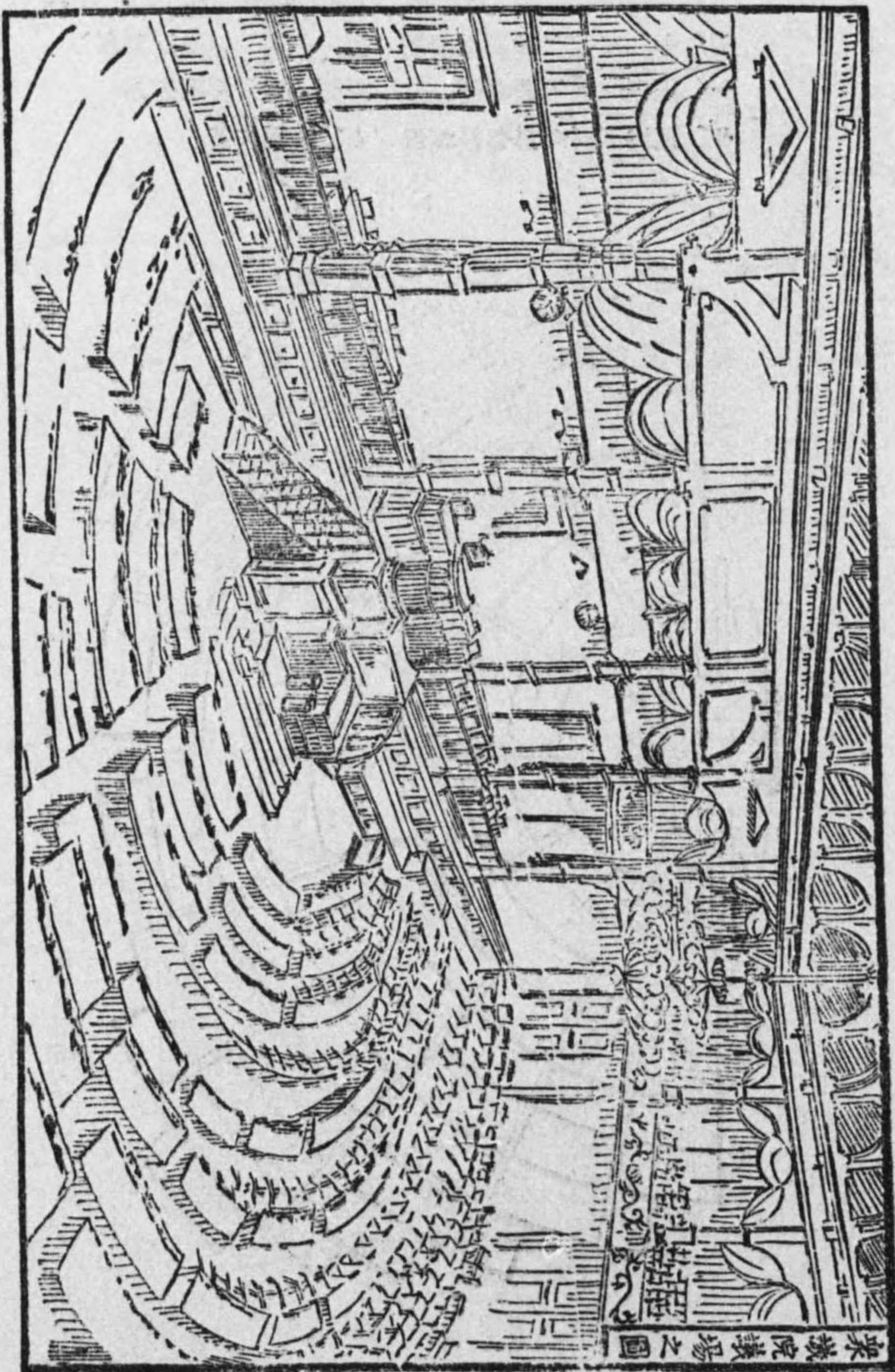
(4) 貴族院各種議員席

(5) 衆議院各黨派席

以上三圖ハ次ノ頁ニ載ス。

憲法中政府ノ意義

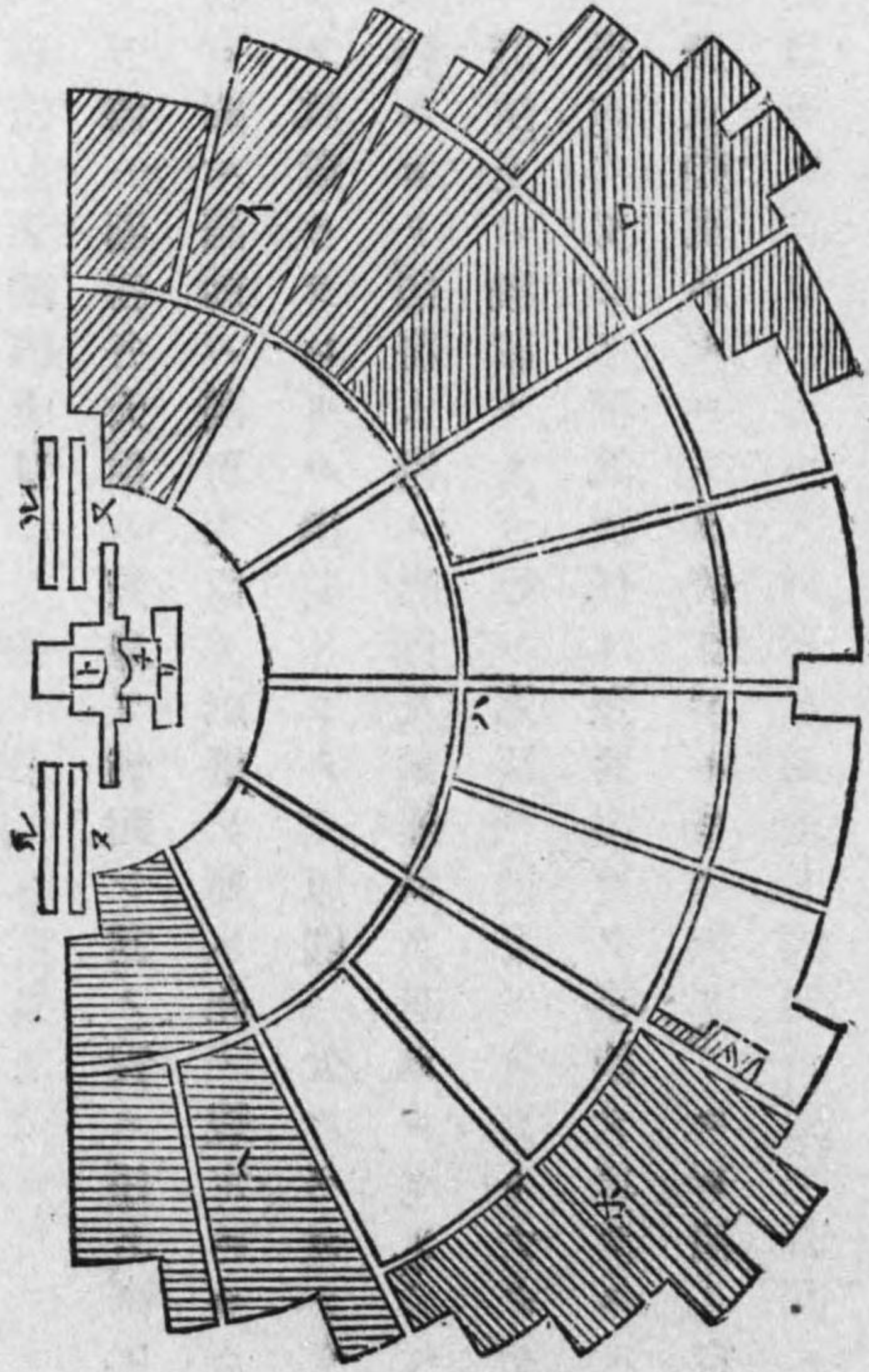
衆議院議場之圖



衆議院各黨派

衆議院 各黨派席 (明治四十一年十二月)

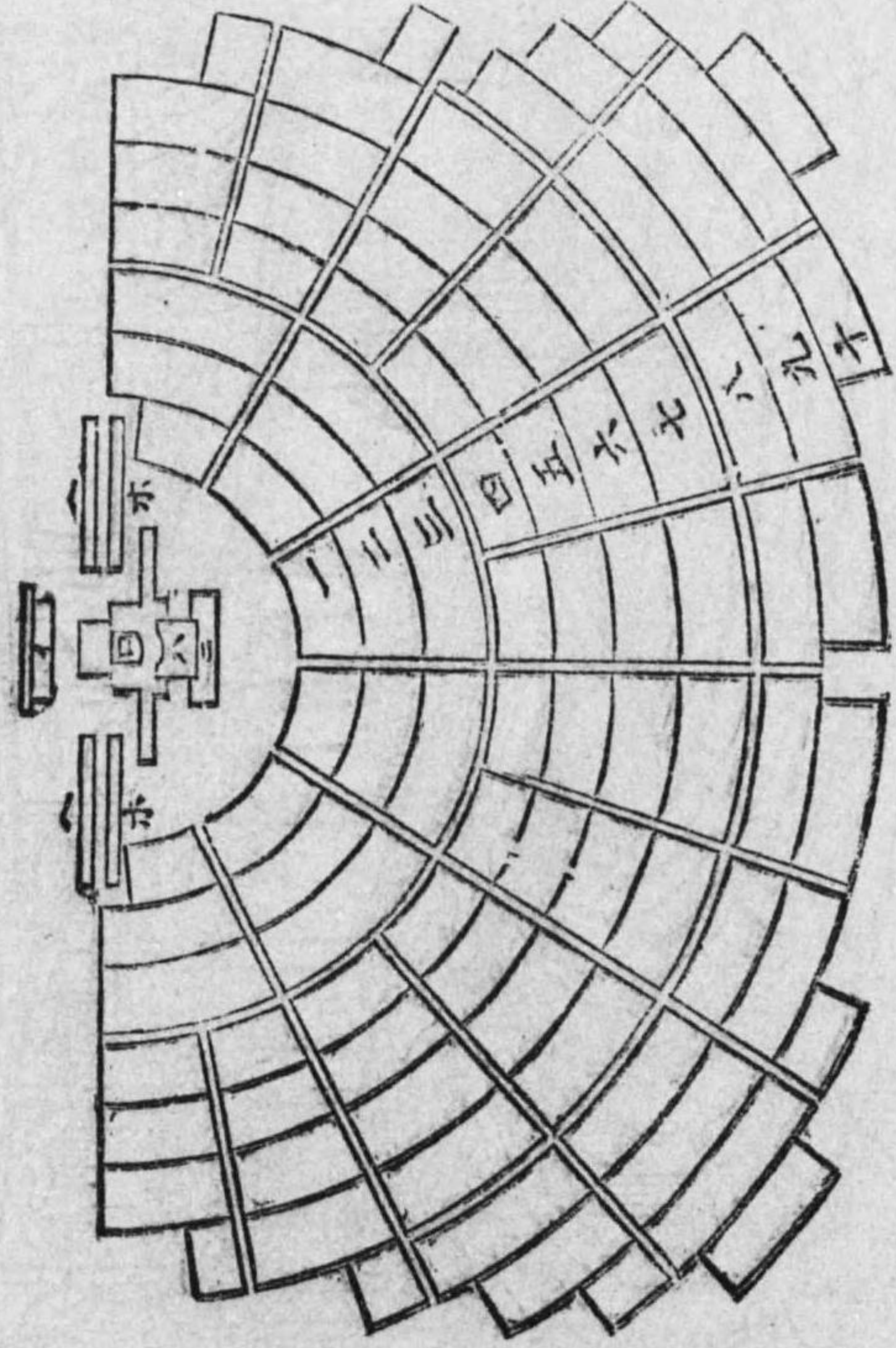
- 一、憲政本黨
- 二、無所屬
- 三、議長席
- 四、國務大臣及政府委員席
- 五、又新會
- 六、大同俱樂部
- 七、演壇
- 八、政友會
- 九、戊申俱樂部
- 十、速記者席
- 十一、書記官席



貴族院各議員席

貴族院 各種議員席 (明治四十一年十二月)

- 一、皇族
- 二、公侯爵
- 三、伯爵
- 四、子爵
- 五、男爵及勳選
- 六、多額納稅者
- 七、玉座
- 八、議長席
- 九、演壇
- 十、速記者席
- 十一、國務大臣及政府委員席
- 十二、書記官席



第三節 國務大臣 (Minister of State)

一、國務大臣ノ地位及ビ權限

第一、國務大臣ハ憲法上ノ機關ナリ

憲法第五十五條 國務各大臣ハ天皇ヲ輔弼シ其ノ責ニ任ス。凡テ法律勅令其ノ他國務ニ關ル詔勅ハ國務大臣ノ副署ヲ要ス。此ノ規定ニヨリ國務大臣ハ、憲法ニヨリテ設置セラレタル機關ニシテ立憲國ニ欠クベカラザルモノナリ。而シテ本條ニヨリ、國務大臣ノ地位及ビ權限ヲ明カニセリ。

國務大臣ハ憲法上ノ機關ナルガ故ニ、憲法ヲ變更スルコトナクシテ、之レヲ廢スルコトヲ得ズ。又其ノ權限責任モ憲法變更ノ手續ヲ以テスルノ外、普通ノ法令ヲ以テ、廢止變更スルコトヲ許サザルモノナリ。コレ他ノ官吏ト地位ヲ異ニスル所以ナリ。

國務大臣ハ必ズシモ行政各部ノ長官ニアラズ。諸國ノ實例トシテ國務大臣ハ、同時ニ行政各部ノ長官トシテ、一部ノ行政事務ヲ擔任スルコトアリ。コレ官制上便宜ノ爲ニスル偶然ノ符合ニシテ、必ズシモ國務大臣ノ地位ト相離

國務大臣ハ
憲法上ノ機
關ナリ

憲法ノ設置

行政長官

國務大臣ハ
大權輔弼ノ
權限ヲ有ス

輔弼ノ意義

輔弼ト天皇

ルベカラザルモノニ非ズ。所謂無定職ノ大臣ナルモノ、往々諸國ニ見ル所ナリ。國務大臣ト行政長官タル各省大臣トノ關係ハ、後項ニ之レヲ説明スベシ。

第二、國務大臣ハ大權輔弼ノ權限ヲ有ス

國務大臣ハ天皇ノ親裁セラルル政務(憲法上ノ大權行使)ヲ輔弼スルノ權限ヲ有スル機關ナリ。輔弼トハ大政ノ施行ニ參贊輔翼スルノ義ニシテ、天皇ノ意思ヲ決定スルニアタリ、進デ意見ヲ上リ、若クハ天皇ノ命ヲ奉ジテ、其ノ大權作用ヲ執行スルコトヲ云フナリ。而シテ輔弼ニヨリ、天皇ノ大權行使ヲシテ違法タラシメズ、又最モ善ク國家ノ目的ヲ達スベキ施政ニ出デシメ、以テ君ヲシテ君タラシムルノ道ヲ全フセントスルニアリ。

國務大臣ノ輔弼ハ、内部ニ在リテ天皇ノ意思構成ニ參與スルニ過ギザルモノニシテ、天皇ノ意思決定ニ對シテ、自己ノ意思ヲ以テ之レヲ強制スル力アルモノニアラズ。故ニ若シ天皇ニシテ、強テ違法ノ行爲ヲ企テラル、時ハ大臣ハ之レヲ論争スル力ナシ。此ノ場合ニ於ケル天皇ノ命令ハ、天皇ノ意思ノミニヨリテ定マルモノナリ。蓋シ憲法上ノ大權行使ニツキテハ、獨立意思ヲ有スル機關ノ參與ヲ要件トセザルガ故ニ、假令國務大臣舉ツテ反對ノ意思ヲ奏

各自ノ輔弼

上スルモ、天皇ハ勅令又ハ詔勅ヲ發シ得ザルニアラズ。コレ大權ノ性質ヨリ來ル當然ノ結果ナリ。

輔弼ニツキテ我ガ憲法ハ、特ニ國務各大臣ト規定セリ。故ニ國務大臣ハ合議體ヲ以テ天皇ヲ輔弼スルニアラズシテ、單獨ニ各自天皇ヲ輔弼スルモノトス。從テ總理大臣モ各省ノ大臣モ、國務大臣トシテ輔弼ノ任ヲ盡スニ於テハ其ノ間ニ差異ナキモノトス。歐米民主國ニ於テハ、國務大臣ハ國會ノ代表者トシテ、主權ヲ掌握シテ一團體ヲ形成シ、常ニ一體ヲナシテ行動ス。然ルニ我ガ國ニ於テハ、主權ハ萬世一系ノ皇位ニ存スルガ故ニ、特ニ國務大臣ヲ一體トシテ行動セシムルノ必要ナシ。各國務大臣ハ各自大權ノ輔弼ヲナスモノトス。是レ我ガ憲法上ノ一特徴ナリ。

二、國務大臣ノ副署

副署ノ意義

第一、副署ノ意義

凡テ法律勅令其ノ他國務ニ關ル詔勅ハ國務大臣ノ副署ヲ要スト、憲法ニ規定セリ。副署トハ天皇大權ノ行使ガ、國務大臣ノ輔弼ニヨリテ行ハレ、國務大臣ヲ經由シタルコトヲ外部ニ表彰シテ、公證スル形式(大臣署名ヲ云フ。天皇

輔弼ト副署

ガ法律勅令其ノ他國務ニ關ル詔勅ヲ發セントスルトキハ、必ラズ國務大臣ニ命ジテ、副署ヲ爲サシメザルベカラズ。國務大臣ノ副署ナケレバ、天皇ノ命令ハ國法上ノ效力ヲ有セズ。從テ天皇ノ命令ハ、必ラズ一タビ國務大臣ヲ通過セザルベカラズ。故ニ國務大臣ハ其ノ副署ヲ命ゼラル、ニ當リ、其ノ意見ヲ上リ天皇ノ聰明ヲ披クコトヲ得ベシ。輔弼ナシト雖モ、天皇ハ命令スルコトヲ得。然レドモ副署ハ之レヲ缺クコトヲ得ザルガ故ニ、國務大臣ハ輔弼ノ機會ヲ失フコトナシ。自己ノ責任ノアルトコロ、必ラズヤ參贊輔翼シテ、過誤ナキコトヲ期スルヲ得ベシ。若シ國務大臣ノ副署ヲ必要トセザランカ、天皇之レヲ國務大臣ニ秘シテ命令スルコトアル場合ヲ想像シ得ベシ。故ニ副署ヲ必要ナル形式トスルハ、輔弼ノ機會ヲ失ハシメズシテ、以テ立憲政體ノ希圖スルトコロヲ達セシメントスルニアリ。

輔弼ハ國務大臣ノ權限タルト同時ニ其ノ職司タリ。故ニ輔弼ノ任ヲ盡サレバ、其ノ職務ヲ怠ル者ナリ。副署ハ輔弼シタルコトヲ公證スル形式ナレドモ、副署セザル事ニツキテモ、國務大臣ハ常ニ輔弼ノ任ヲ盡サルベカラズ。次ニ副署ト輔弼トハ、必ラズシモ同一ノ國務大臣ニ伴フベキモノニアラズ。

理論上ヨリ考フレバ、軍事ニ關スル法律若クハ勅令ニツキ、文部大臣タル國務大臣ガ副署スルモ妨ナキモノナリ。又一入ノ副署アレバ、形式ヲ充タヌニ足ルモノニシテ、必ズシモ總國務大臣ノ副署ヲ要スルモノニアラザルナリ。

第二、副署ノ拒絶

國務大臣ガ副署ヲ拒ムコトヲ得ルヤ否ヤニツキテハ、學者ニヨリ見解ヲ異ニス。或學者ハ拒ムコトヲ得ト唱へ、或學者ハ拒ムコトヲ得ズト唱フ。然レドモ國務大臣ハ、副署ヲ拒ムコトヲ得ズトスルヲ以テ、適當ナル解釋ナリト信ズ。何トナレバ國務大臣ガ副署ヲ拒絶スルハ、自己ノ意思ヲ以テ法律勅令若クハ詔勅ノ發布ヲ妨グルモノニシテ、天皇ノ實權國務大臣ニ移ルノ不都合ナル結果ヲ生スルニ至レバナリ。故ニ國務大臣ハ違憲若クハ違法ヲ理由トシテ、副署ヲ拒ムコトヲ得ザルモノシテ、天皇ノ命ニ默從スベキモノトス。然レドモ若シ天皇ニシテ、違憲若クハ違法ノ事項ニ副署ヲ命ゼラレタルコトアリトセバ、國務大臣ハ輔弼ノ職ヲ守テ之レヲ諫争シ、以テ天皇ノ總明ヲ披キ、君ヲシテ君タラシムルノ道ヲ盡スベキナリ。而シテ其ノ諫争ニシテ採用セラレズンバ、潔ク骸骨ヲ乞フテ冠ヲ掛クルノ外ナシ。其ノ辭職尙聽許セラレズン

副署ノ拒絶

バ、止ムナク君命ニ應ジテ副署スルカ、若クハ懲罰ニ甘ンズルノ外ナキモノトス。

副署事項

第三、副署事項

副署事項ハ原則トシテ、憲法第五十五條ニ定ムル、法律勅令其ノ他國務ニ關スル詔勅トス。公式令ニ於テ副署スベシト定メラレタルモノハ、詔書、勅書、憲法改正ノ上諭、皇室典範改正ノ上諭、皇室令ノ上諭、法律勅令、國際條約發表ノ上諭等トス。

三、國務大臣ノ責任

責任ノ意義

第一、責任ノ意義

國務大臣ノ職務ハ天皇ヲ輔弼スルニ在リ、其ノ輔弼ヲ誤レバ之レニ對シ天皇ニ責ヲ負フコトハ、憲法ノ明定スルトコロナリ。外國ニ於テハ議會ニ對シ若クハ國民ニ對シ、責任ヲ負フノ制ナレドモ、我が國務大臣ハ天皇ノ機關ニシテ、議會若クハ國民トハ關係無キノ制ナルヲ以テ、當然天皇ニ對シ責任ヲ負フベキモノトス。而シテ其ノ責任ハ職務上ノ責任ナルニヨリ、刑事上又ハ民事上ノ責任ニアラズシテ、官吏懲戒上ノ責任ナリトス。此ノ責任ニ對スル制裁

ニツキテハ、別ニ定ムルトコロナシ。故ニ制裁ノ方法ハ、天皇ノ決セラルルニ一任スベキモノナリ。

國務大臣ノ天皇ニ對シテ負フ所ノ責任ハ、連帶責任ニアラズシテ單獨ノ責任ナリ。蓋シ國務大臣ハ合議體ヲ以テ天皇ヲ輔弼スルモノニアラズシテ、單獨ニ輔弼ノ職責ヲ有スルノ結果ニ出ヅルモノナリ。

責任ト副署

第二、責任ト副署

國務大臣ノ責任ハ、副署ニヨリテ生ズルモノナリ。副署ナケレバ責任ナシ。何トナレバ副署ハ天皇ノ行爲、適法ナルコトヲ保證スルモノナレバ、若シ其ノ副署ニシテ誤ルコトアルトキハ、責任ヲ生ズルモノナリト論ズル學者アレドモ、此ノ說ハ我ガ憲法上當ヲ得タルモノニ非ズ。副署ノ存スルト否トハ、責任ノ有無ニ關セズ。憲法ノ明文ニハ「天皇ヲ輔弼シ其ノ責ニ任ズ」トアリテ、明カニ國務大臣ノ責任ハ、輔弼ノ行爲ヨリ生ズルモノナルコトヲ定メタリ。故ニ副署ハ正當ナルモ、輔弼其ノ宜シキヲ得ザルトキハ、責任ヲ生ズルモノナリ。

第三、天皇ノ不可侵ト責任

天皇ハ不可侵ナリ無答責ナリ。故ニ國務大臣ハ天皇ニ代リテ、其ノ責任ヲ

天皇ノ不可侵ト責任

負フモノナリトノ說アレドモ、コレ非ナリ。此ノ說ニヨレバ、天皇ガ不正ノ行爲ヲナシ、而カモ不可侵ニシテ無責任ナルトキハ、專制政治ノ弊ヲ生ス。故ニ立憲國ニ於テハ、天皇ノ行爲ニ對シ、大臣ヲシテ代リテ責任ヲ負ハシムルモノナリト云フニアリ。然レドモ元來法律上責任ナキ人ノ過失ニツキ、他人ガ代リテ其ノ責ニ任ズト云フハ解スベカラズ。天皇ハ無答責ニ拘ハラズ、大臣ガ天皇ノ過失ニ對シ、代リテ責ヲ負フトノ理由ハ、必竟無答責ノ行爲ニ對シテ責任アリト云フコト、ナリテ、論理上矛盾タルヲ免レズ。故ニ天皇ノ不可侵ト國務大臣ノ責任トハ、關聯セザルモノト論定スルヲ至當トスルナリ。

四、國務大臣ト各省大臣

國務大臣ト各省大臣(行政長官)トハ、其ノ地位及ビ職務ヲ異ニスルモノナルガ故ニ、我ガ國ノ如キ各省大臣ハ、必ラズ國務大臣タルノ國ニ於テモ、此ノ兩者ヲ混同スベキモノニアラズ。從テ各省大臣以外ノ者ニシテ、國務大臣タルコトヲ妨グズ。故ニ我ガ内閣官制第十條ニ各省大臣ノ外、國務大臣トシテ内閣員ニ列セシメラルコトアルベシト定メラレタリ。所謂無職ノ大臣ヲ設クルコトヲ得ルナリ。現行官制ニヨレバ、國務大臣タル人ハ同時ニ、各省ノ長官タリ。然レドモ憲法上國務

國務大臣

宮内大臣ト

國務大臣ト
各省大臣ト
ノ差異

備考
國務大臣ト
内閣

大臣ハ、天皇ヲ輔弼スル官ニシテ、行政ノ長官ニアラズ。併シ國務大臣ガ兼ネテ行政長官タルコトハ、憲法ノ明文ニ反スルコトニアラズ。國務大臣ハ内閣總理大臣外務大臣内務大臣大藏大臣陸軍大臣海軍大臣司法大臣文部大臣農商務大臣逓信大臣ノ十大臣トス。宮内大臣及び内大臣ハ、國務大臣ニアラズ。蓋シ宮内大臣ハ帝室ノ事務ヲ管理シ、宮内省官制ノ定ムル制限内ニ於テ行動スルモノニシテ、國家ノ政務ニ關シ天皇ヲ輔弼スルモノニアラズ。又内大臣ハ天皇ノ御璽及び國璽ヲ尙藏シ、天皇ニ常待シテ輔弼ノ任ニ當ルモノナリト雖モ、政務ニ干與スルモノニアラザレバナリ。左ニ國務大臣ト各省大臣トノ差異ヲ述ブベシ。

第一、國務大臣ハ憲法上設置セラレシ機關ナルニ反シ、各省大臣ハ官制ニヨリテ設置セラレシ機關ナリ。

第二、國務各大臣ハ天皇ヲ輔弼スルニ於テ、職務權限全ク同一ナレドモ、各省大臣ハ外政教育殖産軍事等各職務分擔ヲ異ニスルモノナリ。

備考

(1) 國務大臣ト内閣

憲法ニ於テ國務大臣制ヲ認メテ内閣合議制ヲ認メズ。内閣ナル名稱ハ

國務大臣ノ資格

官制ニ存スレドモ憲法ニ存セズ。而シテ其ノ官制ニ内閣ハ國務大臣ヲ以テ組織ストアリ。國務大臣ノ存廢ハ憲法ニヨルモノニシテ官制ノ變更ニ關セザルモノナリ。補弼ノタメ閣議ヲ經ルハ官制ノ規定ニヨルナリ。

(2) 國務大臣ノ資格

我が憲法ニ於テハ、特ニ國務大臣タルノ資格ヲ定メズ。從テ天皇ノ親任セラル、コトアレバ、國務大臣タルコトヲ得ルモノナリ。外國ニハ國務大臣ト議會ノ議員トヲ兼ヌルコトヲ得ザルノ制アレドモ、我が國ニ於テハ何等ノ規定ナキニヨリ、國務大臣ガ議會ノ議員トナリ、又ハ議會ノ議員ガ國務大臣トナルコトヲ得ルモノナリ。但シ國籍法ノ規定ニヨリ、歸化人歸化人ノ子並ビニ我國民ノ養子又ハ入夫トナリタルタメ、我が國籍ヲ得タル者ハ國務大臣タルコトヲ得ザルモノトス。

第四節 樞密顧問 (Privy Counsellor)

一、樞密顧問ノ地位

憲法第五十六條 樞密顧問ハ樞密院官制ノ定ムル所ニ依リ天皇ノ諮詢ニ應ヘ

憲法上ノ機

樞密顧問ト
國務大臣
ノ差異

重要ノ國務ヲ審議ス。此ノ規定ニヨリ、樞密顧問ハ天皇ノ諮詢ニ應ヘ、且重要ナル國務ヲ審議スル所ノ憲法上ノ機關ナリ。故ニ憲法ヲ廢スルニアラザレバ、之レヲ廢止スルコトヲ得ズ。左ニ樞密顧問ノ性質ヲ分解シ、且國務大臣トノ差異ヲ明カニスベシ。

第一、樞密顧問ハ樞密院ナル合議府ヲ組織シ、會議ニヨリテ意見ヲ一決シ、議長ヨリ上奏スルモノナリ。故ニ顧問官ハ別々ニ意見ヲ奉ルヲ得ズ。然ルニ國務大臣ハ各自單獨ニ、天皇ヲ輔弼スルモノナリ。

第二、樞密顧問ハ内部ニ在リテ、天皇ノ諮詢ニ應ズル機關ニシテ、國民ニ對シ命令權ヲ有セズ。然ルニ國務大臣ハ外部ニ對シ、副署ニヨリテ大權ノ行使ニ參與セルコトヲ公示ス。

第三、樞密顧問ニ諮詢スベキ事項ノ範圍ハ、官制ノ制定ニヨリテ定マル。然ルニ國務大臣ノ職權ハ、憲法ノ定ムル所ナリ。

第四、樞密顧問ハ必ラズシモ、凡テノ事項ニ就キテ諮詢ヲ受クルノ要件ナシ。然ルニ大權ノ行使ハ、必ラズ國務大臣ヲ經由スルヲ要件トス。

樞密顧問ハ右ノ如キ性質ナルヲ以テ、専ラ諮詢ニ應フ天皇ノ御下問ニ奉答スル

諮詢機關

ノ意ルノ機關ニシテ、立法ニ參與セズ行政ニ容喙セズ。其ノ間ニ介在シテ重要ナル國務ヲ審議シ、天皇ノ意思ヲ決定セラル、ノ參考ニ供スルモノナリ。故ニ政府ト議會ト衝突スルモ、別ニ全然離レタル樞密顧問アリテ、天皇ノ意思ヲ不偏不黨公平至純ニ決セシムルノ利アリ。而シテ吾君ヲシテ君タラシムルモノナリ。從テ内閣及ビ各省大臣ト公務上交渉スルノ外、他ノ官廳帝國議會又ハ臣民トノ間ニ、文書ノ往復其ノ他直接ノ交渉ヲ爲スコトヲ得ザルモノトス。故ニ樞密院ニ對スル請願上書其ノ他ノ通信ノ如キハ、之レヲ受理スルヲ得ザルモノナリ。樞密院トハ樞密顧問ノ合議體ヲ指ス。然レドモ樞密院タル合議體ハ、權限ノ主體ニアラズ。權限ノ主體ハ、各自ノ顧問官ニアリ。

二、樞密顧問ノ組織

樞密院ハ明治二十一年憲法ノ起草ニ際シテ、初メテ設置セラレタル所ニシテ、憲法皇室典範及ビ之レニ關係スル諸法令ガ、其ノ審議ニ附セラレ、憲法制定後尙引續キ存置セラレ。樞密顧問ノ組織ハ、樞密院官制ノ定ムル所ニヨル。其ノ官制中組織ニ關スル條文ヲ左ニ掲グ。

第一條 樞密院ハ天皇親臨シテ重要ノ國務ヲ諮詢スル所トス。

第二條 樞密院ハ議長一人副議長一人顧問官二十八人書記官長一人書記官三人ヲ以テ組織ス。(書記官長及書記官ハ表決ノ數ニ加ラズ)

第三條 樞密院ノ議長副議長顧問官ハ親任書記官長ハ勅任書記官ハ奏任トス。

第四條 何人タリトモ年齢四十歳ニ達シタルモノニ非ザレハ議長副議長及顧問官ニ任ズルコトヲ得ズ。

第十一條 各大臣ハ其職權上ヨリ樞密院ニ於テ顧問官タルノ地位ヲ有シ議席ニ列シ表決ノ權ヲ有ス。

右ニヨリ議長副議長顧問官ハ元勳練達ノ人ヲ選ミ、年齢四十歳以上ナルコトヲ要件トス。此ノ外國務大臣ハ其ノ職務上、當然顧問官トシテ議席ニ列シ、表決ノ權ヲ有スルモノトス。又官制ニ定メラレザレドモ、二十一年五月樞密院設置ノ當時ニ於ケル詔勅ニヨリ、在京成年以上ノ皇族男子ハ議席ニ列シ表決ノ權ヲ有セラル、モノトス。左ニ樞密院官制公布ノ聖旨ヲ掲ゲ、參考ニ供スベシ。

朕元勳及練達ノ人ヲ選ミ國務ヲ諮詢シ其啓沃ノ力ニ倚ルノ必要ヲ察シ樞密院ヲ設ケ朕カ至高顧問ノ府トナサントス茲ニ其官制及事務規程ヲ裁可シ之ヲ公布セシム。

三、樞密顧問ノ權限

第一、天皇諮詢事項

(一) 皇室典範ニ於テ其權限ニ屬セシメタル事項。

- (1) 皇位繼承ノ順序ノ變更典範九條
- (2) 遺命ヲ以テ太傅ヲ任ゼザリシ場合ニ、其ノ選任ヲナスコト(典範二七條)
- (3) 攝政ガ太傅ヲ退職セシメントスルトキ(典範二九條)
- (4) 土地物件ヲ皇室ノ御料ニ編入スルコト(典範四六條)
- (5) 皇室典範ノ改正及ビ増補典範六二條
- (6) 王ニ家名ヲ賜ヒ華族ニ列セシムルトキ典範増補一條五條
- (7) 王ヲシテ華族ノ家督相續人トナシ、又ハ華族ノ養子トナスコト(典範増補二條五條)
- (8) 皇族ノ特權ヲ剝奪セラレタル皇族ヲ臣籍ニ降ストキ(典範増補四條五條)

右事項ハ皇族會議及ビ樞密顧問ノ兩者ニ、諮詢セラル、コトヲ要ス。

(二) 憲法ノ條項又ハ憲法ニ附屬スル法律勅令ニ關スル草案及疑義

(三) 憲法第十四條戒嚴ノ宣告同第八條緊急勅令及第七十條財政ノ緊急處分ノ

議決事項

- 勅令及其他罰則ノ規定アル勅令
- (四) 列國交渉ノ條約及諸約束
- (五) 樞密院ノ官制及事務規程ノ改正ニ關スル事項
- (六) 前諸項ニ掲グルモノ、外、臨時ニ諮詢セラレタル事項諮詢スルト否トハ天皇ノ自由ナリ。又如何ナル事項ヲ諮詢スベキカ其ノ隨意ナリ)

第二、議決事項

皇室典範ニ於テ其ノ權限ニ屬セシメタル事項中、次ノ二項ハ天皇又ハ攝政ガ、大政ヲ親ラセラル、コト能ハザル故障アル場合ナルヲ以テ、諮詢セラル、コトナキガ故ニ、自ラ進ンデ決議ヲナスベキモノトス。

- (一) 天皇久シキニ亘ルノ故障ニ因リ、大政ヲ親ラスルコト能ハサル場合ニ、攝政ヲ置クヘキヤ否ヤヲ決スルトキ(典範一九條)
- (二) 攝政及攝政タルベキ者ノ順序變更ノ要否ヲ決スルトキ(典範二五條)

第三、判決ヲナスコト

行政裁判法第四十五條ニ依リ、權限裁判所ヲ設置スル迄ハ、樞密院ヲ以テ權限裁判所ニ充ツルモノトス。權限爭議ハ、行政裁判所ト司法裁判所トノ間ニ

判決ヲナスコト

於テ起ル問題ナリ。

四、樞密院會議

樞密院ノ會議ハ、顧問官十名以上出席スルニ非レバ、議事ヲ開クコトヲ得ズ。蓋シ國務大臣ハ當然院議ニ列スルノ權アルヲ以テ、若シ顧問官ノ出席十人以下ニ止マルトキハ、國務大臣ノミヲ以テ多數ヲ占ムルコトヲ得ベク、樞密院ヲシテ内閣ヨリ、獨立ノ地位ヲ有セシムルノ目的ニ反スルノ虞アルニ因ルナリ。樞密院ノ議事ハ、多數決ニヨリテ決スルコト、普通ノ合議體ニ於ケルト同ジト雖モ、其ノ議決ハ天皇ノ御參考ニ供セラル、ニ止マリ、法律上ノ効力アルモノニアラズ。

單ニ會議ニ列スルノ權アルニ止マリ、表決ニ加ハルノ權ナキモノアリ。書記官長及ビ各大臣ノ差遣セル政府委員コレナリ。書記官長ハ會議ニ附セラルベキ事項ヲ審査シテ、報告書ヲ調製シ、會議ニ列シテ辨明ノ任ニ當ル。政府委員モ會議ニ列シ、演述説明ヲナスモノトス。

公式令ニヨレバ、憲法、皇室典範ノ改正、條約緊急勅令等ニハ、樞密顧問ノ諮詢ヲ經タル旨ヲ、上諭ニ記載スルコトヲ以テ定式トセリ。

樞密顧問審議ノ事項ハ、細大トナク天皇ノ特別ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ、之レ

出席官數

公式令規定

ヲ公洩スルコトヲ得ズ。蓋樞機密勿ノ府ハ、人臣外ニ向テ譽ヲ求ムルノ地ノ非ザルナリ。

備考

樞密院議長

(1) 樞密院議長

明治二十一年創設以來議長タリシ者ヲ舉グレバ、伊藤博文・大木喬任・山縣有朋・黒田清隆・西園寺公望ノ五氏ナリ。

(2) 樞密院正副議長顧問官

樞密院正副議長顧問官

明治四十四年五月ノ現在ニ於ケル、樞密院組織左ノ如シ。

議長 山縣有朋 副議長 東久世通禧 顧問官 松方正義 樺山資紀 福岡孝悌 芳川顯正 細川潤次郎 河瀬真孝 中牟田倉之助 大鳥圭介 九鬼隆一 高崎正風 杉孫七郎 蜂須賀茂韶 高島鞆之助 伊東巳代治 黒田清綱 西德二郎 船越衛金子 堅太郎 末松謙澄 清浦奎吾 南部甕男 加藤弘之 青木周藏 都筑馨六 松平正直 香川敬三 三浦梧樓 牧野伸顯。合計三十名ナリ。

(3) 樞密顧問官ト宮中顧問官

樞密顧問官ト宮中顧問官

樞密顧問官ハ、國家ノ政務ニ關スル諮詢機關タルニヨリ、帝室ノ事務ニ關

スル諮詢機關タル宮中顧問官トハ、國法上全ク其ノ性質ヲ異ニス。蓋シ宮中顧問官ハ、帝室ノ典範儀式ニ係ル事件ニツキ、諮詢ニ奉答シ意見ヲ具上スルニ止マルモノニシテ、宮内省官制ニヨリテ設置セラル、モノナリト雖モ樞密顧問官ハ、國家ノ機關トシテ、憲法上其ノ設置ヲ明定スルモノナリ。

第五節 裁判所 (Court)

一、裁判所ノ地位

憲法第五十七條 司法權ハ天皇ノ名ニ於テ法律ニ依リ裁判所之ヲ行フ。裁判所ノ構成ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム。此ノ規定ニヨリ、裁判所ハ天皇ノ名ニ於テ、司法權ヲ行使スル憲法上ノ統治機關ナリ。司法權トハ統治權ノ一方面ノ作用ニシテ、司法權ノ主體ハ天皇ナリ。故ニ天皇ノ名ニ於テ、之レヲ行フト規定セリ。天皇ノ名ニ於テトハ、天皇ニ代テ裁判所ガ裁判スルコトヲ云フモノニシテ、判決文ニ天皇ノ名ヲ記載スベシトノ意ニアラザルナリ。次ニ司法權ハ裁判所之レヲ行フトアルニヨリ、天皇ガ司法作用ヲ行使スルニハ、必ラズ裁判所ナル機關ニヨラザルベカラズ。行政官應臨時委員若クハ其ノ他ノ機關ヲシテ、司法作用ヲ行使セシムルヲ得

憲法上ノ機關

司法作用ノ行使

ザルモノナリ。然シナガラ裁判所ノ行使スルモノハ、司法作用ノミニ限り、司法作用以外ノ政務ヲ行使セシムルハ、憲法違反ナリトスルハ誤ナリ。何トナレバ憲法ニハ司法作用ニノミ限り、之レヲ行フト規定セザルガ故ナリ。故ニ彼ノ登記事務ノ如キ、司法作用以外ノ政務ヲ裁判所ニ於テ行使セシムルモ、違憲ニアラザルナリ。司法ノ意義ニニアリ。一ハ廣義ノ司法ニシテ、一ハ狹義ノ司法ナリ。廣義ノ司法トハ、法規ノ侵害又ハ權利ノ論争ニ對シ、原告被告間ノ争ヲ裁判ト稱スル形式ニテ之レヲ審判シ、以テ法規ヲ維持スル統治ノ作用ヲ云フ。廣義ノ司法中、更ニ狹義ノ司法アリ。狹義ノ司法トハ、沿革的ノ意義ヲ有シ、民事、刑事ノ裁判ヲナス統治權ノ作用ノミヲ指ス。我ガ憲法ニ司法裁判所ト謂ヘルハ、此ノ狹義ノ司法ヲ指シタルナリ。裁判所ハ司法作用ヲ行使スルタメニ、特設セラレタル獨立ノ機關ナリ。コノ獨立ノ裁判所ヲ以テ、其ノ行使ノ機關トナスハ、三權分立ノ精神ニ基ヅキタルモノニシテ、立憲政體ノ要因ノ一タリ。蓋シ司法機關ヲシテ、立法及ビ行政ノ外ニ置キ、依テ民生ノ自由ノ確保セラレンコトヲ期スルナリ。次ニ獨立ノ機關タル裁判所トハ、憲法ニヨリテ獨立固有ニ、司法作用ヲ行フノ地位ヲ附與セラレタリトノ意ニアラズ。獨立トハ司法作用ヲ行使スルニ當リ、立法、行政等ノ他ノ機關ノ干涉

司法ノ意義

司法權ノ獨立

裁判所ノ構成

ノ下ニ立タシメザルノ義ナリ。

次ニ裁判所ノ構成ハ法律ヲ以テ之ヲ定ムトシ、普通ノ官廳ノ如ク之レヲ勅令ニ一任セザルハ、亦司法權ノ獨立ヲ保障スル所以ナリ。即チ裁判所ノ設置廢止及ビ管轄區域並ニ其ノ變更ハ法律ヲ以テ之レヲ定ム。

二、裁判所ノ種類

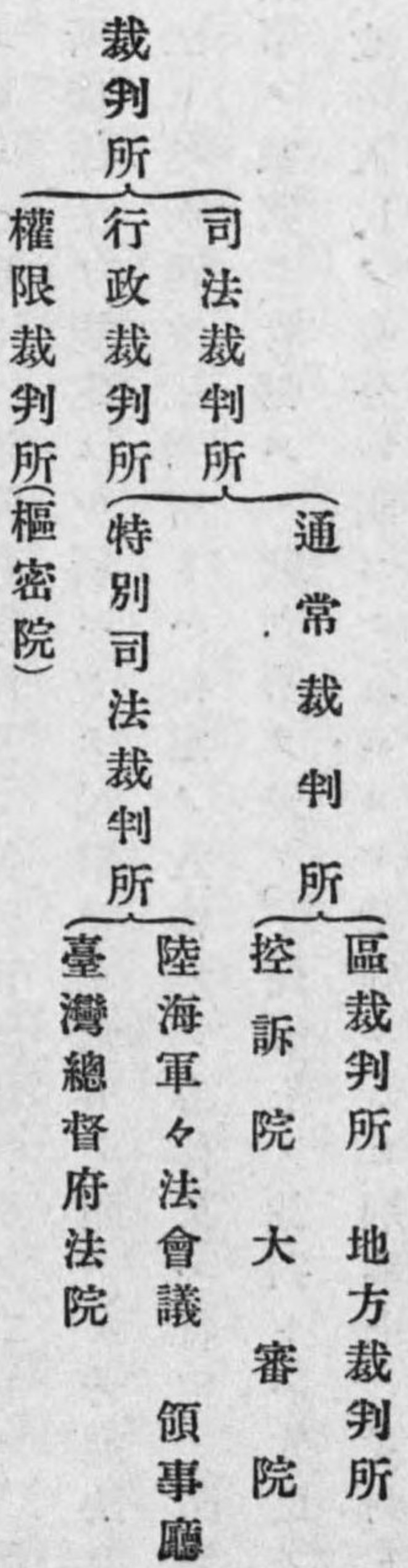
裁判所ハ大別シテ、司法裁判所、行政裁判所、權限裁判所ノ三トナス。行政裁判所ニ關スルコトハ後章行政法ノ終リニ説明スベシ。權限裁判所ハ我ガ國ニ特別ノ設置ナク樞密院ニ於テ審理スルモノナルコトハ前節ニ之レヲ説明セリ。司法裁判所ハ更ニ小別シテ通常裁判所及ビ特別司法裁判所ノ二トス。通常裁判所トハ裁判所構成法ノ規定スル所ニシテ民事及ビ刑事ニ關スル普通法ヲ適用スル裁判所ヲ云ヒ、特別司法裁判所トハ特定ノ人特定ノ事件又ハ特定ノ區域内ノ民事若クハ刑事ノ裁判ヲ管轄スル裁判所ヲ云フ。民事上ノ裁判トハ人民ノ財産上ノ權利ノ争、或ハ人民ノ身分ニ關スル争ニヨル裁判ヲ云ヒ、刑事上ノ裁判トハ刑事上ノ犯罪人ニ對シ、刑罰ヲ定ムル裁判ヲ云フ。通常裁判所ハ、區裁判所、地方裁判所、控訴院、大審院ノ四級トス。特別司法裁判所ハ、陸軍々法會議、海軍々法會議、領事廳、臺灣總

司法裁判所
行政裁判所
權限裁判所

通常裁判所

特別裁判所

督府法院等コレナリ。左ニ圖說スベシ。(臺灣・樺太關東州・韓國ノ司法制度ハ便宜上行政法ノ部ニ説クベシ)



三、通常裁判所ノ權限

第一區裁判所 (District Court)

區裁判所ハ各府縣ニ數個ヲ置ク最下級裁判所ニシテ、單獨判事ノ裁判スル單獨裁判所ナリ。左ニ權限ヲ述ブベシ。

(一) 民事訴訟

- (1) 二百圓ヲ超過セザル金額又ハ價格二百圓ヲ超過セザル物ニ關ル請求
- (2) 價額ニ拘ラズ左ノ訴訟
 - (イ) 住家其ノ他ノ建物又ハ或ル部分ノ受取明渡使用占據若ハ修繕ニ關リ

區裁判所

民事訴訟

又ハ賃借人ノ家具若ハ所持品ヲ賃借人ノ差押ヘタルコトニ關リ賃借人ト賃借人トノ間ニ起リタル訴訟

(ロ) 不動産ノ經界ノミニ關ル訴訟

(ハ) 占有ノミニ關ル訴訟

(ニ) 雇主ト雇人トノ間ニ雇期限一年以下ノ契約ニ關リ起リタル訴訟

(ホ) 左ニ掲ケタル事項ニ付旅人ト旅店若ハ飲食店ノ主人トノ間ニ又ハ旅人ト水陸運送人トノ間ニ起リタル訴訟

(一) 賄料又ハ宿料又ハ旅人ノ運送料又ハ之ニ伴フ手荷物ノ運送料

(二) 旅店若ハ飲食店ノ主人又ハ運送人ニ旅人ヨリ保護ノ爲預ケタル手荷物金錢又ハ有價物

(二) 刑事訴訟

刑事ニ於テ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス。但シ(2)以下ニ記載シタル罪ハ豫審ヲ經ザル者ニ限ル。

- (1) 拘留又ハ科料ニ該ル罪
- (2) 竊盜ノ罪

刑事訴訟

非訟事件

- (3) 竊盜及刑法第二百五十四條ノ罪ノ贓物ニ關スル罪
 - (4) 刑法第三百十條第三百七十五條第三百八十五條乃至第三百八十七條及第二百九條ノ罪並ニ第三百三十條ノ未遂罪
 - (5) 一年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ三百圓ヲ超過セザル罰金ニ該ル罪
二箇以上ノ主刑中其ノ一箇ヲ科スベキ罪ニシテ其ノ刑前項第一又ハ第五ノ規定ニ適セサルモノアルトキハ區裁判所ハ其ノ裁判權ヲ有セス
前條第一項第五ニ記載シタル罪ニ付テハ累犯又ハ併合罪トシテ處分スヘキ場合ト雖モ區裁判所其ノ裁判權ヲ有ス
- (三) 非訟事件
- 區裁判所ハ非訟事件ニツキ、法律ニ定メタル範圍及方法ニ從ヒ左ノ事務ヲ取扱フノ權ヲ有ス。
- (1) 未成年者瘋癲白痴者失踪者其ノ他法律若ハ判決ニ因リ治産ノ禁ヲ受ケタル者ノ後見人若ハ管財人ヲ監督スル事
 - (2) 不動産及船舶ニ關ル權利關係ヲ登記スル事
 - (3) 商業登記及特許局ニ登録シタル特許意匠及商標ノ登記ヲ爲ス事

地方裁判所

第二 地方裁判所 (Local Court)

非訟事件トハ訴訟事件ニ非ズシテ、司法裁判所ノ取扱フ事件ヲ云フ。故ニ權利ノ紛争又は犯行ノ處罰ニ付キ、裁判所ノ裁斷ヲ請求スルモノニ非ズルコトニシテ、單ニ公ノ權力ニ依ル認定許可又ハ處分ノ如キモノヲ請求スル事件ナリ。コレ蓋シ權利ノ不確定ナルニ因リ訴訟ノ起ルヲ避クルノ方法ナリ。而シテ非訟事件ハ區裁判所ノ管轄ニ屬スルヲ以テ通則トス。

地方裁判所ハ區裁判所ノ上ニアル、合議裁判所ニシテ各府縣ニ一箇ヲ置キ民事部、刑事部ヲ設ケ、各部判事三名ノ合議ニヨリ審問裁判スル所タリ。其ノ

民事訴訟

(一) 民事訴訟

- (1) 第一審トシテ區裁判所ノ權限又ハ皇族ニ對スル民事訴訟ヲ除キ其ノ他ノ請求
- (2) 第二審トシテ
 - (イ) 區裁判所ノ判決ニ對スル控訴
 - (ロ) 區裁判所ノ決定及命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告

(二) 刑事訴訟

(1) 第一審トシテ區裁判所ノ權限竝ニ大審院ノ特別權限ニ屬セサル刑事訴訟

(2) 第二審トシテ

(イ) 區裁判所ノ判決ニ對スル控訴

(ロ) 區裁判所ノ決定及命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告

(三) 其ノ他

(1) 地方裁判所ハ破産事件ニ付一般ノ裁判權ヲ有ス

(2) 非訴事件ニ關ル區裁判所ノ決定及命令ニ對シ法律ニ定メタル抗告ニツキ裁判權ヲ有ス

(3) 人事訴訟ニツキ特別ノ管轄權ヲ有ス。例ヘバ婚姻ノ無效若クハ取消、離婚等婚姻ニ關スル訴訟、私生兒ノ認知ニ關スルコト等ナリ。

第三控訴院 (Appeal Court)

控訴院ハ地方裁判所ノ上ニ立ツ合議裁判所ニシテ、東京、大阪、名古屋、廣島、長崎、宮城、函館ノ七箇所アリ。民事部及ビ刑事部ニ分チ、各部判事通常五名ノ合

議ニヨリ裁判スルモノトス。其ノ權限左ノ如シ。

(一) 地方裁判所ノ第一審判決ニ對スル控訴

(二) 區裁判所ノ判決ニ對スル控訴ニ付爲シタル地方裁判所ノ判決ニ對スル上告

(三) 地方裁判所ノ決定及命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告

(四) 衆議院議員ノ選舉ニツキ選舉訴訟及ビ當選訴訟ヲ受理ス

○東京控訴院ニ於テハ特別權限トシテ皇族ニ對スル民事訴訟ニ付第一審及第二審ノ裁判權ヲ有ス。(此ノ場合ニ於テ第一審ハ五名第二審ハ七名ノ判事ニヨリテ裁判ス)

第四大審院 (Supreme Court)

大審院ハ最高裁判所ニシテ、東京ニ一箇所ヲ置ク。民事部及ビ刑事部ヲ以テ成ル合議裁判所ナリ。判事七名ヲ以テ合議ス。其ノ權限左ノ如シ。

(一) 終審トシテ

(1) 地方裁判所ノ判決ニ對スル控訴ニツキ爲シタル控訴院ノ判決ニ對スル上告

(2) 皇族ニ對スル民事訴訟ノ第一審ノ判決ニ非サル控訴院ノ判決ニ對スル
上告

(3) 控訴院ノ決定及命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告

(二) 第一審ニシテ終審トシテ

刑法第七十三條第七十五條(皇室ニ對スル罪)及ビ第七十七條乃至第七十
九條(内亂ニ關スル罪)ノ罪、竝ニ皇族ノ犯シタル罪ニシテ禁錮以上ノ刑ニ處
スヘキモノ、豫審及裁判

(三) 選舉訴訟及ビ當選訴訟ニツキ控訴院ノ爲シタル判決ニ對スル上告ヲ裁判
ス

備考

各裁判所ノ
關係

(1) 各裁判所ノ關係

區裁判所ノ第一審事件ハ、地方裁判所ノ第二審(控訴)ノ判決ヲ經テ、控訴
院ノ第三審(上告即終審)ニ終リ、地方裁判所ノ第一審事件ハ控訴院ノ第二
審(控訴)ノ判決ヲ經テ、大審院ノ第三審(上告即終審)ニ終ルモノトス。

(第一審控訴)→(第二審)→上告→(第三審)

裁判所ノ配
置

區裁判所 → 地方裁判所 → 控訴院

地方裁判所 → 控訴院 → 大審院

(2) 裁判所ノ配置

イ) 大審院

東京ニ一箇所ヲ置キ、帝國內ノ裁判ヲ統一ス。

ロ) 控訴院

全國ヲ七區ニ分チ、其中樞地タル東京、大阪、名古屋、廣島、長崎、宮城、函館
ノ七箇所ニ置キ、管内ノ裁判事務ヲ統一ス。

ハ) 地方裁判所

三府四十三縣ニ各一箇所ヲ置ク。府縣所在地ニ在リ。北海道ニ於
テハ全道ヲ三區ニ分チ、函館、札幌、根室ノ三箇所ニ置ク。又樺太ニ一箇
所ヲ置ク。合計五拾ノ地方裁判所アリ。司法大臣ハ地方裁判所ト其
ノ管轄區域内ノ區裁判所ト遠ク相隔リ、又ハ交通不便ナルトキハ其ノ
區裁判所ニ地方裁判所支部ヲ設置シ、地方裁判所ニ屬スル民事、刑事、
一部ヲ取扱ハシムルコトアリ。現在地方裁判所支部七十二アリ。

(ニ) 區裁判所

區裁判所ハ地方裁判所管轄區域内樞要ノ地ニ之レヲ置ク。現在參百拾アリ。又區裁判所出張所一千三百八十四アリ。

(三) 特別司法裁判所

(イ) 軍法會議

軍法會議ハ軍人(將官及ビ同相當官)上長官士官下士諸卒(軍屬)陸海軍出仕ノ文官其ノ他總テ陸海軍ニ從事スル者及ビ陸海軍所屬ノ諸生徒ノ犯罪ヲ審判スル特別司法裁判所ナリ。特ニ之レヲ設ケタルハ特別ノ規律ニ服従スルモノニシテ軍事特殊ノ秘密アルガタメナリ。軍法會議ハ判士長判士理事又ハ理事候補(海軍ニ於テハ主理又ハ主理補)及ビ錄事ヲ以テ構成ス。陸軍軍法會議ハ旅管軍法會議・師管軍法會議・高等軍法會議等アリ。海軍軍法會議ハ鎮守府軍法會議・東京軍法會議等アリ。但シ軍人ト雖モ歸休兵及ビ豫備後備ノ軍籍ニ在ル者ハ召集中ノ外、軍法會議ノ審判ヲ受クルコトナク、通常裁判所ノ管轄ニ屬ス。

(ロ) 領事裁判

領事裁判權トハ締盟國ノ一方ガ他ノ一方ノ版圖内ニ於ケル自國人民ノ裁判ヲ、自國領事ヲシテ取扱ハシムルノ權ナリ。現時我が國ガ領事裁判權ヲ保有スルハ、清國及ビ暹羅國ニシテ、此ノ兩國ニ於ケル我が領事官ハ地方裁判所及ビ區裁判所ノ職務ヲ行フヲ原則トシ、重罪ノ公判ハ長崎地方裁判所之レヲ行フ。此ノ領事裁判ニ對スル控訴及ビ抗告ハ、其ノ事件區裁判所ノ權限ニ屬スルトキハ、長崎地方裁判所之レヲ受理シ、地方裁判所ノ權限ニ屬スルトキハ、長崎控訴院之レヲ管轄ス。

(ハ) 警察官署

警察署長分署長又ハ其ノ代理官吏ハ、其ノ管轄區域内ニ於テ警察犯處罰令ヲ犯シタル罪ヲ即決スルノ職權ヲ有ス。即チ刑事ヲ裁判スルモノニシテ、特別司法裁判所ノ一種ナリ。即決トハ裁判ノ正式ヲ用ヒズ、被告人ノ陳述ヲ聽キ證據ヲ調べ、直ニ言渡ヲナスモノナリ。即決ノ言渡ニ對シテハ、區裁判所ニ正式裁判ヲ請求スルコトヲ得。

四、通常裁判所職員

通常裁判所ニ於テハ裁判官(判事)書記執達吏・廷丁ヲ置キテ職員トシ、辯護士及ビ

特別司法裁判所
軍法會議

領事裁判

警察官署

公證人ヲ以テ、裁判所ノ監督ノ下ニ於ケル附屬員トス。左ニ之レヲ述ブベシ。

第一、裁判官 (Judge)

裁判官トハ裁判所ヲ構成スル官吏即チ判事ヲ云フ。裁判官ノ資格及ビ地位等次ノ如シ。

(一) 裁判官ノ資格

憲法第五十八條 裁判官ハ法律ニ定メタル資格ヲ具フル者ヲ以テ之ニ任ズトアリ。裁判官ハ訴訟ヲ斷ジ刑罰ヲ定ムル重要ノ官吏ニシテ法律上ノ學識及ビ經驗ヲ要スルモノナレバ法律ニ依リテ定メタル資格ヲ具フル者ニアラザレバ之レニ任ズルヲ許サズ。裁判所構成法第五十七條ニヨレバ判事ニ任ゼラル、ニハ二回ノ競争試験ヲ經ルコトヲ要ス。細則ハ判事檢事登用試験規則中ニ定ム。

(二) 裁判官ノ地位保障

憲法第五十八條第二項 裁判官ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルノ外其ノ職ヲ免ゼラル、コトナシ。懲戒ノ條規ハ法律ヲ以テ之ヲ定ムトアリ。又裁判所構成法第七十三條中ニ曰ク「判事ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處

裁判官

裁判官ノ資格

裁判官ノ地位保障

裁判官ノ獨立

司法權ノ獨立

判事ノ職務

分ニ由ルニ非ザレバ其ノ意ニ反シテ轉官轉所停職免職又ハ減俸セララル、コトトナシ」同第七十四條「判事身體若ハ精神ノ衰弱ニ因リ職務ヲ執ルコト能ハザルニ至リタルトキハ司法大臣ハ控訴院又ハ大審院ノ總會ノ決議ニ依リ之ニ退職ヲ命ズルコトヲ得」ト。以上ノ規定ニヨリ、裁判官ハ特別獨立ノ地位ヲ保障セララル、終身官ナリ。コノ完全強固ナル地位ヲ與フルハ、判事ヲシテ上官若クハ行政長官ノ威權ニ制セララル、コトナク、常ニ公正ノ裁斷ヲ下スコトヲ得セシメンガ爲メナリ。

判事ハ裁判ヲ下スニ當リテハ法令ノ規定ヲ以テ唯一ノ標準トシ、獨立ニ法規ヲ解釋シ自己ノ信念ヲ以テ裁斷シ、他ノ干涉ヲ受クルコトナシ。蓋シ司法權ハ天皇ノ名ニ於テ裁判所之ヲ行フトノ憲法上ノ明文ハ、所謂司法權獨立ノ原則ヲ明ニスルモノニシテ、裁判官ノ地位ヲ保障スルコトハ、此ノ原則ヲ實行スルニツキ必要ノ方法タルベシ。

判事ハ訴訟ヲ斷ジ法ヲ適用スルヲ以テ其ノ職務トナスモノナレバ、法律ノ不備欠缺ヲ口實トシテ、裁判ヲ爲スコトヲ拒ムコトヲ得ズ。又法律ノ不正不理ヲ口實トシテ、之ニ異ナル裁判ヲ下スコトヲ得ズ。

判事ハ其ノ取扱フ訴訟事件ト特別ノ關係ニヨリ裁判ノ公平ヲ妨グベキ事情ノ存スルトキハ、法律ノ規定ニヨリテ其ノ職務ノ執行ヨリ除斥セラレ、又ハ當事者ヨリ忌避セラレ、若クハ自ラ回避シテ職務ノ執行ヲ辭スルコトヲ得ルモノナリ。

判事ハ在職中(一)公然政事ニ關係スルコトヲ得ズ。(二)政黨ノ黨員政社ノ社員府縣郡市町村ノ議會ノ議員トナルコトヲ得ズ。(三)俸給アル又ハ金錢ノ利益ヲ目的トスル公務ニツクコトヲ得ズ。(四)商業ヲ營ミ又ハ其ノ他行政上ノ命令ヲ以テ禁ジタル業務ヲ營ムコトヲ得ズ。

第二、裁判所書記 (Clerk of the Court)

裁判所書記ハ其ノ通信會計記録ヲ掌ル吏員ニシテ、裁判所ニハ必ラズ之レヲ置カザルベカラズ。而シテ民事刑事ノ法廷ヲ開始スルトキハ、書記必ラズ之レニ列スルコトヲ要ス。若シ違フトキハ上告ノ理由トナルナリ。

第三、執達吏 (Sheriff)

執達吏ハ區裁判所ニ屬シ、其ノ所在地ニ役場ヲ設ケ、主トシテ左ノ職務ヲ行フモノトス。

- (一) 裁判所ヨリ發スル文書ヲ送達ス。但書記ヨリ直接ニ又ハ郵便ヲ以テ送達スル場合ハ此ノ限りニアラズ。
 - (二) 裁判ヲ執行ス。但刑事ニツキ警察官ヲ以テ執行セラル、場合ハ、此ノ限りニアラズ。(裁判ノ執行中、動産ニ關スル強制執行ハ其ノ重ナル職務ナリ)
 - (三) 當事者ノ委任ニヨリ告知及ビ催告ヲナシ、動産不動産ノ任意競賣ヲナシ、又ハ拒證書ヲ作ルコト。
 - (四) 裁判所又ハ檢事局ノ命令ニヨリ、書類物品ノ送付ヲナシ、罰金料科料ナドヲ繳收シ、及ビ沒收物品ヲ取上ゲ若クハ賣却シ、其ノ他令狀ノ執行ヲナスコト。
- 執達吏ハ司法大臣ノ任補スル所ニシテ、其ノ職務ニ對シテ保證金ヲ出スコトヲ要ス。執達吏ハ其ノ職務ヲ行フニツキ、定規ノ手数料ヲ受クルモノニシテ、若シ一年ノ收入セシ手数料百八十圓ニ充タザルトキハ、國庫ヨリ其ノ不足額ノ支給ヲ受クルモノトス。

第四、廷丁

廷丁ノ主要ナル職務ハ開廷ノ時ニ當リ、訴訟關係人ヲ法廷ニ出頭セシムルニアリ。又執達吏ヲ用キルコト能ハザル區裁判所ハ、書類ヲ送達スル爲メ廷

辯護士

丁ヲ用キルコトヲ得。

第五辯護士 (Advocate)

辯護士トハ辯護士法ニ定ムル所ノ資格ヲ有シ、且地方裁判所ノ辯護士名簿ニ登録セラレタルモノヲ云フ。辯護士ハ當事者ノ委任又ハ裁判所ノ命令ニ依リ、司法裁判所ニ於テ法律ニ定メタル職務ヲ行フ。例ヘバ刑事上ニ於テ被告ノ委任ニヨリ其ノ辯護ヲナシ、又被告ガ無能力者タルトキ若クハ重罪事件ニシテ被告ノ辯護人無キトキハ裁判所ノ命ニヨリテ辯護ヲナスコトヲ要シ、又民事上ニ於テ原告若クハ被告ガ自ラ訴訟ヲ爲サルトキハ、辯護士ヲ以テ訴訟代理人トナスガ如シ。故ニ辯護士ハ法律煩多ノ今日ニ於テ、訴訟ニ通ゼザル者ノ爲ニ辯護ヲナシ、權利ノアル所ヲ主張シ、意外ノ不利益ヲ蒙ラザラシムルタメニ訴訟上必要ナル補助機關ナリ。

公證人

第六公證人 (Public Notary)

公證人トハ公證人規則ニ定ムル資格ヲ有シ、且身元保證金ヲ納メ、區裁判所ノ管轄區域ヲ自己ノ受持區域トスルモノヲ云フ。公證人ハ權利上ノ紛議ヲ未發ニ防グ爲メ人民ノ囑託ニヨリ、民事ニ關スル公正證書ヲ作成スルヲ職務

手續ト法律

五、裁判ノ手續

第一手續ト法律

トス。此ノ證書ハ完全ノ證據力ヲ有シ、其ノ正本ニヨリ裁判所ノ命令ヲ以テ直チニ執行スルコトヲ得ルモノトス。例ヘバ死亡者自筆ノ遺言書ト雖モ裁判所ノ檢認ヲ經ルヲ要スレドモ、公正證書ノ遺言ハ、檢認ヲ經ズシテ完全ノ證據力ヲ有スルガ如シ。公證人ハ理由ナク、人民ノ囑託ヲ拒ムヲ得ズ。公證人規則ノ定ムル所ニ從ヒ、囑託人ヨリ手数料及ビ旅費日當ヲ受クルモノトス。

憲法第五十七條

司法權ハ天皇ノ名ニ於テ法律ニ依リ裁判所之ヲ行フ。此ノ規定ニヨリ裁判ノ手續ハ、法律ヲ以テ定ムベキモノトス。コレ民事訴訟法、刑事訴訟法ノ、法律ヲ以テ發布セラレタル所以ナリ。茲ニ法律ニ依リトアルニヨリ、裁判所ハ法律ノミヲ適用スベク、命令ヲ適用スルヲ得ズト解スルハ誤ナリ。裁判所ハ國法ヲ適用スルモノナレバ、法律ノミナラズ命令ヲモ適用スベキモノト解スベキナリ。

第二、對審判決ノ公開

憲法第五十九條

裁判ノ對審判決ハ之レヲ公開ス。但シ安寧秩序又ハ風

對審判決ノ公開

俗ヲ害スルノ虞アルトキハ法律ニ依リ又ハ裁判所ノ決議ヲ以テ對審ノ公開ヲ停ムルコトヲ得。此ノ規定ニヨリ裁判ノ對審判決ハ公開スルヲ原則トス。コレ執法ノ公正ヲ期シ、行政ノ不當ノ干渉ヲ容レズ、之レガ獨立ヲ保チ、臣民ノ生命身體財產權利ヲ安全ニ保障スル所以ナリ。唯例外トシテ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アルトキハ、法律ニヨリ又ハ裁判所ノ決議ヲ以テ對審ノ公開ヲ停ムルコトアレドモ、判決ハ例外ナク必ラズ之レヲ公開セザルベカラズ。若シ公開セザル判決アルトキハ、絕對ニ無効ナルモノト云フ。公開トハ公衆ノ來聽ヲ許スヲ云ヒ、對審判決トハ公判ノ審理手續及ビ原告被告ノ辯論ト證據トニヨリ、裁判所ガ法ヲ適用スルコトヲ包含ス。開廷中秩序ノ維持ハ裁判長ニ屬ス。裁判所ハ審問ヲ妨グル者、又ハ不當ノ行狀ヲ爲ス者ヲ、法廷ヨリ退カシムルノ權ヲ有ス。又裁判長ハ不當ノ言語ヲ用ケル辯護士ニ對シ、同事件ニツキ引續キ陳述スルノ權ヲ行フコトヲ禁ズルコトヲ得。裁判所ニ於テハ凡テ日本語ヲ用フ。審問ノ公正記録ハ、日本語ヲ以テ之レヲ作成ス。

第三、合議裁判所ノ裁判

合議裁判所ノ裁判ハ、定數ノ判事之レヲ評議シテ言渡ス。裁判ハ合議判事

合議裁判所ノ裁判

備考

過半數ノ意見ニヨル。判事ノ評議ハ之レヲ公行セズ。其ノ評議ノ顛末並ニ

各判事ノ意見及ビ多少ノ數ニ付テハ、嚴ニ秘密ヲ守ルコトヲ要ス。評議ノ際各判事意見ヲ述ブルノ順序ハ、官等ノ最モ低キ者ヲ始トシ、裁判長ヲ終リトス。

備考

(1) 司法裁判所ノ消極的限界

憲法第六十一條 行政官廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ傷害セラレタリトスルノ訴訟ニシテ別ニ法律ヲ以テ定メタル行政裁判所ノ裁判ニ屬スヘキモノハ司法裁判所ニ於テ受理スルノ限ニ在ラズ。コノ規定ニヨリ司法裁判所ノ行フベカラザル消極的限界ヲ明カニセリ。從テ司法裁判所ハ民事刑事ノ司法作用ノ機關タルナリ。

(2) 裁判所判事檢事人員

- 大審院ハ院長一人部長三人判事二十五人ヲ以テ定員トス。
- 大審院檢事局ハ檢事總長一人檢事七人ヲ以テ定員トス。
- 控訴院ハ院長七人部長二十一人判事百十人ヲ以テ定員トス。
- 控訴院檢事局ハ檢事長七人檢事二十九人ヲ以テ定員トス。

裁判所判事檢事人員

地方裁判所ハ所長五十人部長七十人判事二百九十三人ヲ以テ定員トス。
地方裁判所檢察局ハ檢事正五十人檢事九十二人ヲ以テ定員トス。

區裁判所ハ判事六百五十九人ヲ以テ定員トス。

區裁判所檢察局ハ檢事二百十五人ヲ以テ定員トス。

六、檢事局

第一、檢事局ノ組織

各通常裁判所ニ檢事局ヲ附置シ、以テ其ノ裁判所ニ屬スル事件ノ檢察事務ヲ管掌ス。裁判所トハ全ク獨立シタル行政官廳ナリ。各檢事局ニ定數ノ檢事ヲ置ク。監督ノ順序ハ司法大臣、全國各檢事局ヲ監督シ、大審院檢事總長、同院檢事局及ビ下級檢事局ヲ監督シ、以下控訴院、地方裁判所此ノ順ニ監督スルモノトス。若シ部下ノ檢事ノ事務取扱ヒニシテ、不適當又ハ不充分ナルトキハ、其ノ注意ヲ促シ若クハ必要ナル訓令ヲ發スルモノトス。

第二、檢事 (Public Procurator)

(一) 檢事ノ地位

檢事ハ其ノ任用法判事ト同一ナリ。然レドモ檢事ハ裁判官ニアラス。

檢事局ノ組織

檢事

檢事ノ地位

故ニ檢事ハ如何ナル方法ヲ以テスルモ、判事ノ裁判事務ニ干涉シ、又ハ裁判事務ヲ取扱フコトヲ得ズ。從テ檢事ノ事務ハ、裁判所ニ對シテ獨立シテ之レヲ行フモノトス。

檢事ハ普通行政官ノ如ク、上官ノ命令ニ從フコトヲ要スルモノニシテ、此ノ點ニ於テ、獨立不羈ノ裁判官ト其ノ性質ヲ異ニス。從テ裁判官タル判事ノ如ク、憲法上其ノ地位ヲ保障セラレズト雖モ、裁判所構成法第八十條ニヨリ、刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルニ非ザレバ、自己ノ意ニ反シテ免職セラル、コトナキ點ニ於テ、裁判官ト同様ノ保障ヲ受クルモノナリ。

(二) 檢事ノ職務

檢事ハ檢察事務ヲ行フ。檢事ハ刑事ニ關シテハ、公訴ヲ起シテ法律ノ正當ノ適用ヲ請求シ、裁判ニ立チ會ヒ、並ビニ判決ノ適當ニ執行セラル、ヤヲ監視シ、又民事ニ關シテハ其ノ事公益ニ關スルトキハ、裁判ニ立チ會ヒ意見ヲ陳述スルモノナリ。故ニ檢事ノ職務ハ主トシテ、公益ヲ代表スルニアリト雖モ、特定ノ場合ニ於テハ私益保護ヲナスコトアリ。例ヘバ心神喪失ノ常況ニ在ル者ノ爲メニ、檢事カ禁治產宣告ノ請求ヲ爲シ、或ハ父又ハ母ガ親

檢事ノ職務

刑事上

權ヲ濫用スル場合ニ於テ、子ノ爲メニ檢事カ親權喪失ノ宣告ヲ請求スルガ如シ。左ニ檢事ノ職務ニツキ、更ニ分類シテ説明スベシ。

(1) 刑事上

(イ) 公訴ノ準備及ビ提起

犯罪ヲ捜査シ犯人ヲ逮捕スル行爲ニシテ、檢事先ヅ事實ノ大體ヲ調査シ、起訴ノ價值アリト認ムルトキハ、公訴ヲ提起ス。檢事ニ非レバ、之レヲ提起スルコトヲ得ズ。準備トハ(一)官吏又ハ個人ノ告發ヲ受ク(二)犯人ノ自首ヲ受ク(三)被害者ノ告訴ヲ受ク(四)現行犯人ヲ逮捕ス(五)司法警察官ニ指揮命令ヲ下シテ、有罪嫌疑者ヲ逮捕セシムル等ナリ。

(ロ) 公訴ノ實行

犯罪ノ事實ヲ陳述シ、其ノ證據ヲ説明シ、辯解ヲ反駁シ、刑ノ適用ヲ要求スルナリ。檢事ハ被告ニ不利益ナル方面ヲノミ、主張スル職務ニアラズ、法ノ正當ナル適用ヲ要求スルモノナレバ、若シ被告ニ利益ナル證據ヲ發見シタルトキハ、亦之レヲ援用シテ、其ノ無罪又ハ輕減ヲ主張スル職務アルモノトス。

民事上

(ハ) 裁判ノ執行

裁判確定シ刑ノ宣告アリタルトキハ、其ノ執行ヲ指揮シ、無罪ノ宣告アリタルトキハ、被告ノ釋放ヲ指揮ス。但シ執行事務ニアタルモノハ司獄官警察官執達吏等ナリ。

(2) 民事上

(イ) 商法

商事會社ノ解散ヲ請求シ、又ハ商法ノ過料ニ關シ意見ヲ述べ、或ハ即時抗告ヲナス等ナリ。

(ロ) 民法

裁判所ガ民事訴訟ノ被告トナリタルトキ、其ノ裁判所ヲ代表ス。人事訴訟上法律ノ定ムル所ニ從ヒ、其ノ原告又ハ被告トナル。又禁治產ノ請求、不在者ノ財産管理人選定ノ請求等ヲナス。

第六節 會計検査院 (Board of Audit)

一、會計検査院ノ地位

憲法上ノ機關

天皇ニ直隸ス

検査院ノ員數

検査官ノ資格及地位

憲法第七十二條第二項 會計検査院ノ組織及職權ハ法律ヲ以テ之レヲ定ム此ノ規定ニヨリ、會計検査院ハ憲法上ノ機關ナリ。茲ニ法律トハ、明治二十二年五月法律第十五號ヲ以テ、公布セラレタル會計検査院法ヲ指ス。會計検査院法第一條ニ曰ク「會計検査院ハ天皇ニ直隸シ國務大臣ニ對シ特立ノ地位ヲ有ス」ト。即チ會計検査院ハ國務大臣ニ對スル獨立ノ機關ニシテ、天皇ニ直隸シ行政官廳ニ對シ監督者ノ地位ニ立ツモノナリ。獨立機關トハ、國務大臣ノ監督訓令ノ下ニ立タザルヲ云フ。蓋シ國務大臣ノ下ニ屬セシムルトキハ、行政官吏ノ會計上ノ職務ヲ監督スルコトヲ得ザルヲ以テ、天皇ニ直隸セシメタルナリ。故ニ會計検査院ハ、毎年度ノ決算ノ成績ヲ、天皇ニ直接上奏スルノ地位ヲ有スルモノナリ。

二、會計検査院ノ組織

會計検査院法第二條 會計検査院ハ院長一員部長三員検査官十二員ヲ置キ之ヲ會計検査官トシ別ニ書記官二員検査官補二十員及屬若干員ヲ置ク此ノ規定ニヨリ其ノ組織ヲ知ルコトヲ得。

會計検査官タルノ資格ハ年齢三十歳以上ノ者ニシテ五箇年以上高等行政官若クハ判事検査官補ノ職ニ在ル者及ビ在リタル者トス。會計検査官ハ特ニ身分上ノ保障ヲ有ス。刑事裁判若クハ懲戒裁判ニ依ルニ非ンバ其ノ意ニ反シテ退官轉官又ハ非職ヲ命ゼラル、コトナシ。コレ蓋シ其ノ職務ヲ正當ニ執行スルガタメニ安全ノ地位ヲ保障セルナリ。

會計検査官ハ父子兄弟同時ニ検査官トナルヲ得ザルノ規定アリ。又會計検査官ハ他ノ官職ヲ兼ネ及ビ帝國議會又ハ地方議會ノ議員トナルコトヲ得ズ。會計検査院長ハ勅任ニシテ親任官ノ待遇ヲ賜ヒ院務ヲ總理ス。部長ハ勅任又ハ奏任ニシテ部務ヲ掌理ス。

三、會計検査院ノ權限

會計検査院法第十二條 會計検査院ハ官金ノ收支官有物及國債ニ關ル計算ヲ検査確定シテ其ノ會計ヲ監督ス。

全法第十三條 會計検査院ノ検査ヲ要スルモノ左ノ如シ。

- (一) 總決算
- (二) 各官廳及官立諸營造ノ收支及官有物ニ關ル決算
- (三) 政府ヨリ補助金又ハ特約保證ヲ與フル團體及公立私立諸營造ノ收支ニ關ル決算

國庫ノ收支決算

検査ノ要項

報告書ノ作
成

(四)法律勅令ニ依リ特ニ會計検査院ノ検査ニ屬セラレタル決算
全法第十四條 會計検査院ハ憲法第七十二條ニ依リ決算ヲ検査確定スルト
時ニ左ノ諸項ニツキ報告書ヲ作ルベシ。

(一)總決算及各省決算報告書ノ金額ト各出納官吏ノ提出シタル計算書ノ金額
ト符合スルヤ否ヤ

(二)歳入ノ賦課徴收歳出ノ使用官有物ノ得有沽賣讓與及利用ハ各其ノ豫算ノ
規程又ハ法律勅令ニ違フコトナキヤ否ヤ

(三)豫算超過又ハ豫算外ノ支出ニシテ議會ノ承諾ヲ受ケサルモノナキヤ否ヤ。

全法第十五條 會計検査院ハ各年度ノ會計検査ノ成績ヲ上奏シ其ノ成績ニ就
テ法律又ハ行政上ノ改正ヲ必要トスヘキ事項アリト認ムルトキハ併セテ意見ヲ
上奏スルコトヲ得。

検査成績ノ
上奏

會計官吏ノ
處分當否ノ
判決

全法第二十條 會計検査院ハ出納官吏ノ計算證及證憑書類ヲ検査シ正當ナリ
ト判決シタルトキハ該官ニ對シ認可狀ヲ付シ其ノ責任ヲ解除ス若必要ナル場合
ニ於テハ之ヲ推問シ辯明又ハ正誤ヲ爲サシメ仍正當ナラスト判決シタルトキハ
本屬長官ニ移牒シテ處分ヲ爲サシム。

全法第二十一條 會計検査院ノ判決ニ據リ辨償ノ責ヲ負フ者ハ天皇ノ恩赦ニ
由ルノ外本屬長官之ヲ減免スルコトヲ得ズ。

全法第二十三條 政府ノ機密費ニ關ル計算ハ會計検査院ニ於テ検査ヲ行フ限
ニ在ラス。

検査報告ト
議會

憲法第七十二條 國家ノ歳出歳入ノ決算ハ會計検査院之ヲ確定シ政府ハ其ノ
検査報告ト俱ニ之ヲ帝國議會ニ提出スベシ。

以上ノ規定ニヨリ會計検査院ハ原則トシテ總テ國庫ノ收入・支出ノ決算ヲ検査
シ、會計官吏ニ認可狀ヲ付與ス。認可狀ハ會計上ノ責任解除ヲナスニ止マリ、民事
上及ビ刑事上ノ責任ニ付テハ效力ヲ有セサルモノトス。

第五章 統治ノ作用 (Function of Sovereignty)

第一節 總論

一、統治權

憲法ハ統治關係ノ法規ナリ。而シテ統治關係ハ、統治ノ主體・客體機關及ビ統治
ノ作用ヲ説明スルコトニヨリテ、全體ヲ通觀スルコトヲ得ルナリ。故ニ本章ニ於

テ、統治ノ作用ヲ述ブ。茲ニ統治ノ作用トハ、統治權ノ活動ヲ意味ス。即チ統治權ガ如何ニシテ働クカノ問題ナリ。而シテ此ノ統治ノ作用ヲ説明セントスルニ當リ、先ヅ統治權ヲ説明セザルベカラズ。統治權ノ大要ニツキテハ、本書第一編第二章第一節國家ノ概念ノ部ニ於テ述ベタレドモ、再ビ茲ニ詳説スベシ。

統治權トハ治者ガ被治者ニ對シテ有スル命令權ヲ云ヒ、其ノ命令權ニ服從セザル者アルトキハ、之レヲ遵奉スルコトヲ強制シ得ルノ權ヲサスナリ。而シテ統治權ハ其ノ他ニ於テ唯一不可分絶對無限固有最高獨立單一國家ノ性質ヲ有スルモノナリ。左ニ統治權ノ性質ヲ區分シテ説明スベシ。

命令強制ノ權

第一、命令強制ノ權

統治權ハ支配權ナリ。而シテ支配スル爲ニ命令ヲ下シ、命令ニ服從セザル者ニ對シ強制力ヲ加フルナリ。其ノ力ハ絶對無條件ニ相手方ノ意思如何ニ拘ラス、之レヲ強制シテ其ノ服從ヲ強ヒテ餘スコトナキモノトス。故ニ人民ハ自己ノ意思ヲ以テ、自由ニ國家ヨリ脱退スルコトヲ得ズシテ、其ノ意思ハ何處迄モ不自由ナリ、何處迄モ強制セラル、モノナリ。

唯一不可分性

第二、唯一不可分性

統治權ハ唯一ノ人格タル國家ノ意思ナルガ故ニ、又唯一ニシテ不可分ナルコトヲ性質トス。若シ統治權ヲ分チテ數個ノ主體ノ存スルモノト爲サバ、國家ヲ以テ數個ノ人格ニ分割スルモノニシテ、國家ノ唯一ナル人格ヲ認ムル所以ニ反スベシ。故ニ天ニ二日ナキガ如ク、國家ノ統治權ハ一アリテ二アルベカラズ。凡ソ物分立スレバ牴觸ノ虞アリ。國家ノ統治ニシテ牴觸矛盾センカ、人民ハ遂ニ適從スル所ヲ知ラザルニ至ラムノミ。

然レドモ統治權ノ不可分ナルコトハ、必ズシモ統治權ヲ行使スル機關ガ唯一不可分ナルコトヲ要スルモノニアラズ。統治權ヲ行フ機關ハ如何ニ多數ナルモ、之レヲ統一スベキ方法ニシテ備ハラバ、以テ國家意思ノ統一ヲ保ツコトヲ得ベク、統治權ノ唯一ナルコトヲ妨グルモノニアラザルナリ。若シ之レニ反シテ、二箇以上ノ機關ガ互ニ獨立シテ、其ノ間ニ統一ナキ時ハ、國家人格ノ分割ヲ來スヲ免レザルニ至ルナリ。

立憲國ニ於ケル立法行政司法ノ三權ハ、第一編第四章政體ノ部ニ述ベタルガ如ク、三權分立ノ意ニアラズ。統治權ノ作用ガ立法行政司法ノ三機關ヲ通ジテ行ハル、ノ意ナリ。故ニ統治權ハ不可分性ヲ有スルモノナリト謂フベ

絕對無限ノ權

第三、絕對無限ノ權

統治權ノ絕對トハ、命令ニ對スル服從ヲ絕對ニ強制シ得ルノ意ナリ。統治權ノ性質トシテ、統治權ハ相手方ノ意思如何ニ拘ラズ、絕對ニ之レヲ強制スルコトヲ得ルナリ。從テ統治權以外ノ權ニ對シテハ、服從者ハ自ラ其ノ關係ヲ脱シ得ルモ統治權ニ對シテハ自己ノ意思ヲ以テ、之レヲ脱スル能ハザルモノナリ。

又統治權ハ無限ナルコトヲ性質トス。無限トハ無制限萬能圓滿ニシテ、及バザル所ナキヲ云フ。無限ト云フモ事實上不可能ノ範圍ハ、固ヨリ之レヲ認ム。又自ラ設クル制限ニ從フノ外、他ノ制限ヲ受クルコトナシ。自ラ設クル制限モ亦制限ナリト雖モ、統治權ノ性質ガ無限ナレバ、自ラ制限スルコトヲ得ルノミ。自己ノ外ニ制限スルノ權力アルコトナシ。

固有ノ權

第四、固有ノ權

統治權ハ統治權者ガ原始的ニ之レヲ固有スルモノニシテ、他ヨリ與ヘラレ又ハ委任セラレタル力ニアラズ。此ノ點ニ於テ地方團體ノ有スル自治權ト

其ノ性質ヲ異ニスルモノナリ。即チ自治權ハ團體固有ノ權力ニアラズシテ統治權者ノ委任ニヨリ與ヘラレタル權力ナリ。故ニ統治權者ハ、隨意ニ此ノ權ヲ回收スルコトヲ得ルモノトス。之レニ反シテ、統治權ハ固有ノモノニシテ、他ヨリ繼受シタルモノニアラズ。故ニ國家ガ滅亡セザル以上ハ、他ヨリ回收セラル、ガ如キコトナキモノナリ。

最高獨立ノ權

第五、最高獨立ノ權

單一國家ニ於ケル統治權ハ、更ニ其ノ上ニ他ノ權力ヲ頂クコトナク、其ノ國家ニ於テ意思ノ優勝ナル力ヲ有シ、一切ノ人及ビ團體ニ對シテ命令強制ス。而シテ又何等ノ權力ニ服從シ制御セラル、コトナシ。之レヲ指シテ最高ニシテ獨立ナリト云フナリ。

此ノ統治權ノ最高且ツ獨立ナル性質ヲ稱シテ主權ト云ヒ、此ノ如キ權力ヲ有スル國家ヲ稱シテ主權國ト云フ。主權國トハ即チ自己ノ意思ニ基クノ外他ノ權力ノ制限ヲ受ケザル國家ヲ云フナリ。例ヘバ我が國ノ統治權ハ最高ニシテ獨立ナルヲ以テ主權國ナリ。然レドモ獨逸聯邦中ノ各邦及ビ白耳義等ノ國ニ於ケル統治權ハ、最高獨立ナラザルヲ以テ主權國ト稱スルヲ得ズ。

主權ト統治權

統治權ハ國家ノ要素ニシテ、此ノ權ナキトキハ國家成立セズト雖モ、主權ハ國家ノ要素ニアラズ。從テ主權ナキ國家モ、國家トシテ存立スルニ妨ナキモノナリ。

二、統治權ノ作用區分

統治權ノ作用トハ、統治權ノ活動ヲ意味ス。即チ統治權ノ働キヲ云フモノトス。凡ソ主體アル以上ハ、必ズヤ其ノ働キナカルベカラズ。統治權ノ作用ハ統治權ノ主體ガ活動スル形式ナリ。機關ハ假令廢止セラル、コトアリトスルモ、作用ハ決シテ廢止サルベキモノニアラズ。統治權ハ唯一不可分ナル權力ナリ。然レドモ其ノ作用ニ至リテハ、之レヲ別個ノ機關ニヨリテ行フコトヲ妨グズ。而シテ統治權ノ作用ヲ、別個ノ機關ニ分掌セシムルハ、統治權ノ不可分性ニ反スルガ如キモ、決シテ然ラズ。其ノ然ラザル所以ヲ述ベントセバ、先ヅ我が國ノ統治權ガ如何ナル作用ニ分レ居ルカヲ説述スルノ必要アリ。

統治ノ作用
ト統治權

我が國ニ於テハ立法司法行政ノ三權ヲ分テルコト憲法ノ精神ナリ。而シテ立法權ハ天皇ガ帝國議會ノ協贊ヲ以テ之レヲ行ヒ、司法權ハ裁判所ニ委任シ、獨立ノ解釋權ヲ以テ之レヲ行ハシメ、行政權ハ或ハ君主ノ親裁ニヨリ、又ハ他ノ機關ニ委

任シテ之レヲ行フ。此ノ點ヨリ見レバ、立法ノ事モ天皇ノ意思ニ依リテ決定セラレ、行政ノ權モ亦天皇ノ掌握セラル、所ナリ。司法ハ法規ヲ適用スル作用ニシテ立法權ニ服従スベキ性質ノモノナルガ故ニ、是レ亦天皇ノ立法權ノ拘束ヲ受クルモノナリ。此ノ如クシテ立法司法行政ハ、其ニ等シク同一ノ意思ノ主體タル天皇ニ依リテ總攬調和セラル、モノナリ。故ニ統治ノ機關ハ相互ニ獨立スト雖モ、其ノ天皇ヲ戴クハ即チ一ナルガ故ニ、天皇ノ權力ニヨリテ、各機關互ニ統一セラレテ國權ノ分裂ヲ來スコトナク、又一方ニハ互ニ相制シテ、統治ノ作用ヲ專權ナラシメザル效果アルナリ。コレ統治權ノ不可分ナルコト及ビ其ノ作用ヲ別個ノ機關ニ分掌セシムルコトノ可能ナル所以ナリ。我が統治權ノ作用ハ、憲法ノ規定ヲ基礎トシテ細分スレバ、次ノ如シ。

統治權ノ作用ヲ大別シテ二トス。第一ハ天皇自ラ行ハセラル、所ノ所謂大權作用ニシテ、第二ハ天皇ガ一定ノ機關ニ委任シテ行ハシムル作用ナリ。而シテ此ノ第一ノ作用ハ更ニ分チテ二トス。一ハ帝國議會ノ協贊ヲ要スルモノニシテ、立法豫算及ビ憲法第六十二條第二項ノ事項ナリ。他ハ帝國議會ト關係ナク、天皇ノ親裁セラル、政務、即チ狹義ノ大權作用、所謂憲法上ノ大權コレナリ。又第二ノ作

統治ノ作用
表解ノ作用

用モ更ニ之レヲ分チテニトス。一ハ司法ニシテ他ハ行政ナリ。行政ハ更ニ又細分シテ官治行政及ビ自治行政ノニトナス。左ニ之レヲ表解スベシ。



一、立法ノ意義

第二節 立法 (Legislation)

立法ト議會ノ協賛

立法トハ其ノ文字通りニ解スレバ、法ヲ立ツルノ義ナリ。故ニ法律ハ勿論勅令其ノ他官廳ノ命令ヲ制定スルコトヲモ、立法行爲ト謂ヒ得ベキガ如シ。然レドモ立法ノ文字ハ全ク固有ノ意味ヲ有シ、之レヲ廣ク解スルコトヲ許サズ。立法トハ法律ト稱スル國法ヲ制定スル統治權ノ作用ノミヲ指シテ名ケタル語ナリ。故ニ法律以外ノ國法、例ヘバ勅令ヲ制定スルガ如キハ之レヲ立法ト謂ハズ。憲法第五條ニ「天皇ハ帝國議會ノ協賛ヲ以テ立法權ヲ行フ」又同第三十七條ニ「凡テ法律ハ帝國議會ノ協賛ヲ經ルヲ要ス」ト規定セリ。議會ノ協賛ヲ要スル國法ハ、唯法律ノミナリ。故ニ議會ノ協賛ヲ以テ立法權ヲ行フトハ、法律ヲ制定スル行爲ガ立法權ナリト云フニ同ジ。

上述ノ如ク立法ナル行爲ハ、必ラズ議會ノ協賛ヲ經テ天皇之レヲ行フモノナリ。然レドモ之レヲ反對ニ、議會ノ協賛ヲ經ルノ行爲ハ、總テ立法ナルモノニアラズ。即チ豫算ヲ定メ國債ヲ起ス場合ニハ、議會ノ協賛ヲ經ルモ、立法ト稱スベキモノニアラザルナリ。故ニ立法トハ議會ノ協賛ヲ經テ法規ヲ制定スルヲ云ヒ法律トハ議會ノ協賛ヲ經タル法規ヲ指稱スルモノト云フベシ。

二、立法ノ區域

我が憲法上立法ノ區域ヲ明ニセントスレバ、法律ノ範圍ト命令トノ限界ヲ説明セザルベカラズ。之レヲ説明スルタメニ三事項ニ區別ス。(一)立法事項(二)法令共同事項(三)法律ヲ以テ規定シ能ハザル事ニコレナリ。左ニ之レヲ述ブベシ。

第一、立法事項

立法事項トハ法律ヲ以テスルニ非ザレバ、規定スル能ハザル事項ヲ云フ。即チ憲法上必ラズ法律ヲ以テ規定スベキコトヲ命ゼラレタルモノナリ。憲法第二章ニ保障セル臣民ノ權利義務ニ關スル事項ハ、多ク之レニ屬ス。故ニ憲法ニ規定シアラザル事項ハ、縦令法律ニテ規定セラルハ、モ立法事項ニアラズ。例ヘバ船舶又ハ河川ノ事ニ付キ、現行ノ法律アリ、故ニ此法律ヲ變更スルニハ、必ラズ法律ヲ以テセザルベカラズ。即チ一般ニ云フ法律ヲ要スル事項ナレドモ、所謂憲法上ノ立法事項ニアラズ。何トナレバ船舶又ハ河川ニ關シテハ、憲法ニ於テ必ラズ法律ヲ以テ規定スベキ保障ナケレバナリ。從テ現行船舶法又ハ河川法ノ廢止セラル、以後ハ、其ノ事項ニ關シ法律ヲ以テ規定スルモ命令ヲ以テ規定スルモ、憲法上自由ナリ。之レニ反シテ集會結社ニ關スル事項ハ、必ラズ法律ヲ以テ規定セザルベカラズ。コレ憲法ニ於テ此ノ事

項ニ關シテ、必ラズ法律ヲ以テ規定セザルベカラザルコトヲ保障スレバナリ。故ニ憲法上ノ立法事項ト單ニ法律ヲ要スル事項トヲ明ニ區別セザルベカラズ。立法事項ハ命令ヲ以テ規定スル能ハズ。若シ命令ニテ規定セントセバ、法律ガ特ニ規定ヲ設ケ特定ノ命令ニテ之レヲ規定スルコトヲ得ル旨ヲ明言セザルベカラズ。之レヲ法律ノ委任ト云ヒ此ノ委任ニ基キテ發スル命令ヲ委任命令ト云フ。立法事項左ノ如シ。

- (一) 戒嚴ノ要件及ビ效力(憲法一四條、戒嚴令)
- (二) 日本臣民タルノ要件(同一八條、國籍法)
- (三) 兵役ノ義務(同一〇條、徵兵令)
- (四) 納稅ノ義務(同一一條、各種ノ租稅法)
- (五) 居住及ビ移轉ノ制限(同一二條、行政執行法、傳染病豫防法)
- (六) 身體ノ自由ノ制限(同一三條、刑法、刑事訴訟法)
- (七) 住所不可侵ノ制限(同一五條、行政執行法、刑事訴訟法)
- (八) 信書秘密ノ制限(同一六條、郵便法、電信法)
- (九) 所有權ニ對スル公益上ノ必要處分(同一七條、民法、土地收用法、徵發令)

- (一) 言論著作印行集會及ビ結社ノ制限(同二九條、治安警察法)
- (二) 裁判所ノ構成(同五七條、裁判所構成法)
- (三) 裁判官ノ資格及ビ其ノ懲戒ノ條規(同五八條、裁判所構成法、刑事懲戒法)
- (四) 裁判公開ノ制限(同五九條、裁判所構成法)
- (五) 特別裁判所ノ管轄ニ屬スベキ事項(同六〇條)
- (六) 行政裁判所ノ管轄ニ屬スベキ事項(同六一條、行政裁判法)
- (七) 租稅ノ賦課及ビ稅率ノ變更(同六二條及ビ六三條、各種ノ租稅法)
- (八) 會計検査院ノ組織及ビ權限(同七二條、會計検査院法)

第二、法令共同事項

法令共同事項トハ法律ニテモ命令ニテモ規定スルコトヲ得ル事項ニシテ法律命令ノ何レヲ以テ規定スルモ、憲法ニ牴觸セザル事項ヲ云フナリ。憲法第九條ニ規定スル所ノ行政法規並ビニ憲法第十條ニ規定スル所ノ行政機關ノ組織法等此ノ範圍ニ屬ス。然レドモ一タビ法律ヲ以テ規定シタルモノハ、命令ヲ以テ變更スルコトヲ得ズ。必ラズ法律ヲ以テ變更セザルベカラザルナリ。故ニ法令共同ノ事項ガ、法律ニテ規定セラレタルトキハ、立法事項ト其

ノ效力ヲ等シクスルモノナリ。而シテ命令ハ法律ヲ變更スル效力ヲ有セザレドモ、法律ハ命令ヲ變更スル効力ヲ有スルガ故ニ、法令共同事項ノ範圍ハ、命令ノ規定ニヨリテ法律ノ範圍ヲ減縮スルコトヲ得ザレドモ、之レニ反シテ法令共同ノ事項ヲ法律ヲ以テ規定シタルトキハ、命令ノ範圍ハ法律ノ規定ノ加ハルニ從ヒ、益々減縮スルモノナリ。法令共同ノ事項左ノ如シ。

- (一) 法律ヲ執行スル爲メニ設クル條規(憲法九條)
- (二) 公共ノ安寧秩序ヲ保持シ及臣民ノ幸福ヲ増進スル爲メニ必要ナル命令ヲ發シ又ハ發セシム但シ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ得ズ(同九條)
- (三) 天皇ハ行政各部ノ官制及文武官ノ俸給ヲ定メ及文武官ヲ任免ス但シ此ノ憲法又ハ他ノ法律ニ特例ヲ掲ゲタルモノハ各々其ノ條項ニ依ル(同十條)

第三、法律ヲ以テ規定シ能ハザル事項

法律ヲ以テ規定シ能ハザル事項トハ全ク法律ノ干與シ能ハザル所ノ事項ヲ云フ。其ノ主ナルモノハ、憲法ガ之レヲ天皇ノ親裁ニ依リテ行フベキモノトセリ。之レヲ大權事項トモ云フ。凡テ統治ノ事務ハ、君主ニ於テ總攬セララルモノナリ。然ルニ特ニ憲法ニ於テ、天皇ノ親裁事項ヲ規定スルハ、其ノ事

項ヲシテ他ノ統治機關ノ權限ニ任セズシテ、必ラズ親裁ヲ必要トシタル精神ナルコト明カナリ。故ニ此ノ事項ハ必ラズ勅令ヲ以テ定メザルベカラズ。然レドモ必ズシモ勅令第何號ト云フ形式ヲ必要トセズ。例ヘバ條約ノ締結ノ如キモ此ノ事項ニ屬スレバナリ。法律ヲ以テ規定シ能ハザル事項左ノ如シ。

(一) 大權事項

法律ノ裁可及ビ公布執行議會ノ召集開會閉會停會及ビ衆議院ノ解散緊急命令執行命令及ビ獨立命令ノ發布官制ノ制定官吏ノ任免陸海軍ノ統帥編制宣戰媾和及ビ條約ノ締結戒嚴ノ宣告榮典授與恩赦權等第二編第四章第四節憲法上ノ大權ニ述ベシ所ノ事項コレナリ。

(二) 憲法ニ規定シタル事項

(三) 皇室典範ニ規定シタル事項

三、立法ノ手續

法律ノ制定ニツキテハ法律案ノ提出法律案ノ議定法律ノ裁可法律ノ公布ノ手續ヲ經ルヲ要ス。之レニツキテハ、第一編第五章第三節法ノ制定及ビ公布ノ所ニ

於テ、説明シタルヲ以テ茲ニ之レヲ略ス。

四、法律ノ形式的效力

第一、法律ト憲法

法律ト憲法ノ効力上ノ關係ニツキテハ、第二編第一章第五節第一憲法ト法律ノ項ニ於テ之レヲ述ベタリ。一言スレバ法律ヲ以テ憲法ヲ變更スルコトヲ得ザルモ憲法ヲ以テ法律ヲ變ズルコトヲ得ルモノナリ。

第二、法律ト皇室典範

法律ト皇室典範ノ効力上ノ關係ニツキテハ、第二編第三章第二節附皇室典範第四項皇室典範ノ効力ノ項ニ述ベタリ。一言スレバ法律ヲ以テ皇室典範ノ事項ヲ規定又ハ變更スルコトヲ得ザレトモ、皇室典範ノ規定ニヨリ法律ヲ變更スルコトヲ得ルモノナリ。

第三、法律ト大權命令

法律ト大權命令トハ、相互ニ變更スルコトヲ得ザル對等ノ關係ニアルモノトス。何トナレバ兩者共ニ天皇ノ命令ナリト雖モ、一ハ議會ノ協賛ヲ經テ之レヲ定メ、他ハ議會ニ關係ナク天皇親ラ定メラル、モノトシ、憲法ニ於テ區別

法律ト憲法

法律ト皇室典範

法律ト大權命令

ヲ設ケラレタルモノナレバナリ。

第四、法律ト委任命令及ビ緊急勅令

委任命令ハ憲法上法律ノ委任ヲ受ケ、緊急勅令ハ憲法上法律ニ代ルベキ命令ナルヲ以テ、兩者ハ法律ヲ變更スルコトヲ得ベク、又法律ハ此ノ兩者ノ命令ヲ變更スルコトヲ得ルモノナリ。

第五、法律ト執行命令及ビ獨立命令

憲法第九條ニヨリ執行命令ハ、法律ノ範圍内ニ於テ、其ノ執行手續ヲ定メ、又獨立命令ハ法律ニ牴觸セザル範圍内ニ於テ、行政上ノ規定ヲナスモノナルニヨリ、兩命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ得ザルモノトス。然レドモ法律ヲ以テ、此ノ兩命令ヲ變更スルハ妨ゲナキモノナリ。

五、法律廢止

法律ハ次ニ掲グル事由ニヨリテ廢滅ニ歸スルモノトス。

第一、憲法ヲ以テ法律ヲ廢止セラレタルトキ

第二、緊急勅令ヲ以テ法律ヲ廢止セラレタルトキ

第三、法律ガ豫メ定メタル實施期間ノ滿了

法律ト委任
命令及緊急
勅令

法律ト執行
命令及獨立
命令

第三節 豫算 (Budget)

一、豫算ノ性質

豫算ノ性質ニツキテハ、古來種々ノ學說アリ。其ノ主ナルモノヲ左ニ掲ゲテ之レヲ批評シ、且我が國ニ於ケル豫算ノ性質ヲ明カニスベシ。

第一說、豫算ハ法律ナリ

豫算ヲ法律ナリト解スル學說ニ二種アリ。豫算ヲ實質上ノ法律ナリト解スルモノト、豫算ヲ形式上ノ法律ナリト解スルモノコレナリ。豫算ハ實質上ノ法律ナリトノ說ニ從ヘバ、豫算ヲ以テ法律ヲ自由ニ廢止變更シ得ルノ結果ヲ生ズルモノナルニヨリ、我が國ニ於テハ採用スルヲ得ザルナリ。何トナレバ豫算ヲ以テ法律ヲ變更スルヲ得ルトセバ憲法第六十七條ノ規定ハ不要ニ

- 第四、法律ノ規定セル事項ノ滅失
- 第五、明示ノ廢止即チ新法ヲ以テ舊法ヲ廢止スル旨ヲ明言スル場合
- 第六、新舊兩法ノ牴觸ニ因ル舊法ノ廢止即チ牴觸部分ニ限リ舊法ガ其ノ效力ヲ失フ

豫算ハ法律
ナリ

豫算ハ委任
狀ナリ

屬スルヲ以テナリ。次ニ豫算ハ形式上ノ法律ナリトノ説ハ、普魯西巴丁索遜諸國ノ憲法ニ於テ「豫算ハ法律ヲ以テ定ム」トアルヨリ起リタルモノニシテ、議會ノ協賛ヲ經ルコト法律ト同ジキモ、法律タルノ實質及ビ效力ヲ有セザルモノヲ形式上ノ法律ト稱ストセリ。併シ我が國ノ如キ豫算ハ法律ヲ以テ定ムト規定セザル國ニ於テハ採用スルコトヲ得ザルナリ。

第二説 豫算ハ財政事務處理ノ委任狀ナリ

政府ガ財政上ノ事務ヲ處理スルハ、議會ノ委任ニ依ルモノナリトノ考ニ基ヅキ、豫算ハ議會ヨリ政府ニ與フル委任狀ナリト解スル説ナリ。此ノ説ハ議會ガ豫算ヲ否決シタルトキ、政府ノ更迭ヲ促スガ如キ國ノ事情ヲ説明スルヨリ來リタルモノニシテ、議會ガ此ノ如キ委任ヲナスノ權限ヲ有スルコトヲ前提トセザル以上ハ、行ハレザルモノナリ。我が國ノ如キ憲法ニ於テ財政上ノ事務ヲ行フ權限ヲ、議會ガ政府ニ委任シ得ルコトヲ認メタルモノナキガ故ニ採用スルヲ得ザルナリ。

第三説 豫算ハ政府ノ議會ニ對スル責任免除ノ手段ナリ

此ノ説ハ政府ガ豫算ニ從ヒ收入支出ヲナストキハ責任ヲ負ハザルモノニ

豫算ハ責任
免除ノ手段
ナリ

豫算ハ財政
上ノ訓令ナ
リ

テ議會ハ之レニヨリテ豫メ政府ノ責任ヲ免除スルコト、ナルナリ。此ノ説ハ政府ガ議會ニ對シ責任ヲ負フコトヲ前提トセザル以上ハ行ハレザルモノナリ。我が國ニ於テハ議會ハ政府ヲ監督スル機關ニアラズ。從テ此ノ説ヲ採用スルコトヲ得ザルモノナリ。以上ノ諸説ハ皆ナ我が國ノ豫算ノ性質ヲ明カニスルニ適セザルモノナリ。然ラバ豫算ノ性質ハ如何。

第四説 豫算ハ天皇ヨリ行政官廳ニ與フル財政上ノ訓令ナリ

此ノ説ハヨク我が國ノ豫算ノ性質ヲ明カニスルモノナリ。憲法制定以前ニ於テ、豫算ハ財政上ノ訓令ナリシコト疑ナシ。又憲法發布後ニ至リテハ、豫算ハ議會ノ協賛ヲ經ルコト、ナリタレドモ、之レガ爲メニ其ノ性質ニ變更ヲ受ケザルナリ。行政官廳ハ豫算ニヨリテ、財政事務處理ノ上ニ一定ノ拘束ヲ受ケルモノナリ。其ノ拘束ハ訓令ノ效果ナリ。即チ妄リニ豫算超過ノ支出及ビ豫算以外ノ支出ヲ爲スコトヲ得ズ。然レドモ拘束モ或點ニ於テ、融和交讓ノ餘地ヲ存ス。例ヘバ避クベカラザル豫算ノ不足ニツキ豫メ豫備費ノ目ヲ置クコト、及ビ豫算以上ノ收入ニ對シテ何等ノ制限ヲ置カザルコトノ如キ

コレナリ。之レ豫算ガ財政上ノ訓令タルヲ示スモノナリ。

二、豫算ノ制定

第一、豫算ノ調製

豫算ノ調製權ハ政府ニ在リテ、大藏大臣其ノ事務ヲ管理ス。大藏大臣ハ毎年總豫算ヲ編成シ、前年ノ帝國議會ノ始ニ於テ之レヲ提出スルモノトス。豫算編成ニ關シ主ナル原則左ノ如シ。

- (一) 豫算ハ毎年之レヲ定メザルベカラズ。會計法ノ定ムル所ニヨレバ、豫算ノ年度ハ毎年四月一日ヨリ翌年三月三十一日迄ヲ云フ。
- (二) 會計年度ノ一切ノ收入ヲ歲入トシ、一切ノ經費ヲ歲出トシテ、之レヲ總豫算ニ編入スベキモノトス。之レヲ豫算不分割ノ原則ト云フ。
- (三) 豫算ハ法律勅令ヲ基礎トシテ、之レヲ編成セザルベカラズ。蓋シ豫算ハ訓令ニシテ、外部臣民ニ直接ノ交渉ナキモノナルガ故ナリ。(憲法六七條參照)
- (四) 豫算中ニハ豫備費ヲ設クルヲ要ス。

第二、豫算案ノ議定

(一) 豫算案提出

豫算案提出權ハ政府獨リ之レヲ有シ兩議院ハ提出權ヲ有セザルモノトス。從テ議院ハ豫算ヲ修正スルコトヲ得ト雖モ、新タニ款項ヲ増加シ又ハ著シク豫算額ヲ増加スルコトヲ得ズ。蓋シ豫算提出權ヲ議院ニ與ヘザルハ、一地方ノ利益ノタメニ一國ノ事業トシテ必要ナキ費用ヲ濫リニ増加スルノ虞アレバナリ。豫算案ハ前ニ衆議院ニ提出スベキモノナリ。(憲法六五條)

(二) 豫算案議定

歲出歲入ノ豫算案ハ議會ノ協賛ヲ經ルヲ原則トス。政府ヨリ豫算案ヲ衆議院ニ提出シタルトキハ之レヲ議シ貴族院ニ廻付スベキモノトス。豫算ノ修正ニ關シ外國ニ於テハ衆議院ニノミ修正權ヲ與ヘ、貴族院ニ修正權ヲ與ヘザルノ例アレドモ、我が國ニ於テハ貴衆兩院共ニ修正權ヲ有スルナリ。

次ニ議會ハ自カラ豫算ニ收支ノ項目ヲ加ヘテ議決スルコトヲ得ズ。故ニ政府提出ノ豫算ノ款項ニツキ廢除削減ヲ加フルコトヲ得レドモ、新タニ款項ヲ加フル能ハズ。何トナレバ斯ノ如キコトヲ許サバ、議會ハ豫算案提出權ノ一部ヲ有スルコト、ナルヲ以テナリ。

(三) 豫算議定權ノ制限

豫算ノ議定權ハ、憲法第六十四條ノ規定ニヨリ帝國議會之レヲ有ス。其ノ議定ハ他ノ意思ニヨリテ拘束セラル、コトナシト雖モ、政府提出ノ豫算案ニ無制限ノ削減ヲ加フルコト能ハズ。憲法ノ規定ニヨリ議會ノ豫算議定權ニ對シ左ノ制限アリ。

(1) 皇室經費

憲法第六十六條ニヨリ皇室經費ハ、將來増額ヲ要スル場合ノ外帝國議會ノ協賛ヲ要セズ。從テ議會ハ之レニ對シ、削減ヲ加フルヲ得ザルモノナリ。

(2) 憲法上ノ大權ニ基ヅケル既定ノ歳出

文武官ノ俸給陸海軍軍事費外國條約ニヨル支出榮典授與ニ要スル費用等憲法上ノ大權ノ發動ノ結果トシテ生ズル國庫ノ負擔ニシテ、既定ノモノハ政府ノ同意ナクシテ、議會之レヲ廢除削減スルコトヲ得ズ。然レドモ既定ニアラザルモノハ、議會ガ自由ニ廢除削減スルコトヲ得ベシ。既定トハ豫算議定ノ當時ニ於テ、既定マレル支出ヲ云フ。而シテ支出

ガ既定トナルニハ、常ニ議會ノ協賛ヲ經ベキモノナルガ故ニ、豫算議定ノ當時ニ於テ既定マレル支出ハ常ニ前年度ノ議會ニ於テ協賛ヲ經タルモノナリ。(憲法六七條參照)

(3) 法律ノ結果ニヨリ政府ノ義務ニ屬スル支出

此ノ支出モ憲法第六十七條ノ結果、政府ノ同意ナケレバ議會ハ之レヲ廢除削減スルコトヲ得ズ。

(4) 豫備費

憲法第六十九條ニヨリ、政府ハ避クベカラザル豫算ノ不足ヲ補フ爲ニ又豫算ノ外ニ生ジタル必要ノ費用ニ充ツルタメニ豫備費ヲ設クベシ。豫備費ハ必ラズ之レヲ設クベキモノトス。唯其ノ額ハ議會自由ニ之レヲ議決スルコトヲ得ルニ過ギズ。

(5) 繼續費

憲法第六十八條ニヨリ政府ハ豫メ、年限ヲ定メ、繼續費トシテ議會ノ協賛ヲ求ムルコトヲ得。此ノ場合ニ於テハ繼續年限中、政府ガ毎年支出スル金額ハ、既定議會ノ協賛ヲ經タルモノナレバ、議會ハ或年度ニ於テ之レ

ヲ廢除削減スルコトヲ得ズ。

豫算ノ裁可

第三、豫算ノ裁可

議會ノ協賛ヲ經タル豫算ハ天皇ノ裁可ヲ經テ之レヲ公布スルモノトス。裁可ハ豫算案ヲ變ジテ豫算トナシ、單純ナル財政上ノ設計ヲ變ジテ、拘束力アル訓令トナス所ノ天皇ノ行爲ナリ。

三、豫算不成立

憲法第七十一條 帝國議會ニ於テ豫算ヲ議定セズ又ハ豫算成立ニ至ラザルトキハ政府ハ前年度ノ豫算ヲ施行スベシ。此ノ規定中、議會ガ豫算ヲ議定セズトハ、議會召集ニ應ゼザルカ、又ハ兩院ノ決議一定セザルカノ場合ヲ云ヒ、次ニ豫算成立ニ至ラザルトキトハ、衆議院解散ノ爲メ、又ハ天皇ガ裁可ヲ爲サル場合ヲ云フ。此レ等ノ場合ハ豫算不成立ナルヲ以テ、政府ハ前年度ノ豫算ヲ施行スベク、若シ前年度ノ豫算不成立ニシテ、其ノ前年度ノ豫算ヲ施行セシトキハ前々年度ノ豫算ヲ施行スベキモノナリ。

四、豫算外ノ緊急支出

憲法第七十條 公共ノ安全ヲ保持スル爲緊急ノ需用アル場合ニ於テ内外ノ情

形ニ因リ政府ハ帝國議會ヲ召集スルコト能ハザルトキハ勅令ニヨリ財政上必要ノ處分ヲナスコトヲ得。

前項ノ場合ニ於テハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出シ其ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス。此ノ財政上ノ緊急處分ニツキテハ、第二編第二章第四節憲法上ノ大權中第十六項ニ説明シタルヲ以テ、茲ニ之レヲ略ス。

五、豫算ノ效力

豫算ハ訓令トシテ如何ナル效力(拘束)ヲ政府ニ與フルカニツキテハ、之レヲ歳入豫算ノ效力ト歳出豫算ノ效力トニ分チニ説明スルヲ便トス。

歳入豫算ノ效力

第一、歳入豫算ノ效力

歳入ハ法律命令ノ定ムル結果トシテ、政府ガ收納スル權ヲ有スルモノナリ。故ニ其ノ法令ノ改廢セラレザル限リハ、假令豫算ハ不成立ニ終ルモ、乃至ハ豫算ト相違シタル收入アルモ、之レヲ收納スルニ妨ゲラル、コトナシ。故ニ歳入豫算ハ單ニ歳出豫算ノ參考タルニ止マリ、其ノ以外ニ特ニ效力トシテ舉グベキモノナシ。

歳出豫算ノ效力

第二、歳出豫算ノ效力

歳出豫算ハ一會計年度内ノ經費ノ最高限ヲ示シタルモノニシテ、其ノ以上ノ又ハ其ノ餘ノ支出ハ、直チニ臣民ノ負擔ヲ加重セシムル結果ヲ來タス恐レアルヲ以テ、之レニ關シ規定ヲ設ケ、政府ノ金錢濫用ヲ制限ス。其ノ主ナルモノ左ノ如シ。

- (一) 豫算ノ目的ニ違反シテ支出ヲ爲スコトヲ得ズ。從テ豫算ノ款項ハ互ニ之レヲ流用スルヲ得ザルモノナリ。
- (二) 豫算超過若クハ豫算外ノ支出ヲ爲スコト能ハズ。若シ止ムヲ得ザル必要アルトキハ、豫備費ヨリ支出セザルベカラズ。豫備費不足ナルトキハ議會ヲ召集シテ追加豫算ヲ出スカ、若クハ憲法第七十條ノ緊急處分ニヨラザルベカラザルモノナリトス。
- (三) 豫算ハ其ノ年度ノ支出ヲ定メタルモノナルヲ以テ其ノ金額ハ之レヲ前年度若クハ翌年度ノ支出ニ充當スルコトヲ得ザルヲ原則トス。

六、起債及ビ豫算外國庫負擔

憲法第六十二條第二項 國債ヲ起シ及豫算ニ定メタルモノヲ除ク外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スハ帝國議會ノ協贊ヲ經ベシ

國債トハ單ニ國家ノ債務ト云フ意ニアラズ。國家ノ債務ハ行政ノ進行ニ伴ヒテモ生ズルコト多ク、而カモ豫算ニ於テ定マリタル範圍内ニテ債務ヲ負擔スルハ、議會ノ協贊ヲ要スルコトナシ。所謂國債トハ國家ガ豫算以外ニ、特別ノ收入ヲ得ル目的ヲ以テ負擔スル債務ヲ云フ。次ニ豫算以外ニ國庫ノ負擔トナルベキ契約ト云フハ、豫算ニテ協贊ヲ經ルコトナシニ、國家ガ債務ヲ負擔スル契約ヲ云フナリ。以上二箇ノ場合ニハ、帝國議會ノ協贊ヲ經ルコトヲ要スルモノトス。

備考

(1) 國家ノ收入

國家ノ收入ニハ私法上ノモノト公法上ノモノトアリ。國家ガ私人ト同一ノ資格ヲ以テ私法上ノ名義ニテ收納スルモノハ前者ニ屬シ、國家ガ其ノ固有スル統治權ヲ行使シテ個人ヨリ強制徴收スルモノハ後者ニ屬ス。公法上ノ收入中ニハ租稅、手数料、罰金、料、沒收等アリ。此ノ中國家ガ公費ヲ支辨スル爲メニ徴收スルモノハ租稅ト手数料トナリ。之レニ關シ憲法ノ定ムルトコロ左ノ如シ。

憲法第六十二條 新ニ租稅ヲ課シ及稅率ヲ變更スルハ法律ヲ以テ之

備考
國家ノ收入

レヲ定ムベシ。但シ報償ニ屬スル行政上ノ手数料及其ノ他ノ收納金ハ前項ノ限ニ在ラズ。

憲法第六十三條 現行ノ租稅ハ更ニ法律ヲ以テ之ヲ改メザル限ハ舊ニ依リ之ヲ徵收ス。

(2) 歲出入ノ決算

歲出入ノ決算ハ會計検査院之レヲ検査確定シ、政府ハ其ノ検査報告ト共ニ之レヲ帝國議會ニ提出ス。會計検査院ハ收支ノ決算ニ違法ノ廉アルトキハ、出納官吏ノ責任ヲ問ヒ得ルモ、帝國議會ハ別ニ此ノ種ノ權限ヲ有セズ。故ニ議會ガ決算ヲ承諾セザレバトテ、唯政府トノ間ニ政治上ノ問題ヲ生ズルノ外、法律上ノ責任問題ヲ起スコトナシ。

第四節 大權作用

一、憲法上ノ大權

天皇ノ憲法上ノ大權ニツキテハ、第二編第二章第四節憲法上ノ大權ノ項ニ於テ説明シタルヲ以テ、茲ニ之レヲ略ス。然レドモ前ニハ憲法ノ條文解釋ヲナシタル

歲出入ノ決算

命令

モノナレバ、他方面ニ關係ヲ有スル命令命令ト法律トノ關係兵制權ノ三者ニツキ本項ニ於テ説明ノ補充ヲナスベシ。

第一、命令

命令ハ廣義ニ解スルトキハ次ノ六種ヲ包含スルモノトス。緊急勅令執行命令獨立命令委任命令大權命令及ビ命令ノ一種タル詔勅之レナリ。

(一) 緊急勅令(憲法第八條)

(二) 執行命令(憲法第九條)

(三) 獨立命令(憲法第九條) (又補充命令ト云フ)

(四) 委任命令(法律ノ委任)

(五) 大權命令(憲法第一章)

(六) 詔勅(命令ノ一種タル特種ノ形式)

命令

緊急勅令

執行命令

獨立命令

(一) 緊急勅令 (憲法第八條)

(二) 執行命令 (憲法第九條)

(三) 獨立命令 (憲法第九條)

以上三種ノ命令ニツキテハ、第二編第二章第四節憲法上ノ大權中、第三第

委任命令

四ノ項ニ説明シタルヲ以テ茲ニ之レヲ略ス。
 (四) 委任命令

委任命令トハ憲法上法律ヲ以テ定ムベキ事項ヲ、法律ノ委任ニヨリテ定メタル命令ヲ云フ。而シテ法律ヲ以テ規定スベキ事項ヲ、命令(勅令省令、府縣令等)ニテ規定スルニハ、必ラズ法律ノ委任ヲ要スルモノナリ。委任命令ノ憲法違反ナリヤ否ヤハ、學者間ニ議論アレドモ、一般ニ其ノ適法ナルコトヲ認ムルモノナリ。法律ガ其ノ法律事項ヲ定ムルニ、如何ナル方法ヲ以テ定ムルモ自由ナリ。故ニ委任命令ヲ認ムルコトヲ得ルヤ否ヤハ、憲法違反ノ問題ニアラズシテ、法律ノ制定ノ方法ニ關スル問題ニ過ギズ。從テ例之或一定ノ場合ニ或範圍以下ノ罰則ヲ、命令ヲ以テ定ムルコトヲ得ト規定スルガ如キハ、法律ガ直接ニ規定スル代ハリニ、間接ニ他ヲシテ規定セシムルニ止マルニヨリ、憲法ニ違反スルモノニアラザルナリ。委任事項ノ範圍ハ、特ニ制限ナキヲ以テ、法律事項ニツキテハ總テ之レヲ爲シ得ルモノナリ。而シテ委任命令ノ規定ハ、法律ノ内容ノ一部ヲナスモノニシテ實質上ノ效力ハ法律ガ自カラ定メタルト異ナルコト無シ。例ヘバ衆議院議員選舉法

大權命令

(五) 大權命令

施行令ガ、衆議院議員選舉法第百〇四條及ビ第百〇九條等ノ委任ヲ受ケテ、選舉ニ關スル費用及ビ直接國稅ノ種類ノ規定ヲ定メタルガ如キヲ委任命令ト云フ。

大權命令トハ憲法上ノ大權事項ヲ規定スルヲ以テ内容トスル命令ナリ。元來天皇ハ凡テ命令ヲ發スル大權ヲ有ス。然レドモ其ノ命令ノ内容其ノモノガ、大權事項タルモノト他ノモノトノ區別ヲスル爲ニ、之レヲ大權命令ト稱ス。即チ前ニ述べタル緊急勅令及ビ其ノ他一般ノ命令トヲ區別セルモノナリ。例ヘバ官制俸給令、文武官任用令、陸海軍編制ヲ定ムル命令等ハ大權命令ナリ。此ノ大權命令ハ諸他ノ命令ニ比シ、特種ノ效力ヲ有ス。其ノ効力ニツキテハ第二項ニ之レヲ述べベシ。

(六) 詔勅

詔勅ハ天皇ノ意思發表ニシテ命令ノ一種ナリ。憲法第五十五條第二項ニ、凡テ法律命令其ノ他國務ニ關スル詔勅ハ、國務大臣ノ副署ヲ要ストアリ。此ノ詔勅ナル文字ニツキ、如何ナル事ヲ詔トシ如何ナル事ヲ勅トスルカハ、

憲法上明定セズ。故ニ憲法上ヨリ解スルトキハ、天皇ノ大權ヲ行ハセラル、ニ當リテ、憲法ノ條項ニ特別ノ形式ヲ定メザル事ニツキテハ、詔勅ノ形式ニテ發表スルヲ妨ゲザルモノナリ。從來ノ例ニ徴スルニ、天皇ガ大權ニ屬スル處分ヲナシ、又ハ一定ノ事項ヲ宣告シ、又ハ政治上道徳上ノ宣告ヲナスニ、詔勅ノ名ヲ以テ發セラレタリ。然ルニ公式令ニ於テ詔書勅書ノ區別ヲ定メラレタリ。之レニツキテハ後項ノ大權作用ノ形式ニ述ブベシ。

第二、命令ト法律トノ關係

(一) 緊急勅令ト法律

緊急勅令ハ法律ニ代ルベキ命令ニシテ、形式ハ勅令ナレドモ、法律ト同一ノ效力ヲ有スルモノナルガ故ニ、緊急勅令ヲ以テ法律ヲ變更シ得ルモノナリ。又法律又ハ緊急勅令ヲ以テ、緊急勅令ヲ變更スルコトヲ得ルモノナリ。

(二) 執行命令及獨立命令ト法律
右二命令ハ憲法第九條ノ命令ニシテ、同條ノ但書、但シ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ得ズニヨリ、此ノ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ得ザルモ、法律ヲ以テ此ノ命令ヲ變更スルコトヲ得ルモノナリ。故ニ此ノ二命令

命令ト法律トノ關係
緊急勅令ト法律

執行命令及獨立命令ト法律

ト法律トノ關係ハ、同等ナル效力ヲ有セズシテ、法律ガ命令ニ優リタル效力ヲ有スルモノナリト謂フベシ。

此ノ憲法第九條ノ但書ヲ以テ、一般ノ命令ニ對スルモノトシ、スベテ一般ノ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ得ズト解スルハ誤リナリ。此ノ但書ハ憲法第九條ノ命令ト法律ノ關係ヲ規定スルニ止マルモノナリ。故ニ此ノ憲法第九條以外ノ命令ト法律トハ同等ナルモノナリ。

(三) 委任命令ト法律

委任命令ハ法律ノ委任ニヨリ法律ヲ以テ規定スベキ事項ヲ定メタルモノナレバ、法律ト同一ナルモノナリ。故ニ法律ヲ以テ委任命令ヲ變更シ得ルト共ニ、委任命令ヲ以テ法律ヲ變更シ得ルモノナリ。

以上述べタル所ニヨリ、法律ハ法律ヲ以テ變更廢止スルヲ原則トスト雖モ、其ノ他ニ緊急勅令及ビ委任命令ヲ以テ、法律ヲ變更廢止スルコトヲ得ルモノナリトス。此ノ二命令ヲ以テ法律ヲ動かスコトヲ得ルノ外、尙憲法及ビ皇室典範ノ規定ヲ以テ、法律ヲ變更廢止スルコトヲ得ルモノトス。

(四) 大權命令ト法律

委任命令ト法律

大權命令ト法律

大權命令ハ憲法上天皇ノ大權事項ヲ規定セルモノニシテ、天皇ニ專屬スルモノナリ。故ニ性質上法律ト對等ノ效力ヲ有セルモノナレバ、法律ヲ以テ大權命令ヲ變更スルヲ得ザルト共ニ、大權命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ得ザルモノトス。此ノ兩者相並立シテ相互ニ犯スコトヲ得ザル點ハ大權命令ノ特色ナリ。スベテ他ノ命令即チ緊急勅令、執行命令、獨立命令委任命令ハ、法律ヲ以テ之レヲ變更スルコトヲ得ルニ反シ、獨リ大權命令ニ在リテハ法律ヲ以テ變更スルコトヲ得ザルモノナリ。コレ憲法列記ノ大權事項ハ議會干涉ノ外ニ在リテ、天皇ニ專屬スル權限ナレバ、法律ヲ以テ定ムルコトヲ許サズシテ、必ラズ大權ヲ以テ定ムルコトヲ憲法上規定セラル、事項ナレバナリ。而シテ憲法上ノ立法事項ト大權事項トハ、各其ノ範圍ヲ異ニスルヲ以テ相牴觸スルコトナク、二者各其ノ活動ヲ全フスルコトヲ得ルモノナリ。

兵制權

第三、兵制權

天皇ノ憲法上ノ大權中、憲法第十一條ノ陸海軍統帥權、及ビ第十二條ノ陸海軍編制權ハ、他ノ大權事項ト大ニ其ノ性質ヲ異ニスルモノナリ。陸海軍

ノ統帥及ビ編制ニツキテハ、天皇ハ親ラ日本軍ノ大元帥トシテ統率ノ任ニ當ラセ給ヒ且軍ノ編制及ビ常備兵額ヲ定メラル、モノナリ。此ノ兵制權ハ頗ル機密ヲ要シ、平生陸海軍ノ紀律ニ服セザル者ニハ國務大臣ト雖モ之レヲ知ラシムルヲ便トセズ。故ニ現役軍人ヲ以テ陸海軍大臣ト爲シ、特別ノ地位ニ在リテ天皇ヲ輔弼セシム。即チ陸海軍大臣ハ普通ノ行政事務ニツキテハ他ノ各省大臣ニ異ナル所ナシト雖モ、兵制權ニツキテハ内閣ニ由ラズシテ天皇ノ帷幄ニ上奏スル路ヲ設ケタリ。然ルニ經費其ノ他國務大臣ノ職務ニ關聯スルモノニツキテハ、陸海軍大臣ヨリ直ニ上奏シ後ニ内閣總理大臣ニ報告スル變例ヲ取り、勅許アルニ非ザレバ政府ノ議ニ附スルコトナシ。

兵制ノ大權ニ關スル補佐機關トシテ、元帥府、軍事參議院、陸軍參謀本部、海軍司令部ヲ設置セラル。其ノ大要左ノ如シ。

(一) 元帥府

陸海軍統帥權ノ爲メ、宮中ニ元帥府ヲ置ク。元帥府設置ノ詔ニ曰ク、茲ニ朕ガ軍務ヲ補翼セシムル爲メ、特ニ元帥府ヲ設ケ、陸海軍大將ノ中ニ於テ老

元帥府

功卓拔ナル者ヲ簡選シ朕ガ軍務ノ顧問タラシメントス。陸海軍大將中老功卓拔ナル者ニ元帥ノ稱號ヲ賜ヒテ、最高ノ軍務顧問トセラル。

元帥府條例

第一條 元帥府ニ列セラル、陸海軍大將ニハ特ニ元帥ノ稱號ヲ賜フ。

第二條 元帥府ハ軍事上ニ於テ最高顧問トス。

第三條 元帥ハ勅ヲ奏シ陸海軍ノ檢閲ヲ行フコトアルベシ。

(二) 軍事參議院

軍事參議院ハ軍事參議官ヲ以テ組織シ、陸海軍又ハ其ノ一方ニ專屬スル要務ヲ審議セシム。之レヲ天皇ノ帷幄ト云フ。

軍事參議院條例

第一條 軍事參議院ハ帷幄ノ下ニ在リテ重要軍務ノ諮詢ニ應スル所トス。

第二條 軍事參議院ハ諮詢ヲ待テ參議會ヲ開キ意見ヲ上奏ス。

第三條 軍事參議院ニ議長、參議官、幹事長、及幹事ヲ置ク。

第四條 軍事參議官ハ左ノ如シ。

元帥 陸軍大臣 海軍大臣 參謀總長 海軍軍令部長 特ニ軍

事參議官ニ親補セラレタル陸海軍將官

以下之レヲ略ス。

(三) 陸軍參謀本部

參謀本部ハ國防及ビ用兵ノ事ヲ掌ル所ニシテ、獨立ノ位置ヲ有シ、天皇ニ直隸シテ帷幄ノ軍務ニ參畫ス。

參謀本部條例

第一條 參謀本部ハ國防及用兵ノ事ヲ掌ル所トス。

第二條 參謀總長ハ陸軍大將若ハ陸軍中將ヲ以テ親補シ、天皇ニ直隸シ帷幄ノ軍務ニ參畫シ、國防及用兵ニ關スル計畫ヲ掌リ、參謀本部ヲ統轄ス。

第三條 參謀總長ハ參謀ノ職ニ在ル陸軍將校ヲ統督シ、其ノ教育ニ任シ、陸軍大學校及陸地測量部ヲ管轄ス。

第四條 參謀次長ハ參謀總長ヲ補佐シ、本部一切ノ事務整理ニ任ス。以下之レヲ略ス。

(四) 海軍軍令部

第二編 第五章 統治ノ作用 第四節 大權作用

海軍軍令部ハ其ノ職務地位等全ク陸軍參謀本部ニ同ジ。

海軍軍令部條令

第一條 海軍軍令部ハ國防用兵ニ關スル事ヲ掌ル所トス。

第二條 海軍軍令部ニ部長ヲ置

海軍軍令部長ハ天皇ニ直隸シ帷幄ノ機務ニ參シ又海軍軍令部ノ部務ヲ統理ス 海軍軍令部長ハ親補トス。

第三條 海軍軍令部長ハ國防用兵ニ關スル事ヲ參畫シ親裁ノ後之ヲ海軍大臣ニ移ス。

第四條 海軍軍令部ニ次長ヲ置キ海軍軍令部長ヲ補佐シ部務ヲ整理セシム。

第五條 海軍軍令部ニ副官ヲ置キ庶務ヲ掌理セシム。

第六條 海軍軍令部ニ參謀ヲ置キ左ノ事項ヲ分掌セシム。

- 一 出帥及作戰ノ計畫、艦船ノ配備並其ノ進退役務ニ關スルコト
- 二 艦隊、軍隊ノ編制、運動法、運輸通信、演習、檢閲ニ關スルコト
- 三 軍港、要港、防禦港、其ノ他軍事上必要ナル地點ノ選定及其ノ防禦計

畫ニ關スルコト

四 軍事諜報翻譯及編纂ニ關スルコト

以下之レヲ略ス。

二、憲法外ノ大權

天皇ノ大權作用ニヨリ行使セラル、事項ハ憲法上ノ大權ニノミ限ルモノニアラズ。天皇ノ大權ハ廣クシテ及バザル所ナシ。憲法上ノ大權ハ憲法ニ明記セラレタルモノヲ舉ゲシニ止マルモノナリ。元來天皇ノ大權ハ憲法ニヨリテ生ジタルモノニアラズ。憲法ハ天皇ノ大權ニヨリ欽定セラレタルモノナリ。サレバ憲法ニ明記セザル國家ノ事務ハ、皆尙ホ天皇ノ全權ニ屬スルモノナリ。之レヲ憲法外ノ大權ト稱ス。其ノ數ニ定限ナシ、例ヘバ、頒曆、遷都、造位、造爵、造幣、使節ノ差遣及ビ接授、國境ノ變換等ナリ。尤モ之レ等ハ憲法上ニ大權トシテ掲ゲザルガ故ニ、之レヲ立法ノ範圍ニ移スト移サハルトハ、全ク天皇ノ自由ナリ。

三、大權作用ノ發表形式

天皇ハ統治權ヲ行使セラル、ニ當リ、公式令ニ於テ其ノ發表形式ヲ定メラレタリ。左ニ其ノ主ナルモノヲ述ブベシ。

第一、詔書

皇室ノ大事ヲ宣誥シ又ハ大權ノ施行ニ關スル勅旨ヲ宣誥スルハ、別段ノ形式ニ依ルモノヲ除クノ外、詔書ヲ以テス。皇室ノ大事トハ立皇后、立皇太子、攝政ノ置罷變更、元號ノ改定等ヲ云フ。大權ノ施行ニ關スル勅旨トハ、議會召集ノ詔書、議會開會閉會及ビ衆議院解散ノ詔書、選舉期日ヲ定ムル勅命等ヲ云フ。宣誥トハ一般ニ宣ベ誥ゲルノ意ナリ。故ニ詔書ハ一般ニ公布セラル、勅旨ナリト謂フベシ。而シテ詔書ハ一回ノ處分ニ止マルモノナリ。詔書ニハ親署ノ後御璽ヲ鈴シ、其ノ皇室ノ大事ニ關スルモノニハ宮内大臣年月日ヲ記入シ、内閣總理大臣ト俱ニ之ニ副署ス。其ノ大權ノ施行ニ關スルモノニハ、内閣總理大臣年月日ヲ記入シ之ニ副署シ、又ハ他ノ國務各大臣ト俱ニ之ニ副署ス。

(公式令第一條)

第二、勅書

文書ニ由リ發スル勅旨ニシテ宣誥セザルモノハ、別段ノ形式ニ由ルモノヲ除クノ外、勅書ヲ以テス。勅書ハ一般ニ公布セザルモノニシテ一回ノ處分ニ止マリ、書面ヲ以テ發スルモノ之ヲ受命者ニノミ付スルモノヲ云フ。勅書ニハ

皇室ノ事務ニ關スルモノト、國務大臣ノ職務ニ關スルモノトノ二種アリ。皇室ノ事務ニ關スル勅書トハ、皇族婚嫁及ビ外國旅行ノ勅許、臣籍ニ嫁シタル皇族女子ニ内親王女王ノ稱ヲ賜フ勅旨等ヲ云フ。國務大臣ノ職務ニ關スル勅書トハ、國家ノ事務ニ關スルノ意ニシテ、皇室ノ事務ト國家ノ事務トヲ區別シテ分界ヲ立テタルナリ。勅書ハ親署ノ後御璽ヲ鈴シ、其ノ皇室ノ事務ニ關スルモノニハ、宮内大臣年月日ヲ記入シ之ニ副署ス。其ノ國務大臣ノ職務ニ關スルモノニハ、内閣總理大臣年月日ヲ記入シ之ニ副署ス。(公式令第二條)

第三、勅旨及勅語

勅旨及ビ勅語ツニキテハ、公式令ニ於テ別ニ定ムル所ナシ。概シテ勅旨トハ皇室、國家又ハ陸海軍ノ事務ニ係ル天皇ノ口頭ノ命令ニシテ、一回ノ處分ニ止マルモノヲ云フ。勅旨ハ輔弼ノ臣ヲシテ之レヲ奉宣セシム。其ノ皇室ニ關スルモノハ、宮内大臣之レヲ奉宣シ、國務ニ關スルモノハ、國務大臣之レヲ奉宣シ、統帥事務ニ關スルモノハ、陸軍參謀總長、海軍軍令部長之レヲ奉宣ス。勅語ハ勅旨ノ一種ニシテ口頭ニテ發シ、筆書シテ記錄ニ備フルモノナリ。此ノ他勅諭、勅命等皆勅旨ノ別名タルモノナリトス。

第四、帝國憲法及皇室典範ノ改正

帝國憲法及ビ皇室典範ノ改正ハ上諭ヲ附シテ之レヲ公布ス。帝國憲法改正ノ上諭ニハ、樞密顧問ノ諮詢及ビ帝國憲法第七十三條ニ依ル帝國議會ノ議決ヲ經タル旨ヲ記載シ、親署ノ後御璽ヲ鈐シ、内閣總理大臣年月日ヲ記入シ、他ノ國務各大臣ト俱ニ之レニ副署ス。皇室典範改正ノ上諭ニハ、皇族會議及ビ樞密顧問ノ諮詢ヲ經タル旨ヲ記載シ、親署ノ後御璽ヲ鈐シ、宮内大臣年月日ヲ記入シ、國務各大臣ト俱ニ之レニ副署ス。(公式令第三條及第四條)

皇室令

第五、皇室令

皇室典範ニ基ヅク諸規則、宮内官制其ノ他皇室ノ事務ニ關シ勅定ヲ經タル規程ニシテ、發表ヲ要スルモノハ皇室令トシ、上諭ヲ附シテ之レヲ公布ス。皇室令ハ常設ノ準則ニシテ、書面ヲ以テ公布スルモノナリ。皇室令ハ親署ノ後御璽ヲ鈐シ、宮内大臣年月日ヲ記入シ之レニ副署ス。國務大臣ノ職務ニ關連スル皇室令ノ上諭ニハ、内閣總理大臣又ハ内閣總理大臣及ビ主任ノ大臣ト俱ニ之レニ副署ス。(公式令第五條)

法律

第六、法律

法律ハ國家ノ事務ニ關スル常設ノ準則ニシテ、天皇ノ立法權ニヨリ議會ノ協贊ヲ經テ書面ヲ以テ發シ、上諭ヲ附シテ之レヲ公布ス。法律ノ上諭ニハ帝國議會ノ協贊ヲ經タル旨、樞密顧問ノ諮詢ヲ經タルモノハ其ノ旨ヲ記載シ、親署ノ後御璽ヲ鈐シ、内閣總理大臣年月日ヲ記入シ之レニ副署シ、又ハ他ノ國務各大臣若クハ主任ノ國務大臣ト俱ニ之レニ副署ス。

勅令

第七、勅令

勅令ハ國家ノ事務ニ關スル常設ノ準則ニシテ、天皇ノ大權ニヨリ書面ヲ以テ發シ、上諭ヲ附シテ之レヲ公布ス。勅令ノ上諭ニハ親署ノ後御璽ヲ鈐シ、内閣總理大臣年月日ヲ記入シ之レニ副署シ、又ハ他ノ國務各大臣若クハ主任ノ國務大臣ト俱ニ之レニ副署ス。(公式令第七條)

國際條約

第八、國際條約

國際條約ハ國家ト國家トノ約束ニシテ、直接ニ人民ニ關係ナシ。又時ニ秘密ナルモノアリ。然レドモ内地ニ於テ執行セントスルモノハ、上諭ヲ附シテ之レヲ公布ス。此ノ場合ハ一種ノ勅令ニシテ、人民モ服從ノ義務ヲ生ズ。國際條約發表ノ上諭ニハ、樞密顧問ノ諮詢ヲ經タル旨ヲ記載シ、親署ノ後御璽ヲ

鈐シ、内閣總理大臣年月日ヲ記入シ、主任ノ國務大臣ト俱ニ之レニ副署ス。(公式令第八條)

第九、豫算

豫算及豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スノ件ハ、上諭ヲ附シテ之レヲ公布ス。前項ノ上諭ニハ帝國議會ノ協賛ヲ經タル旨ヲ記載シ、親署ノ後御璽ヲ鈐シ、内閣總理大臣年月日ヲ記入シ、主任ノ國務大臣ト俱ニ之レニ副署ス。(公式令第九條)

第十、官記辭令書辭記位記勳記

官吏ヲ任ズル命令書ヲ官記ト云フ。官ヲ免ズル命令書ヲ辭令書ト云フ。爵ヲ授クル命令書ヲ爵記ト云フ。位ヲ授クル命令書ヲ位記ト云フ。勳章ヲ授クル命令書ヲ勳記ト云フ。以上ノ各記皆各特別ノ形式ヲ定メラル。(公式令第十四條ヨリ第二十一條迄)

第十一、國書其他ノ外交上ノ親書等

國書其ノ他外交上ノ親書條約批准書全權委任狀外國派遣官吏委任狀名譽領事委任狀及ビ外國領事認可狀ニハ、親署ノ後、國璽ヲ鈐シ、主任ノ國務大臣

豫算

官記辭令書

國書其ノ他

之レニ副署ス。外務大臣ニ授クル全權委任狀ニハ、内閣總理大臣之レニ副署ス。(公式令第十三條)

第五節 司法 (Judicature)

一、司法ノ意義

司法ノ意義ニ廣狹ノ二義アリ。廣ク司法トハ、法規ノ侵害又ハ權利ノ爭議ニ對シ、訴訟ノ形式ヲ以テ之レヲ審判シ、以テ法規ヲ維持スル統治ノ作用ヲ云フ。廣義ノ司法中、更ニ狹義ノ司法アリ。狹義ノ司法トハ沿革的ノ意義ヲ有シ、民事刑事ノ裁判ヲナス統治權ノ作用ヲ云フ。我ガ憲法ニ司法裁判所ト謂ヘルハ、此ノ狹義ノ司法ヲ指シタルナリ。

二、司法ト立法及行政

司法ノ作用ヲ立法及ビ行政ト區別シタルハ大ナル理由アリ。若シ立法權ヲ有スル者ヲシテ司法權ヲ併有セシメンカ、一事件ノ裁判ヲ爲スニ當リ、事ノ己レニ便ナラザル者ニツキテハ、直チニ法律ヲ制定シテ之レヲ適用シ、此ノ結果トシテ個人ノ既得權ヲ蹂躪スルニ至ラン。若シ又行政官廳ヲシテ司法權ヲ併有セシメンカ、

事件ノ國家ニ係ルモノハ、法ヲ曲解シテ之レヲ裁判シ、爲メニ相手方タル個人ノ權利ヲ蹂躪スルノミナラズ、行政事務ト司法事務トハ其ノ趣ヲ異ニスルガ故ニ、常ニ行政ニ馴レタル行政官ハ、司法事務ヲ執ルニ適セズ。又一人ノ身能ク行政法規ヲ暗ンズルト同時ニ、繁多極リナキ民事刑事ノ諸法規ニ通ゼシムルコト極メテ困難ナリ。故ニ司法作用ヲ立法行政ノ外ニ置キタルモノナリ。

三、司法權ノ獨立

司法權ノ獨立ナル意義ニツキテハ、學者各其ノ見解ヲ異ニス。左ニ其ノ主ナル説ヲ述ブベシ。

第一説 司法權ハ行政權ヨリ獨立スルモノナリ。

司法權ノ獨立トハ行政權ヨリ獨立シ、行政權ノ命令ヲ受ケズ、又行政權ノ干渉ヲ受ケザルヲ云フモノナリト。然レドモ此ノ意義ニ於テハ、司法權ノミナラズ立法權及ビ行政權モ獨立ナリト謂ハザルベカラズ。何トナレバ立憲政體ニ於ケル三權分立ノ精神ハ、立法行政司法ノ三者ハ各其ノ畛域ヲ守リテ相侵サマレバナリ。

第二説 司法權ノ獨立トハ裁判官ガ自己獨立ノ裁判ヲナスヲ云フ。

行政權ヨリ獨立ス

裁判官ガ裁判ヲナスニ當リ上官ノ訓令指揮ヲ俟タズシテ、自己獨立ノ判斷ニヨリ裁判ヲナスヲ司法權ノ獨立ト云フ。行政ニ在リテハ上官ノ訓令指揮ハ下官ヲ拘束スルモノナレバ司法ト此ノ點ニ於テ異ルモノナリ。下級裁判所ハ上級裁判所ノ意見ニ左右セラル、コトナク、獨立ニ裁判ヲナスコトヲ得ルモノナリ。唯下級裁判所ノ判決ハ上訴ニヨリ取消シ又ハ變更セラル、ノミナリ。

第三説 司法權ノ獨立トハ裁判官ノ地位保障ヲ受クルヲ云フ。

裁判官ハ憲法及ビ法律ノ保障ヲ受ケ、安全ナル地位ヲ有スルタメ、公平無私ノ意見ニヨリ裁判ヲナスコトヲ得ルモノナリ。コレ司法權ノ獨立ナリ。之レヲ行政官ニ比スルニ、行政官ノ進退ハ憲法及ビ法律ニ保障スルコトナキノ點ニ於テ、異ナルモノナリト。裁判官ノ出處進退ハ憲法及ビ法律ヲ以テ保障シ、或ハ命令ニ依リ、或ハ大權ヲ以テ濫リニ罷免スルコトナカラシム。

司法權ノ獨立ニ關シテ以上ノ三説アリ。此ノ三説中第一説ハ特ニ司法權ノミノ獨立ト解スルヲ得ザルガ故ニ採用スルヲ得ズ。第二説及ビ第三説ハ司法權ノ獨立ノ意義ト解スルコトヲ得ルモノナリ。要スルニ司法權ノ獨立トハ沿革的ノ

裁判官ノ保障

語ニシテ、法津上一定セル意義アルニアラズ。故ニ裁判官ノ獨立裁判及ビ裁判官ノ地位保障ヲ指シテ司法權ノ獨立ナリト解スルヲ適當トス。

四、司法ト大權及行政トノ關係

第一、天皇ノ大權ト裁判官ノ任免

裁判官ハ文官ノ一種ニシテ其ノ任免ハ天皇ノ大權ニ屬ス。然レドモ其ノ任免及ビ懲戒ハ之レニ關スル法律ノ規定ニ準據スルヲ必要條件トス。

第二、天皇ノ大權ト恩赦

大赦特赦減刑復權ヲ命ズルハ天皇ノ大權ニ屬ス。大赦ハ特定ノ種類ノ犯罪ニ關スル訴訟及ビ裁判ヲ無効ナラシムルヲ云ヒ、特赦ハ特定ノ犯罪人ニ對シテ確定判決ニ依レル刑罰ノ全部ヲ取消スコトヲ云ヒ、其ノ一部ヲ取消スコトハ之レヲ減刑ト云フ。復權トハ將來ニ向ヒ剝奪公權ヲ取消スモノナリ。

第三、行政ノ監督ト裁判所

司法ハ獨立ナリ行政ノ干涉ヲ容レズ。然レドモ司法的行政主務官廳ハ其ノ監督權ニヨリ裁判所ノ行政狀況ノ報告ヲ求メ又ハ裁判所ニ臨檢シテ行政ノ澁滯ナキヤ否ヤヲ検査スル權限アリ。

裁判官ノ任
免

恩赦大權

行政ノ監督

刑事事件ト
檢事

第四、刑事事件ト檢事

行政機關ハ刑事事件ニ干與ス。刑事訴訟法ニ於テハ、檢事ハ原告官トシテ行動スベク、而シテ檢事ガ此ノ權限ヲ行フニ當リテハ、司法的行政主務官廳ノ監督命令ノ下ニ立ツモノナリ。

以上述べタルコトノ外司法ト關聯シテ説明スベキコトハ裁判所及ビ訴訟法ナリ。裁判所ニツキテハ第二編第四章第五節ニ述べタリ。訴訟法ニツキテ後章ニ其ノ項ヲ設ケテ之レヲ説明スベシ。

第六節 行政 (Administration)

一、行政ノ意義

行政ニ廣狹ノ二義アリ。廣義ニ於テハ統治權ノ作用中立法司法ヲ除キタル殘餘ノ政務ノ範圍ヲ汎稱ス。狹義ニ於テハ廣義ノ行政中ヨリ天皇ノ親裁セラル、政務ヲ除キタル殘餘ノ統治作用ヲ指スモノトス。帝國憲法中行政ノ文字ヲ使用シタルハ憲法第十條ナリ。同條ニ曰ク天皇ハ行政各部ノ官制云々ト。此ノ行政ノ文字ハ司法及ビ大權作用(立法ヲ含ム)ノ統治作用ト區別セラレタルモノナリ。

之レニヨリテ見レバ前述狹義ノ行政ノ意義ヲ以テ適當トス。即チ行政トハ統治權ノ作用中、司法及ビ大權作用(立法ヲ含ム)ヲ除キタル以外ノモノヲ云フ。之レヲ詳言スレバ一般ノ統治權作用中ヨリ先ヅ裁判所ヲシテ必ラズ行ハシメザルベカラザル民事刑事ノ裁判ヲ除キ次ニ其ノ以外ノモノ、中ニテ議會ノ參與ヲ要スルト否トヲ問ハズ天皇ノ親裁セラル、政務ヲ更ニ除キ其ノ殘餘ノ政務ヲ行政ト稱スルナリ。

二、行政ノ組織

前項ニ述べタルガ如ク、行政ハ天皇ノ親裁セラレザル政務ナルガ故ニ、必ラズ機關ニ委任シテ行ハセラル、モノナリ。此ノ行政機關ノ組織ハ分チテ二トナス。一ハ國家直接ノ行政ニシテ之レヲ官治ト云ヒ、行政官廳ニヨル行政ヲ云フ。他ハ國家間接ノ行政ニシテ之レヲ自治ト云ヒ、公共團體ニヨル行政ヲ云フ。是等行政ノ組織及ビ行政機關ニツキテハ、次章行政法ニ述ブルヲ以テ茲ニ之レヲ略ス。

三、行政ト司法及立法

第一、司法ト行政

古來統治權ノ作用ヲ大別シテ二トナシ、法規ヲ制定スル作用ト法規ヲ適用

司法ト行政
トノ區別説

スル作用トニ分ツ。而シテ其ノ法規ヲ制定スル作用ヲ立法ト謂ヒ、法規ヲ適用スル作用ヲ更ニ細別シテ司法及ビ行政ト謂フ。司法ト行政トノ區別ニ關スル學說左ノ如シ

司法ト行政
トノ區別説

- (一) 司法トハ法規ノ秩序ヲ維持スル行爲ニシテ、行政トハ國民利福ヲ増進スル行爲ナリ。
- (二) 司法トハ法規ヲ解釋適用スルヲ最終ノ目的トスル行爲ニシテ、行政トハ國家ノ目的ヲ達スルタメニ法規ヲ解釋適用スル行爲ナリ。
- (三) 司法トハ法規ヲ適用スルニ自由裁量ノ餘地ナキ行爲(裁判官ノ自由裁量ナルモノハ必ラズ法律ノ許ス場合ニ限ル)ニシテ、行政トハ法規ノ適用ニ自由裁量ノ餘地アルヲ云フ。

以上ノ三學說ハ司法ト行政トヲ區別スル説トシテ從來行ハレタルモノナラガ、我が憲法上司法ト行政トノ區別ニツキテハ之レニ異ナルモノアリ。何トナレバ司法作用中ニ登記事務ナル行政アリ。又行政作用中ニ行政裁判及ビ特許局審判ノ如キ實質上ノ司法行爲アリ。故ニ司法トハ民事刑事ノ裁判ヲナスヲ云ヒ、行政トハ統治作用中立法司法及ビ大權ノ各作用ヲ控除シタルモ

憲法上ノ司法
ト行政

ノヲ云フト解セザルベカラズ。

立法ト行政

立法ト行政
トノ區別說

憲法上ノ立
法ト行政

第二、立法ト行政

立法ト行政トノ區別ニ關スル學說左ノ如シ。

- (一) 立法トハ法規ヲ制定スル作用ヲ云ヒ、行政トハ法規ヲ適用スル作用ナリ。
- (二) 立法ハ抽象的ノ法則ヲ定ムルモノニシテ、實際ニ直接ノ效果ヲ生ゼシムルモノニアラズ。行政ハ之レニ反シテ、實際ニ效果ヲ生ゼシムベキ國家ノ活動ナリ。

右二說ハ立法ト行政トノ區別ニツキ從來行ハレタル學說ナレドモ、我が憲法上立法ト行政トノ區別ニツキテハ之レニ異ナルモノアリ。何トナレバ行政作用中ニ、法規ヲ制定スル作用ヲ包含ス。例ヘバ各省大臣ガ警察命令ヲ發スルコトハ、實質上ノ立法行為ナレドモ行政ノ作用ニ屬スルガ如シ。故ニ立法トハ總テノ法規制定ノ行為ニアラズシテ、議會ノ協贊ヲ經テ定メラル、所ノ法律制定ノ行為ヲ云ヒ、行政トハ此ノ意義ニ於ケル立法並ビニ司法及ビ大權ノ作用ヲ除キタル、殘餘ノ統治作用ヲ云フト解セザルベカズ。

四、行政ノ目的

國家ノ目的
トノ關係

行政ハ國家ノ目的ヲ達スルガ爲メニスル活動ニシテ、國家ノ目的ト相乖離スルコトヲ得ズ。國家ノ目的ハ(一)自主自存ノ目的トシテ、國家自身ノ生存發達ヲ維持ス。(二)安寧福利ノ目的トシテ、人民ノ安寧幸福ヲ保護増進スルニアリ。從テ行政ノ目的モ、此ノ二様ノ目的ノ外ニ出ヅルコト能ハザルナリ。然レドモ此ノ點ニ於テハ、立法司法大權ノ作用モ皆一ナリ。唯其ノ直接ノ目的ニ於テ差異ヲ存ス。立法ハ法規ヲ制定シ、司法ハ法規ヲ維持シ、大權作用ハ法ノ外ニ超脱シテ自由ノ活動ヲナスヲ以テ直接ノ目的トス。

行政ノ目的ハ法ヲ執行シ、若クハ法ノ範圍内ニ於テ國家ノ意思ヲ執行スルヲ以テ直接ノ目的トス。之レヲ司法ニ比スルニ、司法ハ法ノ解釋ヲ定ムルニ過ギズ、即チ宣告ヲ以テ終リテ告グル國家ノ行為ナリ。宣告ヲ執行スルハ行政ニ屬スルモノナリ。

五、行政ノ分類

行政ノ作用ハ種々ノ方面ヨリ之レヲ分類スルコトヲ得。然レドモ茲ニハ國家ノ目的ヲ達スル方面ヨリ分類ス。左ノ五種ニ分ツ。

第一、外務行政

外務行政

國家ハ他ノ國家トノ交通上ヨリシテ、國家及ビ其ノ國民ト他ノ國家及ビ其ノ國民トノ間ニ種々ノ法律上及ビ經濟上ノ關係ヲ生ズ。此ノ關係ヲ處理シ、國家及ビ人民ノ利益ヲ保護スルノ行政ヲ外務行政ト云フ。

此ノ行政ハ多クハ外交政策ニ屬シ、且國際法ニ支配セラレ、ガ故ニ、行政法ノ範圍ニ入ルモノ甚ダ少シ。

第二、内務行政

國家ノ内部ニ對シ公安ヲ保持シ公益ヲ増進センガタメニ、國家ハ消極的ニ人類ノ精神上及ビ物質上ノ利益ニ對スル總テノ危害ヲ除去シ、進デハ積極的ニ國民ノ精神上及ビ物質上ノ利益ヲ増進スルコトヲ以テ、其ノ任務トナス行政ヲ内務行政ト云フ。行政中最モ重要ナル部分ニシテ、且最モ廣キ區域ヲ占ム。警察、民籍、衛生、宗教、教育、産業、交通等ノ事務ハ皆之レニ屬ス。故ニ何レノ國ニ於テモ、内務行政ハ幾多ノ官應ヲシテ之レヲ分掌セシム。我が邦ニ於テハ内務省、文部省、農商務省、逓信省ハ、其ニ内務行政ヲ管掌スルモノナリ。

第三、軍務行政

國家ハ他ノ國家ノ實力的攻撃ニ對シテ自國ノ生存ヲ維持シ、及ビ國內ニ於

内務行政

軍務行政

ケル暴亂ヲ鎮壓スルガ爲メニハ實力ヲ必要トス。此ノ目的ノタメニ陸海軍其ノ他ノ兵備ヲ設ケ、及ビ之レヲ維持スル行政ヲ軍務行政ト云フ。徴兵、徵發等ニ關スル事務ヲ主トス。兵力ノ運用ニ關スル事項ハ、元首ノ軍隊統率權ノ作用ニ歸シ、行政ノ範圍ニ屬セズ。

第四、法務行政

國家ガ裁判ニヨリテ民事ニ關スル人民ノ權義ヲ明確ニセントスルノ目的ニ對シ、之レニ必要ノ補助行為ヲナシ、且其ノ裁判ノ效果ヲ事實ニ惹起シ來ルガ爲メノ行政ヲ法務行政ト云フ。法務行政ハ司法其ノモノニアラスシテ、裁判機關ノ構成及ビ裁判ノ執行ニ關スル事務ヲ主トスルモノトス。

第五、財務行政

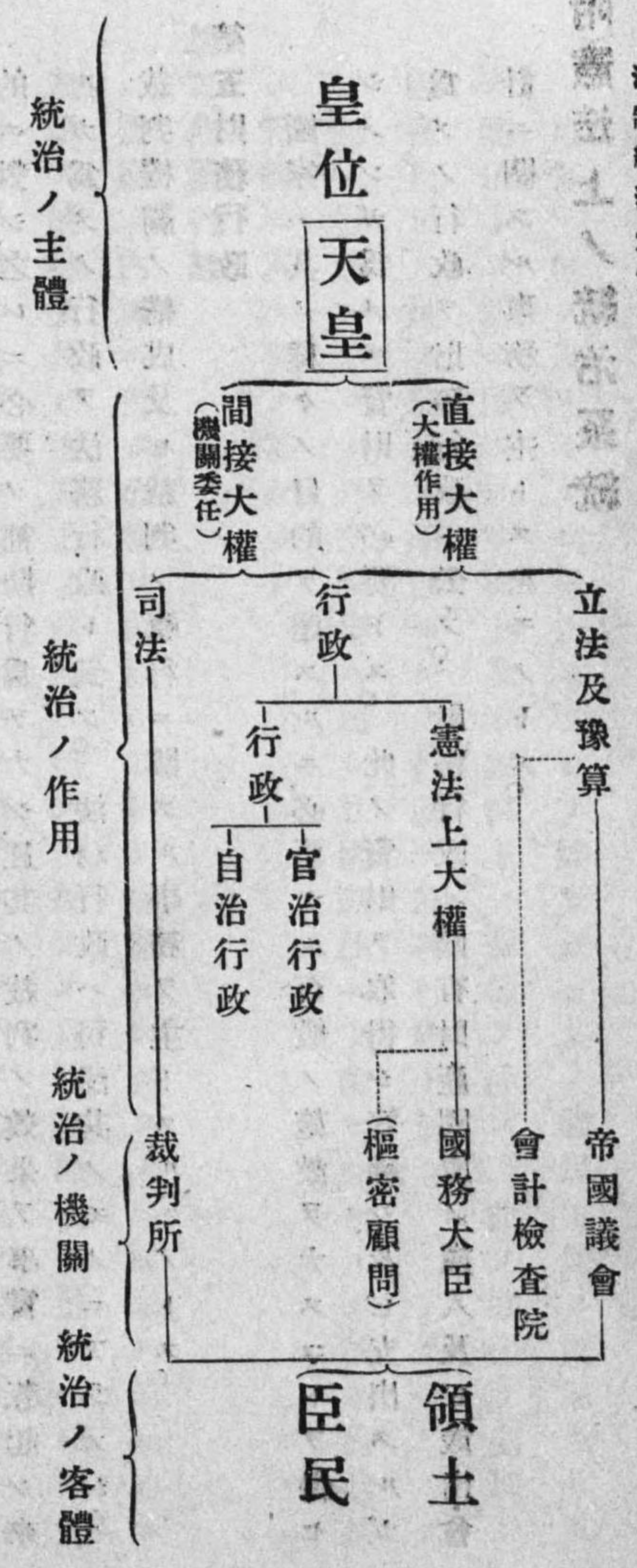
國家ハ其ノ種々ノ目的ヲ達スルニ必要ナル百般ノ施設ヲナスコトヲ得セシメンガ爲メニ資財ヲ必要トス。此ノ資財ヲ取得シ管理シ、及ビ支出スルガ爲メノ行政ヲ財務行政ト云フ。財務行政ハ國有財産、國庫ノ歳入及ビ歳出、會計ニ關スル事務ヲ主トスルモノトス。

(附)憲法上ノ統治系統

第二編 第五章 統治ノ作用 第六節 行政

法務行政

財務行政



第六章 行政法 (Administration Law)

第一節 總論

一、行政法ノ意義

行政トハ統治權ノ作用中、大權立法司法ノ作用ヲ控除シタル殘餘ノ政務ヲ云フ。此ノ政務ヲ行ハシムルタメニ行政機關ヲ設置ス。行政機關ヲ中心トシテ行政ノ

意義ヲ述ブレバ、行政トハ法ノ下ニ於テ行政機關(官廳及ビ公共團體)ガ人民ニ對シテ其ノ權限ヲ行使スル働キヲ云フナリ。而シテ行政ノ行爲ヲ規定シタル法規ハ行政法ナリ。左ニ行政法ノ意義ヲ述ブベシ。

行政法トハ行政機關ノ組織權限及ビ其ノ人民ニ對スル關係ヲ規定シタル法規ノ全體ヲ總稱スルモノナリ。而シテ行政法ハ其ノ名ハ單ニ行政法ト稱スレドモ、實ハ無數ノ法律及ビ命令ノ集合ニシテ、一ノ秩序アル行政法典トシテ編纂セルモノナシ。

二、行政法ノ法源

行政法ノ法源トハ行政法ノ發生スル形式ナリ。法源ノ主ナルモノハ憲法法律命令條例條約慣習コレナリ。

第一、憲法

憲法ハ統治權ノ作用ノ形式ヲ定メタル根本法典ニシテ、行政法ハ統治權作用中ノ一部ニ屬スル行政行爲ノ形式及ビ其ノ實質竝ビ之レヲ處理スル機關ノ組織權限ニ屬スル法ナリ。然レバ憲法ニ於テ行政機關ノ組織及ビ其ノ作用ニ關スル大體ノ原則ヲ定ム。此ノ限度ニ於テ憲法ハ行政法ノ法源ナリ。

第二法律

法律ハ行政作用ノ原因ニアラズシテ、其ノ制限ヲオスモ、憲法ニ於テ保障セラレタル人民ノ權利ニ關スル法規ニ付テハ、必ラズ法律ヲ以テ之ヲ定メザルベカラズ。コレ等ノ法律ハ、主ク其起源ナリ。

第三命令

命令ハ君主及ビ其ノ下ニ屬スル行政機關ガ單獨ニ發スルコトヲ得ル規定ニシテ、其ノ人民ヲ拘束スル點ニ於テハ、全ク法律ト異ナル所ナシ。而シテ命令ハ行政法ノ最モ重要ナル法源ヲナスモノナリ。

第四條例

條例ハ市町村ナル自治團體ガ、其ノ自治立法權(自主權)ニ基ヅキテ發スル所ノ法規ニシテ、其ノ性質及ビ效力ニ付テハ、全ク法律及ビ命令ト異ナルコトナシ。唯法律及ビ命令ハ全國ニ通ジテ其ノ效力有スルヲ原則トスルニ反シテ、自治體ノ條例ハ其ノ自治體ノ區域内ニ於テノミ效力ヲ有スルノ差異アルモノナリ。而シテ此ノ條例ハ行政法ノ法源ヲナスモノナリ。

第五條約

條約ハ國家相互間若クハ統治者相互間ノ契約ニシテ、直接ニ人民ニ關係スルコトナシト雖モ、之レヲ公布スルニ當リテハ人民ヲ拘束スルノ效力アルモノナリ。故ニ條約モ亦行政法ノ一法源ナリ。

第六慣習

現今行政法規ハ總テ明文ヲ以テ定ムルヲ原則トナセドモ、社會萬般ノ規定ニ對シ或ハ不備ナル場合ナキニアラズ。其ノ不備ナル場合ニ於テ慣習法ヲ認ムルナリ。此ノ點ニ於テ慣習モ行政法ノ法源ヲナスナリ。

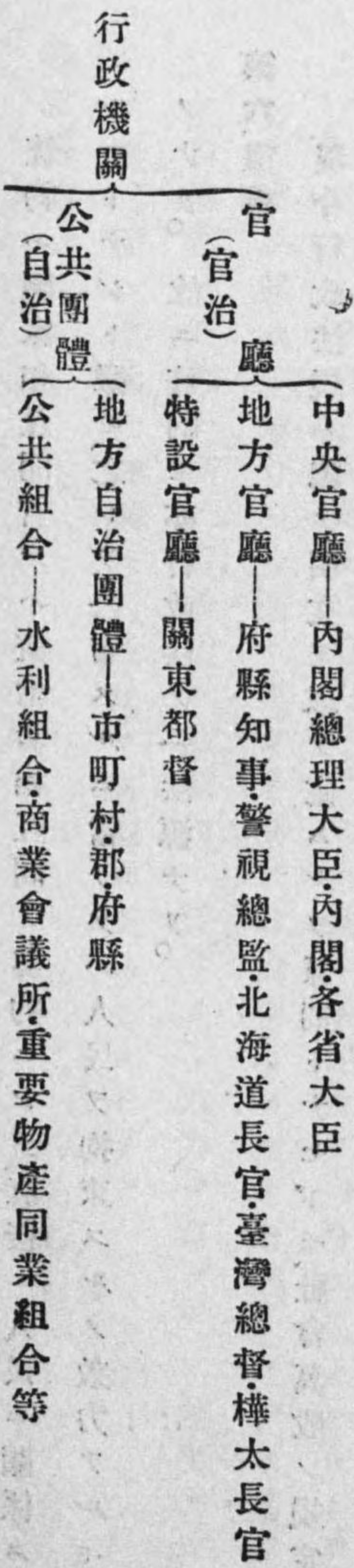
三、法治國

法治國トハ行政法上ヨリ見タル國家ノ名稱ニシテ、行政機關ノ人民ニ對スル關係ガ一定ノ法規ニヨリテ規定セラル、所ノ狀態ニ在ル國ヲ指稱スルニ外ナラズ。而シテ法治國ノ行政官ハ、一々法規ニ遵據シテ行動スベキモノナリ。若シ違法ノ處分ヲナサムカ、人民ハ之レニ對シテ救濟權ヲ主張スルコトヲ得ルモノトス。今日多數ノ文明國ハ、行政法上ヨリ見レバ多クハ立憲制ヲ採ル法治國ナリ。是等ノ國家ニ於テハ憲法ノ規定ニヨリ總テ所有權ヲ侵スニハ法律ニ依ラザルベカラズ、納稅ノ義務ハ法律ヲ以テ定ムベシ、身體ヲ拘束スルニハ法律ニ依ラザルベカラズ、

言論集會ノ自由ヲ制限スルニハ法律ニ基ツカザルベカラザルモノトシ、行政機關ト人民トノ關係ハ、必ラズ法令ヲ以テ定メザルベカラザルコトトナレリ。コレ法治國ノ特色ナリ。

四、行政機關

行政機關トハ行政行爲ヲ管掌スル所ノ機關ヲ云フ。而シテ此ノ行政機關ノ組織ヲ分チテ二トナス。一ハ國家ガ自己直接ノ機關ヲ設ケテ政務ヲ行ハシムル制ニシテ之レヲ官治ト云ヒ、一ハ國家ガ立法ヲヨリ特殊ノ團體ノ存立ヲ認メ、之レヲシテ自ラ其ノ共同事務ヲ經營セシムルノ制ニシテ之レヲ自治ト云フ。官治機關ハ即チ官廳ニシテ、自治組織ニヨル團體ハ即チ公共團體ナリ。此ノ他營物物モ亦一種ノ行政機關トス。左ニ行政機關ヲ圖解スベシ。



(營造物——學校病院博物館郵便電信局鐵道等)

第二節 行政機關

第一款 官廳及官吏

一、官廳ノ意義 (Government Office)

官廳トハ一人又ハ數人ヲ以テ組織シ、天皇ノ委任ニ基ツキ、一定ノ範圍ニ於ケル國家ノ事務ヲ處理シ、外部ニ對シ行爲ノ決定權ヲ有スル統治ノ機關ナリ。官廳ハ又之レヲ官府或ハ官署トモ云フ。左ニ官廳ノ意義ヲ分解シテ説明スベシ。

第一、官廳ハ一人又ハ數人ノ自然人ヲ以テ之レヲ組織ス。

此ノ官廳タル自然人ガ其ノ權限内ニ於テ爲セル意思ノ決定ハ、國家ノ意思ノ決定ナリ。而シテ一人ヨリ成ル官廳ヲ獨任制又ハ單獨制ノ官廳ト云ヒ、數人ヨリ成ル官廳ヲ合議制ノ官廳ト云フ。前者ハ行爲ノ決定ガ一人ノ意思ニ依リテ決定セラルモノヲ云ヒ、後者ハ行爲ノ決定ガ法律上多數意思ノ決定所ニ依ルモノヲ云フ。合議制ニ於テハ原則トシテ官廳ヲ組織スル各員ハ、平

官廳事務ノ
範圍

等ノ表決權ヲ有スルモノトス。獨任制及ビ合議制ノ官廳ニ關スル得失及ビ
實例等ハ、次項官廳ノ種類ニ之レヲ述ブベシ。

第二、官廳ハ一定ノ範圍ニ於ケル國家ノ事務ヲ處理スルモノナリ。

統治權ヲ總攬スルハ、天皇ニシテ、官廳ハ一定ノ範圍ニ屬スル事務ヲノミ處
理スルモノナリ。其ノ事務ノ範圍ヲ權限ト云フ。官廳ガ國家ノ事務ヲ處理
スルハ、法令ニ依リテ附與セラレタル所ニシテ、他ノ官廳ハ之レヲ侵スコトヲ
得ズ。

天皇ノ委任

第三、官廳ハ天皇ノ委任ニ基ヅキテ國家ノ事務ヲ處理スルモノナリ。

官廳ハ固有ノ權限ヲ有シテ獨立ノ存在ヲ保ツモノニアラズ。故ニ其ノ權
限ニ屬スル事務ハ、天皇ノ委任ニ基ヅクモノナリ。天皇ハ官制ヲ定メテ委任
セラル、モノナリ。

官廳ノ決定
權

第四、官廳ハ外部ニ對シ行爲ノ決定權ヲ有スルモノナリ。

官廳ハ國家ノ事務ヲ處理スルモノナレバ、國家事務ニツキ行爲ノ決定權ヲ
有スルモノナルコトヲ要ス。故ニ單ニ決定權ヲ有スル者ノ補佐機關タルニ
過ギザルモノハ、官廳ニアラズ。而シテ官廳ノ行爲ハ外部ニ對シテ行動スル

官廳ハ統治
ノ機關ナリ

モノナリ。例ヘバ、各省大臣府縣知事ノ如キハ、官廳ニシテ、次官局長事務官ノ
如キハ、官廳ニアラザルナリ。

第五、官廳ハ國家統治ノ機關ニシテ、人格ヲ有セズ。

官廳ハ國家ノ名ニ於テ、國家ノ權利ヲ行使スルモノニシテ、自己ノ權利ヲ外
部ニ對シテ行使スルモノニアラズ。從テ官廳ハ、官廳トシテ如何ナル場合ニ
モ權利ノ主體タルモノニアラズ。故ニ官廳ハ、人格ヲ有セズ。官廳ハ、國家ノ機關ナルガ故ニ、國家ニシテ永續スル限りハ、官廳モ亦永續的
ノ性質ヲ有ス。縱令官廳ヲ組織スル自然人ハ更迭スルモ、官廳ノ繼續ハ之レ
ニヨリテ中斷セラル、コトナシ。何トナレバ、官廳ノ命令ハ官廳ヲ組織スル
個人ノ意思ニアラズシテ、國家ノ意志ナルガ故ナリ。

第六、官廳ト官吏ノ關係。

官廳ハ官吏ヲ以テ組織スルモノナリ。獨任制ノ官廳ハ一人ノ官吏ヲ以テ
之レヲ組織シ、合議制ノ官廳ハ數人ノ官吏ヲ以テ之レヲ組織スルモノナリ。
然レドモ官廳ヲ組織スルモノ、ミガ官吏ニ非ズシテ、官廳ノ補助機關ヲ組織
スルモノモ亦官吏ナリ。官吏ハ死亡スルコトアルモ、官廳ハ官吏ノ死亡ニヨ

官廳ト官吏

リテ消滅スルコトナシ。故ニ官廳ニシテ官吏ヲ有セザルコトアリ、斯ノ如キ場合ニ於テモ尙ホ官廳ノ成立ヲ妨ゲズ。之レニ反シテ官吏ハ廢官廢廳ト爲リタルトキハ當然退職者タルモノニシテ、官廳消滅シテ獨リ官吏ノミ存スルコト能ハザルナリ。

二、官廳ノ種類

官廳ハ組織又ハ權限ノ差異ニ從ヒ、種々ニ之レヲ分類スルコトヲ得。左ニ其ノ主ナルモノヲ述ブベシ。

第一、獨任制官廳ト合議制官廳

(一) 獨任制官廳

獨任制官廳トハ一人ノ意思決定ガ國家ノ意思決定トナルヲ云フモノニシテ、行政官廳ノ多クハ之レニ屬ス。此ノ官廳ニモ多數ノ補助機關タル官吏ヲ置クト雖モ、是等ノ機關ハ單ニ其ノ官廳ノ意思ノ決定ヲ準備補助スルニ止マルモノニシテ、其ノ決定ハ常ニ官廳タル一人ノ自由意思ニヨルモノナリ。例ヘバ各省大臣、府縣知事、郡長等ハ獨任制ノ官廳ナリ。

(二) 合議制官廳

合議制官廳トハ多數人ノ意思ヲ以テ官廳ノ意思ヲ決定スルモノニシテ、其ノ意思決定ノ手續ハ通常多數決ニヨルモノヲ云フ。此ノ官廳ハ司法機關ニ多ク採用セラル、モノナリ。合議制ニ於テハ通常三人、五人、七人等ヲ以テ組織ス。例ヘバ司法官廳タル通常司法裁判所、及ビ行政官廳タル內閣、特許局、海員審判所、會計検査院、行政裁判所ハ、合議制ノ官廳ナリ。

(三) 兩制ノ利害

合議制ハ數多ノ人各方面ヨリ審議シ、意思ヲ統合シテ官廳ノ意思ヲ決定スルヲ以テ、誤謬ニ陥ル憂少ナシ。然レドモ其ノ處理往々遲閑ニ流レテ、敏活迅速ノ措置ニ出ヅル能ハズ。又數人ノ合議ニ出ヅルガ故ニ、責任ヲ輕ンズル等ノ弊アリ。故ニ裁判所ノ意思決定ノ如キ寧ロ遲延スルモ正確ヲ重ンズルモノハ合議制ニヨルヲ可トス。

獨任制ハ一人ノ意思ヲ以テ決定スルコトヲ得ルニヨリ、敏括迅速ニ事務ヲ處決スルコトヲ得ルノ利アルト共ニ、單獨ナルヲ以テ誤謬ニ陥ルノ弊ナシトセズ。然レドモ多クノ行政事務ハ敏活迅速ニ決行スルノ必要アルヲ以テ、現行ノ制度ニ於テハ行政官廳ハ寧ロ獨任制ヲ優レルモノトシ、各省大

臣以下皆此ノ制ニ出ヅルコト既ニ述ベタルガ如シ。

第二、中央官廳ト地方官廳

(一) 中央官廳

中央官廳トハ國家ノ中樞ニ在リテ全國、一般ノ事務ヲ處理スル官廳ヲ云フ。例ヘバ各省大臣ノ如キハ、其ノ權限内ノ事務ニツキテ全國ヲ管轄スルヲ以テ中央官廳ナリ。

(二) 地方官廳

地方官廳トハ全國中一定ノ地域(各行政區劃)ヲ限リテ事務ヲ處理スルヲ云フ。例ヘバ府縣知事ノ如キハ種々ノ事務ヲ管轄スレドモ、其ノ地域ハ府縣ニ限ラル、ヲ以テ地方官廳ナリ。

(1) 普通地方官廳

普通地方官廳トハ地方官廳中、廣ク一般ノ行政事務ヲ行使スル權限ヲ有スルモノヲ云フ。例ヘバ府縣知事、郡長、島司ノ如キハ此ノ官廳ニ屬ス。

(2) 特別地方官廳

特別地方官廳トハ地方官廳中、特定ノ行政事務ノミヲ行使スル權限ヲ有スルモノヲ云フ。例ヘバ警視總監、大林區署長、郵便電信局長、稅務署長ノ如キハ此ノ官廳ニ屬ス。

第三、上級官廳ト下級官廳

上級官廳ト下級官廳トニ區別スルハ、行政ノ統一ヲ旨トシ監督權ヲ及ボサシガタメナリ。或ル官廳ニ對シテ指揮監督スル權ヲ有スル官廳ハ、其ノ官廳ニ對シ其ノ監督權ノ範圍内ニ於テ上級官廳ト云フ。例ヘバ中央官廳シテ各省大臣ハ上級官廳ニシテ、地方官廳タル府縣知事ハ下級官廳ナリ。又地方官廳ニモ上級下級ノ別アリ。即チ府縣知事ハ上級官廳ニシテ、郡長、島司ハ下級官廳ナリ。

第四、分地制官廳ト分職制官廳

分地制官廳トハ事務ノ性質ヲ分タズ、一定ノ地域ニ屬スル各種ノ事務ヲ舉ゲテ一官廳ニ屬セシムル制度ヲ云フ。分職制官廳トハ事務ノ性質ヲ以テ官廳ノ職務權限ヲ分ツ標準トスル制度ニシテ、同種ニ屬スル事務ハ其ノ何レノ地域タルヲ問ハズ、一括シテ一官廳ノ支配ニ屬セシムルヲ云フ。以上二者各

利害アルガ故ニ、近來諸國ノ傾向ハ中級以下ノ官廳ニ在リテハ分地制ヲ本トシ、最上級ノ官廳ハ概ネ分職制ニヨルモノトシ、其ノ間調和ノ餘地ヲ存スルヲ旨トスルガ如シ。例ヘバ中央官廳ハ分職制官廳ニシテ、地方官廳ハ分地制官廳ナリ。而シテ此ノ兩制ヲ折中スルモノアリ。特別地方官廳コレナリ。

行政官廳
司法官廳

第五、行政官廳ト司法官廳

行政官廳トハ行政事務ヲ處理スル官廳ヲ云フ。司法官廳トハ司法事務ヲ處理スルモノヲ云フ。司法官廳ハ即チ裁判所ニシテ、其ノ處理スル所ノ事務ガ刑事及ビ民事ノ裁判事務ニ限ラル、モノナリトス。

三、官廳ノ權限

官廳ハ限ラレタル範圍ニ於テ、國家ノ事務ヲ處理スルモノナリ。官廳ガ處理スルコトヲ得ベキ國家事務ノ範圍ヲ稱シテ官廳ノ權限ト云フ。其ノ權限ハ法令ニヨリテ定マルモノナリ。而シテ此ノ權限ヲ確定スル必要ハ左ノ三點ニアリ。

官廳ト國家

第一、官廳ト國家

官廳ハ國家ニ對シテ其ノ權限ニ屬スル事務ヲ遂行スルノ義務ヲ負フ。コレ其ノ機關タルヨリ生ズル當然ノ結果ニシテ、官廳ノ監督ハ即チ其ノ義務ヲ

官廳ト人民

第二、官廳ト人民

盡サシムルガタメニ存スルモノナリ。官廳ノ職務トハ此ノ義務ヲ云フナリ。官廳ノ事務ハ人民ニ對シテハ抗拒スベカラザル國權ノ限界ヲ示ス。故ニ官廳ガ其ノ職務ノ範圍内ニ於テ爲シタル行爲ニツキテハ、人民ハ假令ヒ自己ノ利益ヲ害セラル、モ原則トシテハ之レニ服從セザルベカラズ。

官廳相互間

第三、官廳相互間

官廳ノ權限ハ其ノ相互ノ關係ヨリ見ルトハ、相犯スベカラザル職務ノ限界ナリ。法令ハ同一ノ權限ヲ同時ニ二以上ノ官廳ニ與フルコトナシ。故ニ各官廳ガ能ク其ノ權限ヲ守ラバ、其ノ間ニ固ヨリ何等ノ障害ナシト雖モ、其ノ權限ノ解釋ニツキ往々疑義ヲ生ズルコトアリ。其ノ權限上ノ紛争ニ二種アリ。主管爭議及ビ權限爭議コレナリ。主管爭議ハ同系統ニ屬スル官廳例ヘバ行政官廳相互間ノ争ニシテ、上級官廳之レヲ裁決スルヲ常トス。權限爭議ハ異系統ニ屬スル官廳間、例ヘバ行政官廳ト司法官廳トノ間ノ争ニシテ、權限裁判所之レヲ裁決スルモノトス。

四、官吏ノ意義 (Official)

官吏トハ天皇又ハ其ノ委任ヲ受ケタル機關ニヨリテ任命セラレ、國家ノ事務ヲ擔任スル義務ヲ負フ自然人ニシテ、統治者ニ對シ特別服從ノ關係ニ立ツモノヲ云フ。

左ニ此ノ意義ヲ分解シテ説明スベシ。

第一、官吏ハ任命ニヨリ其ノ分限ヲ得タルモノナリ。

官吏ハ必ラズ任命ナル形式ニヨリテ行ハルベキモノタルヲ要ス。故ニ國家ノ事務ヲ擔任スル自然人タルモ、任命セラレザルモノハ之レヲ官吏ト稱セザルナリ。例ヘバ市町村吏員ノ如キハ國務ヲ擔任スルコトアルモ、任命ニヨリテ其ノ地位ヲ得タルモノニ非ザルヲ以テ之レヲ官吏ト稱セザルナリ。次ニ任命ハ本人ノ意思ヲ條件トシテ、國務負擔ノ義務アル地位ヲ附與スル權力行爲ナリ。即チ官吏タル義務ヲ課スルタメニハ、必ラズ本人ノ承諾ヲ要ス。蓋シ官吏ノ如キ精神ノ勞務ハ、之レヲ強制スルコトヲ得ザレバナリ。

第二、任命權ハ天皇及ビ其ノ委任ヲ受ケタル機關ニ存ス。

任命ノ權ハ天皇ノ大權ニ屬ス。但シ官廳ニ委任シテ下級官吏ヲ任命セシムルコトヲ妨グズ。故ニ天皇ハ或ハ直接ニ自ラ任命シ、或ハ官廳ニ委任シテ

任命ノ權

國務ノ負擔

任命セシム。其ノ任命手續ノ如何ニヨリ、官吏ニ勅任、奏任、判任ノ區別アリ。

第三、官吏ハ國家ノ事務ヲ擔任スル義務ヲ負フモノナリ。

官吏ハ國家ノ事務ヲ擔任スル義務ヲ負フモノナルガ故ニ、任命セラレ、モ苟モ國家ノ事務ヲ擔任セザル者ハ之レヲ官吏ト稱スルヲ得ズ。例ヘバ日本銀行總裁及ビ宮内官ノ如キハ官吏ニアラズ。次ニ官吏ハ國家ノ事務ヲ擔任スル義務ヲ負フモノナレドモ、現ニ國家ノ事務ヲ擔任スルコトヲ必要トセズ。何時ニテモ之レヲ擔任スベキ義務ノ存在スル以上ハ官吏タルコトヲ妨グズ。故ニ休職ノ官吏モ亦官吏タルナリ。

第四、官吏ハ自然人タルコトヲ要スルモノナリ。

法人ト雖モ國家統治ノ機關タルコトヲ妨グズト雖モ、官吏ハ必ラズ自然人ニシテ、法人ヲ以テ官吏ト爲スコトナシ。

第五、官吏ハ統治者ニ對シ特別服從ノ關係ニ立ツモノナリ。

一般臣民ハ皆統治者ニ對シテ普通ノ服從關係ヲ有ス。然ルニ國民タル資格ニ伴フ一般ノ服從關係ノ外、尙ホ官吏ニアリテハ特別ナル自由ノ束縛ヲ受クル地位ニ立ツモノナリ。併シ此ノ特別ノ服從關係タルヤ、臣民ノ服從關係

特別服從ノ關係

官吏ハ自然人ナリ

ノ如ク絶對的ノモノニアラズシテ、官吏トナル者ノ意思ヲ條件トシタルモノニ屬スルナリ。即チ自由意思ニヨリテ任官セラレタル以上、官吏タル地位ニ基ヅキ特別服從ノ關係ニ羈束セラレ、モノナリ。官吏服務規律ノ定ムル所即チ是ナリ。

五、官吏ノ資格

憲法第十九條 日本臣民ハ法律命令ノ定ムル所ノ資格ニ應ジ均ク文武官ニ任セラレ及其ノ他ノ公務ニ就クコトヲ得」此ノ規定ニヨリ官吏タルノ資格ハ法律及ビ命令ニヨリ定メ得ルモノトス。左ニ官吏ノ資格要件ヲ述ブベシ。

男子

第一 男子タルヲ原則トス。

一般ノ文官試験規則及ビ外交官試験規則ニ於テハ、男子タラザルベカラザルコトヲ規定ス。之レニヨリテ見レバ男子タルヲ原則トス。然レドモ女子モ法令ヲ以テ任用シ得ベキコトヲ定ムルカ、又ハ女子ヲ採用スル能ハズトノ規定ナキ以上ハ女子ヲ官吏ニ任ズルコトヲ妨グザルモノトス。

公權保有

第二 公權ヲ保有スルコト。

公權ヲ剝奪セラレタル者及ビ停止セラレタル者ハ官吏ニ任用セズ。蓋シ

懲戒ナキコト

年齡丁年以上

第三 懲戒處分ニ依リ免官セラレタル後滿二箇年ヲ經過シタル者ナルコト。

官吏ハ威嚴ヲ保持シ且信用ヲ有セザルベカラザレバナリ。

第四 年齡ハ普通丁年以上ナルコト。

文官試験規則ニ於テ受験資格ハ丁年ニ達スルモノナルヲ要スト。又會計検査官、行政裁判所評定官、郡長試験受験者ハ滿三十歲以上ナルコト。樞密顧問官ハ滿四十歲以上ナルコト等ノ規定アリ。

能力上資格

第五 能力上ノ資格ヲ備フルコト。

試験必要

(一) 試験ヲ要スルモノ。

行政官吏ヲ任用スルニハ試験合格者ヨリスルヲ原則トス。文官高等試験、文官普通試験、外交官及領事官試験等ノ試験ヲ受クルヲ要ス。

試験不要

(二) 試験ヲ要セザルモノ。

- (1) 親任式ヲ以テ任ゼラル、勅任官。
- (2) 教官、技術官特別ノ學術技藝ヲ要スル行政官。
- (3) 一定學校卒業者。

官公立中學校及ビ師範學校ノ卒業證書ヲ有スル者ハ判任文官ニ任用

- (4) 或年限以上一般若クハ特別ノ文官タル地位ヲ有セシ者。
- (5) 狹義ノ特別任用ニヨルモノ。

典獄郡長會計検査官視學官視學内閣書記官長内閣總理大臣及ビ各省大臣ノ秘書官等ハ特別任用ニヨルモノナリ。(上記ノ内ニ試験委員ノ證衡ヲ經ルヲ要スルモノト要セザルモノトアリ)

- (6) 文官任用令施行以前文官タリシモノ。(文官任用令明治三十四年四月十日施行)

官吏ノ資格ニ附帶シテ一言スベキコトアリ。ソハ外國人ヲ我が官吏トナスコトヲ得ルヤ否ヤノ問題ナリ。憲法第十九條ハ日本臣民ノ官吏トナル場合ヲ規定シタルニ止マルモノニシテ官吏タルニハ日本臣民ニ限ルトノ規定ニアラズ。又我が國法ニ於テ外國人ヲ官吏ニ任ズルコトヲ禁ジタルコトナキヲ以テ外國人モ我が官吏トシテ任用スルヲ得ルモノナリトス。

六官吏ノ種類

官吏ハ區別ノ標準ヲ異ニスルニ從ヒ種々ノ種類ヲ生ズ。左ニ任命ノ形式ニ依

外國人ト官

任命上種類

ル種類及ビ職務ノ性質ニ依ル種類ヲ述ブ。

第一任命ノ形式ニ依ル種類

官吏ハ任命ノ形式ニヨリ勅任官(親任官)普通勅任官(奏任官)判任官ノ三種ニ區別ス。而シテ勅任官及ビ奏任官ヲ高等官トス。高等官ハ之レヲ分チテ九等トシ其ノ上ニ親任官アリ。

親任官

勅任官 普通勅任官 (高等官一等及二等)

奏任官 (高等官三等ヨリ九等迄)

官吏

(一) 高等官

(二) 判任官 (一等ヨリ四等迄)

◎ 待遇

(一) 高等官

高等官ノ任免ハ天皇親ラ之レヲ行フ。其ノ中次ノ三種アリ。

(1) 親任官

親任官ハ任官ガ天皇ノ發意ニ基ヅクモノニシテ天皇親ラ任命セラル

親任官

高等官

普通勅任官

奏任官

、モノヲ云フ。内閣總理大臣各省大臣樞密院議長副議長顧問官陸海軍大將臺灣總督韓國統監副統監鐵道院總裁宮内大臣等ハ親任官ナリ。

官吏ヲ任ズル命令書ヲ官記ト云ヒ之レヲ免ズル命令書ヲ辭令書ト云フ。親任官ノ官記ニハ親署ノ後御璽ヲ鈐シ内閣總理大臣又ハ他ノ國務大臣年月日ヲ記入シ之レニ副署ス。親任官ノ辭令書ニハ御璽ヲ鈐シ内閣總理大臣又ハ他ノ國務大臣年月日ヲ記入シ之レヲ奉ズ。(公式令參照)

(2) 普通勅任官

普通勅任官ハ其ノ任官天皇ノ發意ニ係ルモノナレドモ其ノ任命ハ天皇親ラスルニアラズシテ内閣總理大臣之レヲ奉行スルモノナリ。奉行トハ勅命ヲ奉ジテ行フノ義ナリ。高等官一等二等官ヲ普通勅任官トス。次官局長陸海軍中將府縣知事等其ノ類多シ。

普通勅任官ノ官記ニハ御璽ヲ鈐シ内閣總理大臣年月日ヲ記入シ之レヲ奉ズ。普通勅任官ノ辭令書ニハ内閣總理大臣年月日ヲ記入シ之レヲ奉ズ。

(3) 奏任官

奏任官ノ任官ハ天皇ノ發意ニ繫ラズ内閣總理大臣之レヲ奏薦シ其ノ各省及ビ各省所屬ノ官廳ニ屬スルモノハ内閣總理大臣ヲ經由シテ主任大臣之レヲ奏薦シ。其ノ奏薦ニヨリ天皇之レヲ任用スルモノヲ云フ。

奏任官ハ高等官三等ヨリ九等迄ヲ云フ。

奏任官ノ官記ニハ内閣ノ印ヲ鈐シ内閣總理大臣年月日ヲ記入シ之レヲ宣ス。奏任官ノ辭令書ニハ内閣總理大臣年月日ヲ記入シ之レヲ宣ス。

(二) 判任官

判任官ハ天皇ノ委任ニヨリ各所屬ノ官廳之レヲ任免スルモノニシテ其ノ官記及ビ辭令書ニハ一定ノ形式ナシ。唯官廳ノ名ヲ署シタルモノニヨリ之レヲ行フ例トス。判任官ハ官等ヲ分チテ四等トス。任命ノトキハ官等ニ叙セラレザルヲ例トス。唯俸給書ニヨリ官等ヲ推測スルノミ。

以上述ベタル各官ノ中親任官勅任官奏任官ハ官廳ヲ組織スルコトアルモ判任官ハ殆ンド之レヲ組織スルコトナシ。

◎ 待遇官

待遇官

判任官

待遇官吏トハ相當官ノ禮遇ヲ受クベキ資格ヲ與フルニ過ギザルモノニシテ官吏ニアラズ。故ニ待遇官吏ハ唯其ノ禮遇及ビ保護ノ點ニ於テ、相當官ト同一ノ取扱ヲ受クルニ過ギザルモノニシテ、其ノ以外ノ事柄ニ付テハ特別ノ規程ナキ限り、官吏法ノ適用ヲ受クベキモノニアラズ。待遇官吏中ニ左ノ二種アリ。

(1) 本官ヲ有シ本官以上ノ待遇ヲ受クルモノ

此ノ待遇官ハ勿論官吏ナリ。其ノ官吏タルハ待遇官吏トシテ官吏タルニアラズ。既ニ官吏タル身分ヲ有スルガ故ニ官吏タルナリ。例ヘバ行政裁判所長、會計検査院長ハ普通勅任官ナレドモ、親任官ノ待遇ヲ受クルモノナリ。

(2) 本官ヲ有セズシテ一定ノ官ニ對スル待遇ヲ受クルモノ

此レ全ク純粹ノ待遇官ニシテ官吏ニアラズ。之レヲ一般ニ準官吏ト稱ス。例ヘバ府縣立中學校長及ビ高等女學校長ハ、奏任ノ待遇ヲ受クルガ故ニ待遇官ナリ。

第二、職務ノ性質ニヨル種類

文官ト武官

(一) 文官ト武官

軍隊ノ組織ニ缺クベカラザル、指揮官、經理部各官、衛生部各官、軍醫官、獸醫官等ノ官吏ハ之レヲ武官ト云フ。武官以外ノ官吏ヲ文官ト云フ。此ノ文武官ヲ區別スル必要ハ、或點ニ於テ適用セラルベキ法規ヲ異ニスルガ故ナリ。例ヘバ武官ノ犯罪及ビ懲戒ハ陸海軍刑法及ビ陸海軍懲戒令ニ依ルガ如シ。

(二) 司法官ト行政官

司法官トハ司法事務ヲ掌ル官吏ヲ云ヒ、行政官トハ行政事務ヲ掌ル官吏ヲ云フ。此ノ區別ハ文官ニツキテノ區別ナリ。司法官ノ意味ハ法文上一定セズシテ、或ハ裁判官ノミヲ指シ或ハ裁判官及ビ檢事ヲ指スコトアリ。

(三) 長官ト補助官

長官トハ自己ノ意思ニ依リテ行爲ノ決定權ヲ有スル者即チ官廳タルモノヲ云ヒ、補助官トハ長官ヲ補助スルニ止マリ行爲ノ決定權ナキモノヲ云フ。

(四) 技術官ト政務官

第三編 第六章 行政法 第二節 行政機關

司法官ト行政官

長官ト補助官

技術官ト政務官

技術官トハ特別ノ技能ヲ給付スル官吏ニシテ、教師、技師、政府設立病院ノ醫官等ヲ云フ。政務官トハ技術官以外ノ官吏ヲ云フ。コノ區別ハ其ノ登用ノ資格ニ關スル區別ナリ。

以上ノ外官吏ノ種類ニ有給官吏ト無給官吏トアリ。普通一般ノ官吏ハ俸給ヲ受クル有給官吏ナレドモ、高等官試補又ハ三等郵便局長ノ如キ俸給ヲ受ケザル無給官吏アリ。

七、官吏ノ權利

俸給權

第一、俸給ヲ受クル權

俸給ハ官吏ヲシテ其ノ地位相當ノ生活ヲ營マシメ、一意専心其ノ職ヲ行ハシメントスル爲メニ支給スル生活資料ナリ。官吏ノ俸給ヲ受クル權ハ公法上ノ權利ナリ。而シテ俸給ノ有無ハ官吏タルノ要件ニアラズト雖モ、官吏ハ通常其ノ全力ヲ捧ゲテ國家ニ奉ズルガ故ニ、他ノ生業ヲ求メテ生活ノ道ヲ講ズルノ暇ナシ。故ニ國家ハ官吏ニ對シ其ノ生活ノ資料ヲ給與スルノ義務ヲ負フモノナリ。

實費辨償權

第二、實費辨償ヲ受クル權

俸給ハ地位相當ノ生活資料ヲ給與スルモノナルヲ以テ、官吏ガ其ノ職務ヲ行フニ際シテ要スル費用ハ、固ヨリ俸給ヨリ支拂フ餘地ナク又俸給ヨリ支拂フベキモノニアラズ。コレ實費ノ辨償ヲ受クルノ權ヲ生ズル所以ナリ。實費辨償ハ其ノ名ノ如ク、理論上精密ニ實際ノ支出ヲ計算シテ給與スベキモノナリト雖モ、其ノ手續極メテ繁雜ナルガ故ニ、國家ハ便法トシテ一定ノ額ヲ定メ、之レニヨリテ旅費、日常治療費會費等ヲ支給スルヲ常トス。故ニ官給ハ實際ノ費用ニ比シ増減アルヲ免レザレドモ、剩餘ハ官吏ノ所得トナリ、不足スルモ追給スルコトナキモノナリ。(内國旅費規則、公使館領事館費用條例參照)

賜金權

第三、賜金ヲ受クル權

性質……退官後ニ與フル生活費ヲ恩給ト云フ

(一) 恩給

資格……在官十五年以上ニテ六十歳、疾病、休職滿期等ノ退官者

賜金

(二) 退官賜金……一年以上在官者ニシテ退官スル者ニ給スル一時賜金

(三) 遺族扶助料……官吏ノ死後其ノ遺族ニ生活費ヲ與フルモノ

(四) 死亡賜金……在官中死亡者ニ俸給及年數ニ應ジ一時賜金ヲ給ス

特別保護

第四、特別保護ヲ受クル權

第二編 第六章 行政法 第二節 行政機關

官吏ガ其ノ職務ヲ行フニ當リ特別ノ保護ヲ受クルモノナリ。其ノ保護ニ二種アリ。警察力又ハ兵力ノ如ク腕力ヲ以テ保護スルト、刑法ノ規程ヲ設ケ間接ニ官吏ニ對スル侵害ヲ保護スルトアリ。新刑法第九十條ニ「公務員ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス」トアリ。公務員中ニハ官吏ヲ包含スルモノナリ。

第五名譽表彰ヲ受クル權

名譽表彰中主ナルモノハ位階及ビ勳章ナリ。左ニ之レヲ述ブベシ。

(一) 位階

叙位條令第一條ニ「凡ソ位ハ華族勅奏任官及國家ニ勳功アル者又ハ表彰スベキ成績アルモノヲ叙ス」トアルニヨリ、勅奏任官ハ當然位ニ叙セラル、モノトス。位ハ十六階ニシテ各官等ニ從テ叙位ノ等差アリ。凡ソ從四位以上ハ勅授トシ宮内大臣之レヲ奉行シ、正五位以下ハ奏授トシ宮内大臣之レヲ宣行ス。位ハ刑法其ノ他特別ノ規定ニ於テ定メラレタル場合ヲ除クノ外、終身之レヲ有セシム。

(二) 勳章

勳章ハ國家ニ功ヲ立テ績ヲ顯ハスモノヲ褒賞表彰スルガ爲メ設ケタルモノナリ。是レ官吏ノミニ附與スルモノニハアラズ。明治二十五年內閣總理大臣ヨリ各官廳ニ達セラレタル明文第六條ニ「文武官宮内官積年勤勞シ其ノ成績顯著ナルトキハ之レヲ勸查シテ勳等ニ叙ス尙勤勞ヲ重ヌルニ從ヒ又之レヲ進級セシム」トアルニヨリ、官吏ハ官吏トシテ勳章ヲ受クルコトアルモノトス。

第六地位保持ノ權

官吏ハ其ノ地位ヲ確保シテ一意專心其ノ職務ヲ行ハシムルノ要アリ。此ノ官吏ガ其ノ地位ヲ保ツノ權ヲ分限ト稱ス。而シテ此ノ分限ハ其ノ官吏ノ地位如何ニヨリテ範圍及ビ程度ヲ異ニスルモノナリ。裁判官會計検査官行政裁判所評定官、檢事ハ、憲法又ハ法律ヲ以テ特別ニ其ノ地位ヲ保障セラル、ガ他ノ一般ノ文官ハ勅令即文官分限令ノ規定ニヨリ其ノ地位ヲ保障セラル、モノナリ。此ノ分限令ニ依ルトキハ一般文官モ終身ナルヲ原則トシ、唯特別ノ條件ニ合スルトキハ例外トシテ其ノ分限ヲ失ハシムルコトヲ得ルモノトセリ。其ノ例外ノ場合左ノ如シ。

- (1) 刑法ノ宣告ニ基ヅクトキ
- (2) 懲戒處分ニ依ルトキ
- (3) 不具癡疾傷痍疾病其他身體衰弱ノ原因ニヨリテ職務ヲ執ル能ハザルトキ
- (4) 官制ノ改正ニ依リテ官員ヲ超過シタルトキ
- (5) 廢官廢廳トナリシトキ
- (6) 休職滿期ト爲リシトキ

此ノ文官分限令ノ保障ヲ受クルコトナク、其ノ免官全ク自由ナルモノハ親任官公使秘書官等ナリ。

又文官分限令ニヨレバ一般文官ハ終身其ノ地位ヲ保ツヲ原則トスト雖モ、轉職轉所休職ハ自由ナルコト、セラレタリ。唯轉職中下級ニ轉ズル場合ハ、本人ノ同意ヲ要スルコト、ナセルノミ。次ニ休職ノ事項中官廳ノ都合ニ依リ必要ナルトキ休職ヲ命ズトアリ。而シテ休職期限ノ滿期ヲ退官トス。之レニヨリテ見レバ休職ハ全ク自由ニ命セラレ、其ノ期限滿期ハ退官トナルヲ以テ、我ガ文官分限令ニ於ケル官吏ノ地位保障ハ、甚ダ薄弱ナルモノト云フベキナリ。

八、官吏ノ義務及責任

第一、官吏ノ義務

官吏ハ天皇ニ隸屬シテ特別服從關係ニ立ツノ結果トシテ、官吏服務紀律ノ制裁ヲ受ク。其ノ第一條ニ曰ク「官吏ハ其ノ職務ニツキ天皇陛下及ビ天皇陛下ノ政府ニ對シテ忠順勤勉ヲ主トシ、法律命令ニ從ヒ各其ノ職務ヲ盡スベシ」今此ノ義務ヲ分類シ左ニ説述スベシ。

(一) 忠順ノ義務

忠順ノ義務トハ官吏ノ一身ヲ捧ゲテ忠實ニ其ノ職務ヲ執行スルヲ云フナリ。故ニ若シ全力ヲ盡サズ不注意ニ其ノ職務ヲ行フトキハ、官吏タルノ義務ヲ盡シタルモノニアラザルヲ以テ義務違反ノ制裁ヲ受クルモノナリ。コレ服務規律第一條ニ忠順ノ義務ヲ擧ゲ、而シテ文官懲戒令第二條ニ官吏ガ職務上ノ義務ニ違反シタル時ニハ、懲戒ヲ受クベキコトヲ規定セル所以ナリ。

官吏ノ義務ノ結果、官吏ハ官吏トシテ天皇陛下及ビ時ノ政府ニ反對スル運動ヲナスコトヲ得ズ。然レドモ若シ官吏ニシテ帝國議會ノ議員ヲ兼ネ

服從ノ義務

(二) 服從ノ義務

タル場合、又ハ選舉權ヲ有スル者ハ、政府ニ反對意見ヲ主張シ、又ハ政府反對黨ヲ投票スルガ如キハ、忠順ノ義務ニ反スルモノニアラズ。蓋シ官吏ハ特別ノ義務ヲ負フモノナレドモ、法律上特別ニ其ノ自由ヲ認メタル場合ハ此ノ限りニアラザルモノナレバナリ。

服從ノ義務トハ下級官吏ガ上官ノ命令ヲ遵奉スル義務ヲ云フ。服務規律第二條ニ「官吏ハ其ノ職務ニ付本屬長官ノ命令ヲ遵守スベシ但其命令ニ對シ意見ヲ述ブルコトヲ得」トアルハコレナリ。此ノ服從ハ數多ノ官吏ニ依リテ行ハル、國家行政ノ統一ヲ保ツガためナリ。然レドモ此ノ服從義務ハ、天皇ニ對スルガ如ク絕對無限ナルモノニアラズ。上官ノ命令ガ國家ノ事務ニ關シ、シカモ上官ノ權限内ニ屬シ、且適法ノ形式ニ從テ發セラレタルモノタラザルベカラズ。若シ下級官吏ガ上級官吏ノ命令ヲ違法ナリト認定シタル場合ニハ、常ニ之レガ服從ヲ拒ムコトヲ得。併シ其ノ實違法ノモノニ非ザリシトキハ、服從ヲ拒ミタル制裁トシテ懲戒處分ヲ受クルヲ免レザルヲ得ザルナリ。

品位ヲ保ツ義務

(三) 品位ヲ保ツ義務

官吏ノ威信ハ政府ノ威信ナリ。故ニ國家ハ官吏ヲシテ其ノ品位ヲ保タシム。蓋シ官吏ニシテ威信ヲ損スルトキハ其ノ信用ヲ害シ、從テ政府ノ威信ヲ害シ信用ヲ損シ、施政上妨害ヲ受クルコト少ナカラザルヲ以テナリ。服務規律第三條ニ曰ク「官吏ハ職務ノ内外ヲ問ハズ廉恥ヲ重シ貪汚ノ所爲アルベカラズ官吏ハ職務ノ内外ヲ問ハズ威權ヲ濫用セズ謹慎懇切ナルヲ務ムベシ」。同第八條ニ曰ク「官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非ザレバ其ノ職務ニ關シ慰勞又ハ謝儀又ハ何等ノ名義ヲ以テスルモ直接間接ヲ問ハズ總テ他人ノ贈遺ヲ受クルコトヲ得ズ」。同第十條ニ曰ク「凡ソ上官タル者ハ職務ノ内外ヲ問ハズ所屬官吏ヨリ贈遺ヲ受クルコトヲ得ズ」同第十四條ニ曰ク「浪費シテ產ヲ破リ其ノ分ニ應ゼザル負債ヲ爲ス者ハ過失ノ一タルベシ」トアリ。又官吏懲戒令第二條ニ「官吏ノ懲戒ヲ受クベキ場合左ノ如シ」職務ノ内外ヲ問ハズ官職上ノ威嚴又ハ信用ヲ失フ可キ所爲アリタルトキト規定セリ。

(四) 秘密ヲ守ルノ義務

秘密ノ義務

官吏ハ施政上ノ妨害ヲ蒙ルヲ防ガンガ爲メニ、秘密ヲ守ルノ義務ヲ負ハシメラル、モノナリ。其ノ秘密ハ國務ニ關スルコトト、一私人ニ關スルコト、アリ。服務規律第四條ニ曰ク「官吏ハ己ノ職務ニ關スルト又他ノ官吏ヨリ聞知シタルトヲ問ハズ官ノ機密ヲ漏洩スルコトヲ禁ズ其職ヲ退ク後ニ於テモ亦同様トス。裁判所ノ召喚ニ依リ證人又ハ鑑定人ト爲リ職務上ノ秘密ニ就キ質問ヲ受クルトキハ本屬長官ノ許可ヲ得タル件ニ限り供述スルコトヲ得。」同第五條ニ曰ク「官吏ハ私ニ職務上未發ノ文書ヲ關係人ニ漏示スルコトヲ得ズ」トアリ。之ニヨリテ見レバ秘密ヲ守ルノ義務ハ在官中ノミナラズ、退官後ト雖モ之レヲ守ルノ義務繼續ス。又職務上ノ秘密ニツキ訊問ヲ受クルモ、默秘スベキ義務アル事情ニ關シテハ其ノ供述ヲ拒ムコトヲ得ルモノトス。

(五) 權利ノ制限

官吏ハ官吏タルガ爲メニ、其ノ權利行爲ノ上ニ大ナル制限ヲ受ク。左ニ其ノ主ナルモノヲ述ブベシ。

(1) 居住地ノ制限ニツキテ、服務規律第六條ニ曰ク「官吏ハ本屬長官ノ許可ナ

第二、官吏ノ責任

官吏ガ其ノ身分上負擔スル義務ニ違反シタル場合ニハ責任ヲ生ズ。之レヲ分チテ三種トス。左ノ如シ。

官吏ノ責任

- 公法上
 - 官吏法上ノ責任……(一)懲戒上ノ責任(懲戒)
 - 刑法上ノ責任……(二)刑事上ノ責任(刑罰)
- 私法上……民事法上ノ責任……(三)民事上ノ責任(損害賠償)

(一) 懲戒上ノ責任

懲戒トハ官吏法ノ義務ニ違反シタル官吏ニ對シ、其ノ責任ヲ問フノ制裁ニシテ、職務上ノ義務ヲ強制シ又ハ其ノ違反者ヲ淘汰スル爲メニ此ノ制ヲ

設タルナリ。官吏懲戒法ノ主ナルモノハ、文官懲戒令、判事懲戒法、會計検査官懲戒法、行政裁判所長官評定官懲戒令、陸軍懲罰令、海軍懲罰令等ナリ。

一般ノ文官ニ對スル懲戒ハ、分テ免官、減俸、譴責ノ三種トス。免官ハ官吏タル身分ノ剝奪ナリ。減俸ハ俸給ノ幾分ヲ國庫ニ沒收スルモノニシテ、一箇月以上一年以下ノ間ニ於テ、月俸額三分ノ一以下ヲ毎月減給スルモノナリ。譴責ハ叱正シテ其ノ義務違反ヲ尤ムルヲ云フ。免官ハ淘汰懲戒ニシテ將來ヲ警戒スル目途ナキ處分ヲ云ヒ、減俸譴責ハ矯正懲戒ニシテ義務違反ノ官吏ニ對シ將來ヲ警戒改善スルヲ目的トスルモノヲ云フナリ。一般ノ文官ヲ懲戒スル手續ハ、懲戒委員會ノ議決ニ依リ之レヲ行フモノトス。本屬長官ハ譴責ヲ行フニ止マルモノトス。

(二) 刑事上ノ責任

官吏ノ所爲ハ單ニ官紀ヲ亂スノミナラズ、同時ニ國家全體ノ秩序ヲ紊亂スルコトアリテ懲戒處分ノミヲ以テ足レリト爲ササル場合アリ、斯ノ如キ場合ニ於テハ官吏ノ行爲ニ對シ刑罰ヲ科セラル、コトナリ。此ノ刑罰ヲ科セラル、責任ヲ稱シテ、刑事上ノ責任ト云フ。此ノ刑事上ノ責任ハ刑法

懲戒ノ種類

官責ノ種類

刑事上ノ責任

民事上ノ責任

私人ニ對スル責任

ニ於テ、官吏職務上ノ犯罪ヲ定メテ之レガ刑罰ヲ設ク。職務上ノ犯罪トハ其ノ職權ノ濫用ニ依リテ、他ノ法律利益ヲ侵害シタル場合ヲ云フ。現行刑法第二十五章瀆職ノ罪トシテ職權濫用罪及ビ賄賂罪ノ規定ハ、刑事上ノ責任ノ重モナルモノナリトス。

(三) 民事上ノ責任

官吏ノ民事上ノ責任トハ官吏ノ職務上ノ不法ナル行爲ニ依リテ、第三者ニ損害ヲ與ヘタル場合ニ於ケル損害賠償ノ責任ヲ云フ。此ノ民事上ノ責任ハ官吏ノ權限ノ内外ニヨリ異ルコト左ノ如シ。

權限外 官吏ノ權限外ノ所爲ニヨリ第三者ニ損害ヲ與ヘタルトキハ、原則ニヨリ損害賠償ノ責ニ任ズベキモノトス。

私法上ノ關係 官吏ガ私法上ノ關係ニ於テ國家ヲ代表スル場合ニハ、民法ノ規定ニヨリ損害賠償ノ責ニ任ズベキモノナリ。此ノ責ニ任ズベキモノハ國家自身ニシテ官吏ニアラズ。

〔權限内〕

公法上ノ關係

官吏ガ公法上ノ關係ニ於テ國家機關トシテ行動シ、第三者ニ損害ヲ加ヘタル場合ニハ民法ノ規定ヲ適用セザルモノナリ。此ノ場合ニハ官吏ノ行爲ハ國家ノ行爲ナリ。故ニ官吏ハ特別ノ明文アルニアラザレバ自ラ其ノ賠償ノ責ニ任ゼザルモノトス。

權限外

官吏ノ權限外ノ行爲ハ一私人ノ行爲ナルニヨリ、國家ニ損害ヲ加ヘタル場合ニハ民法上ノ不法行爲ナレバ損害賠償ヲ生ズルモノナリ。

國家ニ對スル責任

權限内

官吏ノ權限内ノ行爲ハ其ノ私法上ノ行爲タルト公法上ノ行爲タルトヲ問ハズ、民法ノ規定ノ適用ヲ受クベキモノニアラズ。國家ト官吏トノ關係ハ私法上ノ關係ニアラザルヲ以テ、公法ノ規定ニ依リテ支配セラルベキモノナリ。故ニ官吏ノ國家ニ對スル賠償責任モ亦特別ノ規定アル場合ニノミ責任ヲ有スルモノナリ。

九、官吏關係ノ消滅

官吏關係ハ左ノ事由ニヨリ消滅スルモノナリ。

第一、死亡

第二、刑事裁判所ノ宣告ノ結果ニヨリ其ノ官ヲ失フコト。

第三、懲戒處分ニヨリ免官。免官後二箇年間就官スルヲ得ズ。又恩給權ヲ失フ。

第四、期限ノ滿期退官。即チ休職官吏及待命官吏ノ期間滿期ハ當然退官ス。

第五、辭職。疾病其ノ他自己ノ便宜ニヨリ免官ヲ願出デ許可セラル、トキ。

第六、廢官又ハ廢廳ノ場合ノ退官。

第七、官制又ハ定員ノ改正ニヨリ過員ノ場合ニ於ケル免官。

第八、不具廢疾又ハ身體及精神ノ衰弱ヲ原因トセル免官。

備考

(1) 官吏ト公吏

官吏ノ特徵ハ任官ニ在リ。故ニ天皇又ハ其ノ委任ヲ受ケタル者ヨリ、勅奏、判任官トシテ任命ヲ受ケタルモノヲ官吏ト云フ。故ニ任官ノ形式ニヨラザル者ハ官吏ニアラズ。而シテ官吏ニアラザル者ノ中ニテ、公吏

備考
官吏ト公吏

トハ如何ナル者ナリヤ。公吏トハ公共團體ノ吏員中、外部ニ向テ其ノ事務ヲ執行スル機關ヲ構成スル所ノ市參事會員、町村長、市町村助役、收入役等ヲ云フ。從テ議事機關ノ組成員タル市町村會議員ハ公吏ニアラズ。此ノ公共團體以外ノ公吏ニツキテハ、各法規ノ決スル所ニ依ルノ外ナシト雖モ、現行法ノ上ニ於テハ、裁判所ニ隸屬シテ、公ノ事務ヲ執ル執達吏及

公證人ニ止マルガ如シ。

(2) 宮中儀式上席次

宮中儀式上席次左ノ如シ。

大勳位内閣總理大臣、元帥各大臣、樞密院議長、陸海軍大將、待命全權大使、侍從長、樞密院副議長、親任官、親任官待遇、旭日桐花章、公爵、從一位、勳一等

旭日章及瑞寶章

(一) 等式部長官、掌典長、皇后宮大夫、高等官一等、候爵、正二位

(二) 等高等官二等、麝香間祇候、錦鷄間祇候、勅任待遇、伯爵、從二位、勳二等

旭日章及瑞寶章、子爵、正三位、從三位、勳三等、旭日章及瑞寶章、男爵、正四位

從四位

(二等ヨリ九等迄)官等ノ順ニ從フモノトス。

第二款 中央官廳 (Central Authorities)

一、内閣 (Cabinet)

第一、内閣ノ設置

明治十八年十二月ノ官制改革ニヨリ、太政官ノ制ヲ廢シ、内閣ノ制ヲ採ルニ至レリ。當時ノ太政大臣、公爵三條實美上表シテ、其ノ職ヲ辭シ、且ツ舊制ヲ改メテ「内閣」ヲ以テ、宰臣會議御前ニ事ヲ奏スルノ所トシ、萬機ノ制專ラ簡捷敏活ヲ主トシ、諸宰臣入テハ、大政ニ參シ出テハ、各部ノ職ニ就キ均シク陛下ノ手足耳目タリ而シテ、其中一人ヲ選ビ專ラ中外ノ職務ニ當リ旨ヲ承ケテ宣奉シ以テ、全局ノ平衡ヲ保持シ以テ、各部ノ統一ヲ得セシムベシ、此レ乃祖宗簡實ノ政親裁ノ體制ニシテ、立憲ノ義亦是ニ外ナラズ」トシ、陛下ノ裁斷ヲ請フ。因リテ詔シテ、其ノ義ヲ容レ、太政官ヲ廢シ、從來ノ制各省太政官ニ隸屬シ、處務敏活ナラザルノ弊ヲ改メテ、各省ノ長官ヲ以テ直ニ天皇ニ隸スル最高官廳トシ、内閣ハ各省長官ガ機務ヲ合議シ之レヲ陛下ニ上奏スルノ機關トナシ、而シテ内閣

總理大臣ヲ以テ内閣ノ首班トナシ、各省間ノ統一ヲ保タシム。維新以來ノ官制爰ニ一變シテ内閣制度始メテ完成スルコトヲ得タリ。

第二、内閣ノ組織

内閣ハ國務各大臣ヲ以テ組織スル合議制ノ官廳ナリ。即チ内閣總理大臣及ビ各省大臣ヲ以テ組織スルヲ通常トス。然レドモ此ノ外特ニ勅旨ニ依リ、國務大臣トシテ内閣ニ列セシメラル、コトアリ。之レヲ無定省ノ大臣ト云フ。從來ノ實例ニ於テハ樞密院議長ガ時トシテ内閣ニ列セメシラレタル例アリ。

第三、内閣ノ權限

内閣ノ權限ハ之レヲ分チテ二トス。一ハ行政官廳トシテノ權限ニシテ、一ハ憲法上ノ大權輔弼トシテノ權限ナリ。而シテ内閣官制第五條ニ列記セル閣議ヲ經ベキ事項ヲ見ルニ、殆ンド天皇ノ大權事項ニ屬スルモノニシテ、行政官廳トシテノ權限ハ甚ダ尠シ。故ニ内閣ハ憲法上ノ機關トシテ重要ナル地位ヲ占ムルモノト云フベシ。

(一) 内閣行政官廳權限

(1) 土地收用法ノ適用ヲナスベキ公益事業ナルヤ否ヤノ認定ヲナスコト。

(土地收用法第十二條)

(2) 各省大臣主管權限ノ爭議ヲ裁定シ若クハ主管ノ不明ナル二省以上ニ關スル事務ノ主管ヲ定ムルコト(内閣官制五條ノ四、及各省官制通則二條)

(3) 各省主任事務中高等行政ニ關スル重要ナルモノニ付キ決定スルコト(内閣官制五條ノ末項)

(4) 主任大臣ヨリ閣議ヲ求メタル事項ニ關シ其ノ決定ヲナスコト。

右四項ハ内閣ノ行政官廳トシテ、外部ニ對シテ決定權ヲ有スル事項ナリ。而シテ内閣ガ各省大臣ノ上級官廳トシテ指揮權ヲ有シ拘束力ヲ有スルハ以上四項中(2)(3)ノ二項ニ止マルモノナリ。故ニ他ノ上下官廳ノ凡テニ對シ拘束力ヲ有スルモノトハ其ノ間大ナル差異アリ。從テ内閣ハ純然タル行政官廳ニアラズシテ、特別ニ法令アル場合ニ限り行政官廳タル性質ヲ有スルノミナリト謂フベシ。

(二) 内閣憲法上大權輔弼ノ權限

國務大臣ハ各自天皇ヲ輔弼シ其ノ責ニ任ズルモノナレドモ、各大臣相集

マリテ以テ輔弼ノ事ヲ議スルヲ妨グズ。此ノ目的ノ爲メニ設ケラレタル國務大臣合議府ハ、内閣ノ重要ナル方面ニ屬スルモノナリ。コハ憲法上ノ職務ニ關スルモノニシテ行政法ノ關スル所ニアラザレドモ、便宜ノ爲メ茲ニ述ブルコト、セリ。左ノ事項ハ内閣官制五條ニ列記セルモノ、中、大權事項ニ關スル事項ニシテ閣議ヲ經ベキモノニ屬ス。而シテ此ノ閣議ハ決定權ヲ有セザルモノニシテ、固ヨリ天皇ヲ拘束スル力アルモノニアラズ。天皇ハ自由ニ其ノ少數意見ヲ採用スルコトヲ得ベク、又全ク閣議ヲ採用セザルコトヲ得ルモノナリ。故ニ憲法上獨立ノ官廳タル性質ヲ有スルモノニアラズ。

- (1) 法律案及豫算決算案 (内閣官制第五條閣議事項 以下同ジ)
- (2) 外國條約及重要ナル國際事件
- (3) 官制又ハ規則及法律施行ニ係ル勅令
- (4) 天皇ヨリ下附セラレ又ハ帝國議會ヨリ送致スル人民ノ請願
- (5) 豫算外ノ支出
- (6) 勅任官及地方長官ノ任命及進退

二、内閣總理大臣 (Premier)

内閣總理大臣ハ國務大臣トシテ憲法上及ビ政治上最モ重キヲ爲スモノナリト雖モ、行政法上ノ官廳トシテノ權限ハ比較的狹少ナリ。政治上ノ實際ニ在リテハ、總理大臣ハ内閣全體ノ首班タル地位ヲ占ムルハ勿論、國務各大臣ノ選任ニ付テモ主トシテ總理大臣ノ指定推薦ニ基クモノニシテ、行政各部ノ事務ニ付テモ其ノ大體ノ方針ヲ授ケテ、其ノ間ノ調和統一ヲ保ツハ主トシテ總理大臣ノ方寸ニ在ルナリ。又外ニ對シテ内閣ヲ代表スルノ權ハ專ラ總理大臣ニ屬ス。閣議ノ結果ヲ奏上シテ裁可ヲ仰グコトモ亦總理大臣ノ任務ナリ。左ニ總理大臣ノ行政官廳トシテノ權限ヲ主副ノ二項ニ分チ之ヲ述ブベシ。

第一、内閣總理大臣ノ主權限

主タル權限トハ總理大臣ガ各大臣ノ首位ニ在リテ、内閣全體ヲ調和統一スルノ權限ヲ云フ。

- (一) 内閣總理大臣ハ各大臣ノ首班トシテ機務ヲ奏宣シ旨ヲ承ケテ行政各部ノ統一ヲ保持ス(内閣官制第二條)
- (二) 内閣總理大臣ハ須要ト認ムルトキハ行政各部ノ處分又ハ命令ヲ中止セ